

令和2年度 社会福祉法人三幸会 事業報告

- (1) 法人本部 拠点区分 事業報告
- (2) 三幸の園 拠点区分 各サービス区分 事業報告
 - (A) 特別養護老人ホーム三幸の園
 - (B) 短期入所施設三幸の園
 - (C) 三幸の園指定居宅介護支援事業所
- (3) 山崎園 拠点区分 各サービス区分 事業報告
 - (A) 特別養護老人ホーム山崎園
 - (B) ユニット型特別養護老人ホーム山崎園
 - (C) 短期入所施設山崎園
 - (D) ユニット型短期入所施設山崎園
 - (E) やまざきデイサービスセンター
 - (F) やまざきホームヘルパーステーション
 - (G) グループホームやまざき
 - (H) 山崎園居宅介護支援事業所
 - (I) 生活支援ハウス山崎
- (4) 神ヶ谷園 拠点区分 事業報告
- (5) 大平台の園 拠点区分 各サービス区分 事業報告
 - (A) 三幸の園デイサービスセンター
 - (B) 三幸の園ホームヘルパーステーション
 - (C) 訪問看護ステーション大平台
 - (D) 地域包括支援センター大平台
 - (E) ユニット型短期入所施設三幸の園
- (6) ライフケアアダージョ大平台 拠点区分 事業報告
- (7) 松城 拠点区分 各サービス区分 事業報告
 - (A) 松城デイサービスセンター
 - (B) 松城指定居宅介護支援事業所

社会福祉法人三幸会法人本部 令和2年度事業報告

①総論

令和2年度の一年間は終始、新型コロナウイルス感染症防止と入居者様・利用者様ならびに職員の安全を最優先に、安心した施設環境作りの構築に力を入れた一年となりました。徹底した感染症予防のハード対策と意識・制限・行動の共有化、本人・ご家族含めた自粛活動、面会の制限のご協力により、おかげさまを持ちまして、年度内、関係者の感染者ゼロで乗り切ることができました。

また、感染症予防によるコミュニケーションの新たな媒体として、『Zoom』を使ったリモート会議、リモート研修、リモート施設説明会など、働き方改革の一端を担うまで一気に加速しました。そのための必要な機材となる環境整備と使いこなすための勉強会を多く設定するなど、ニューノーマルへの行動変容による効率化と生産性向上を先導してまいりました。

当法人最大の目玉となる高齢者総合福祉施設『大平台の園』の令和2年5月1日よりの新規立ち上げにおいては、全国的な蔓延である緊急事態宣言時期と重なり、サービス付き高齢者向け住宅への入居キャンセルが相次ぎ、同時に、ショートステイやデイサービス・ホームヘルパー・訪問看護の利用控えも一部であり、未知の感染症の恐怖感が集団生活だけでなく、人と対峙する当事業全般に及ぼす影響の大きさをあらためて感じたものとなりました。

年間トータルで見れば、第一種社会福祉事業の特別養護老人ホーム3施設、救護施設1施設を大きな母体とし、ほぼ満床を維持できております。

第二種社会福祉事業の4箇所の短期入所施設、3箇所のデイサービスセンター・グループホームなどの在宅関連事業所の併設により、福祉の入口から終末にかけて循環的支援が提供できており、ご家族様にも安心できる施設として、第一種社会福祉事業を支えています。

公益事業におきましても、3箇所の居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、生活支援ハウス、サービス付き高齢者向け住宅、地域包括支援センターの事業により、要介護者・要支援者のその方に合った支援を提供しておりますが、要求事項の複雑化・多様化・高難易度化により、一層の多職種連携への期待が高まっております。

ミクロ視点となる個々のサービス事業所においては課題の多い事業所もありますが、マクロ視点においては、大平台の園創設が様々なサービス事業において相乗効果を生み、最終的には売上高前年度比111%を達成することができ、地域社会における当法人の存在価値が一割増という結果になりました。

また、新型コロナウイルスにより来日延期が続いておりました技能実習生が、8ヶ月遅れの令和2年12月来日、令和3年1月より中国西安より3名の受け入れを開始し、将来に向けた人材確保の新たな道が開けたものと考えます。

②理事会・定時評議員会の開催

決算事務をはじめ、予算／補正予算、事業計画および事業報告、法人内重要案件発生の時を見計らって必要に応じて定款に基づく理事会を開催いたしました。

また、定款に基づく定時評議員会を開催いたしました。

評議員・理事・監事・施設長の皆様の出席を賜り、ありがとうございました。

(1) 第一回理事会 令和2年5月23日(土)

内容：監事による監査報告、平成31年度事業報告、総括決算
事業所別決算、財産目録と資産変更登記、役員等報酬総額
社会福祉充実計画、理事長専決報告と理事長職務執行状況
定款変更、苦情報告、令和2年度定時評議員会開催案
法人発生案件

(2) 定時評議員会 令和2年6月13日(土)

内容：監事による監査報告、平成31年度事業報告、総括決算
事業所別決算、財産目録と資産変更登記、社会福祉充実計画
理事長職務執行状況、役員等報酬総額、定款変更
法人発生案件

(3) 第二回理事会 令和2年12月12日(土)

内容：令和2年度第一次補正予算、大平台の園建設特別会計決算
令和2年度社会福祉施設等の指導監査実施結果、
規程の追加変更、理事長専決報告と職務執行状況、苦情報告、
法人発生案件

(4) 第三回理事会 令和3年3月27日(土)

内容：令和2年度最終補正予算、令和3年度事業計画、
令和3年度予算、令和3年度施設長・副施設長選任、
令和3年度施設診療所医療契約、厨房給食業務委託契約、
諸規程の追加改正、理事長専決と職務執行状況、苦情報告、
中国人技能実習生状況、法人発生案件

③監査の開催

各施設・事業所運営や法人運営を第三者の目で適正に監査をしていただきました。
監査官の皆様の出席を賜り、誠にありがとうございました。

(1) 月次会計監査 毎月一回14日頃

監査官：田中範雄公認会計士事務所

内容：令和2年度社会福祉法人三幸会各事業所 月時監査

(2) 決算会計監査 令和2年4月28日(火)

監査官：田中範雄公認会計士事務所

内容：平成31年度社会福祉法人三幸会各事業所 決算監査

- (3) 事務処理体制向上支援業務 令和2年5月16日(土)
 監査官：田中範雄公認会計士事務所
 内容：平成31年度財務会計に関する事務処理体制向上支援業務
- (4) 監事による監査 令和2年5月19日(火)
 監査官：社会福祉法人三幸会 監事
 内容：平成31年度決算監事による監査の実施
- (5) 社会福祉施設等指導監査 令和2年9月10日(木)11日(金)
 監査官：浜松市健康福祉部福祉総務課指導監査室
 内容：三幸の園・神ヶ谷園・山崎園・ユニット型山崎園 監査

④事業部制・プロジェクト制

平成25年度より施設間・事業所間を横断、集結できる事業部制管理、プロジェクト制管理を法人本部主導で加えてまいりました。

事業部長・プロジェクト長をはじめとするメンバーが率先して、現状分析した上で、全体最適の下、同一課題の標準化・見える化・見せる化・自立化・チーム化・横の繋がり強化・営業力強化・思考力強化・責任感醸成・人材交流を図り、見直すべき部分は改善する権限委譲とマネジメント強化ができました。

令和2年度は以下の事業部制・プロジェクト制により、現状把握から改善へと社会福祉事業を側面から支援し、一步前進することができました。

特に、真善美絆和変の視点からの各プロジェクトにおいて、積極的に活動を推進しつつ、各事業部や各プロジェクトとも上手に連携して取り組む姿が良く見られ、ボトムアップの仕組みを感じました。

明確な形として目に見える、成果物がある、働く上での思考変革の内容が多かったように感じております。

各事業部・プロジェクトの活動報告は別添します。

(1) 3事業部

在宅部門事業部	HWD (Homecare Welfare Division)
高齢者施設部門事業部	EWD (Elderly Welfare Division)
保護施設部門事業部	PWD (Protection Welfare Division)

(2) 6プロジェクト 真善美絆和変

満足感向上プロジェクト	SMP (Manners Management Project)	真
接遇マナー推進プロジェクト	MMP (Manners Management Project)	善
環境整備推進プロジェクト	EMP (Environmental Management Project)	美
広報推進プロジェクト	IMP (Information Management Project)	絆
ありがとう推進プロジェクト	TMP (Thank you Management Project)	和
働き方改革推進プロジェクト	WMP (Workstyle Management Project)	変

⑤法人内外研修会等の積極的展開

各施設内のOJT・OffJT勉強会や各種会議・委員会活動・内部研修・外部研修のほか、法人内職員の福祉サービスの質の向上・人間力向上・思考力向上・内部コミュニケーション向上のために、組織的に人材への先行投資をしてまいりました。同時に法人としての理念や人間力向上のための共通言語として、体系的な教育の場を設けました。

ただし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防による研修中止が相次いだり、Zoom等を使用したリモート研修が多く入り、新たな研修スタイルの構築を進めてまいりました。

また、新たな試みとして大平台の園多目的室にて「映画 二宮金次郎」の上映を合計10回開催し、入居者様・職員・ご家族様・厨房業者様・友人・知人など多数の参加をいただき、豊かな心の情操教育を高めてまいりました。

以下は法人本部で主導してまいりました一例です。

毎月	パフォーマンス研修	柔らかな言葉と、笑顔で滑舌良く 認トレ知識と、利他の配慮を
4月	新入職員事前研修	福祉社会人としての事前準備、各職種より講義
6月	キャリアアップ研修	役職者の役割と人事考課
6月	新入職員若年職員研修	仕事をする意味、目標設定
7月	ステップアップ研修	安全運転について：和久田施設長
7月	キャリアアップ研修	コミュニケーション向上プログラム
8月	キャリアアップ研修	メンタルヘルス不調とセルフケア・ラインケア
8月	ステップアップ研修	高齢者の権利擁護と社会資源：中西施設長
9月	キャリアアップ研修	リーダーシップ
9月	ステップアップ研修	尊厳死：鈴木施設長
10月	キャリアアップ研修	コーチングの基本
11月	聖隷クリスファー大学研修	福祉のブランド価値、アンガーマネジメント
11月	キャリアアップ研修	経営経理管理、リスクマネジメント、広報
11月	ステップアップ研修	福祉施設における危機管理：藤田副施設長
12月	キャリアアップ研修	統計数字・同業種・異業種に学ぶ思考変革
12月	ステップアップ研修	地域包括支援センターの業務と役割：今野係長
12月	職員自由参加研修	多文化共生と中国語
1月	キャリアアップ研修	ビジョン
2月	キャリアアップ研修	5S、ホスピタリティ
2月	ステップアップ研修	在宅介護サービスの種類と特徴：吉田係長
3月	3年目職員研修	役割、振り返り、生き生きした組織作り
3月	ステップアップ研修	生活保護制度の概要と見学：竹村施設長
1～3月	映画上映会	映画 二宮金次郎

⑥情報発信ならびに地域交流

(1) 事業計画・事業報告・財務諸表・現況報告書公開

- ・社会福祉法人三幸会ホームページにて事業計画承認後、3/27 即日一般公開
- ・社会福祉法人三幸会ホームページにて決算承認後、5/23 即日一般公開
- ・各施設入口にて決算承認後、5/23 即日施設内閲覧一般公開
- ・社会福祉法人三幸会ホームページにて現況報告、即日一般公開
- ・独立行政法人福祉医療機構WAMNETにて財務諸表一般公開
- ・法人便りWith You 令和2年 8月号 Vol.64 にて一般公開

(2) 法人便りWith You 広報誌発行と送付

広報推進プロジェクト IMP (Information Management Project) 主導による合計7回、広報誌の発行ができました。

- ・法人便りWith You 令和2年 5月号 Vol.63
- ・法人便りWith You 令和2年 8月号 Vol.64
- ・法人便りWith You 令和2年 11月号 Vol.65
- ・法人便りWith You 令和2年 12月号 法人特別号
- ・法人便りWith You 令和2年 12月号 クリスマス特別号
- ・法人便りWith You 令和3年 2月号 Vol.66
- ・法人便りWith You 令和3年 3月号 法人特別号

(3) 三幸会ブログ：介護の舞台裏投稿

広報推進プロジェクト IMP (Information Management Project) 主導による合計158回、年間2.31日に1回の情報発信ができました。

- ・4月 10回、 ・5月 11回、 ・6月 12回、 ・7月 17回
- ・8月 14回、 ・9月 12回、 ・10月 12回、 ・11月 15回
- ・12月 18回、 ・1月 11回、 ・2月 13回、 ・3月 13回

(4) 求人活動リクナビ2021ならびに新聞チラシ挿入活用

平成31年度後半から令和2年度にかけてリクナビ2021、大平台の園開設のための入居者募集・求人募集、Zoomを使った施設説明会のための新聞チラシを一部活用し、新卒者・中途者の求人採用活動を行いました。

その結果、将来の三幸会を支える貴重な新入職員、中途職員の採用獲得ができました。

(5) PR動画

広報推進プロジェクト IMP (Information Management Project)、高齢者施設部門事業部 EWD (Elderly Welfare Division) などによる独自のPR動画を作成し、三幸会のホームページにアップしました。

- ・高齢者総合福祉施設大平台の園 令和2年7月3日
- ・リクナビ2022三幸会フェイスムービー 令和3年1月4日
- ・社会福祉法人三幸会 スポット求人動画 令和3年1月19日

⑦地域社会への公益的取り組み

社会福祉法人における運営から経営への転換、経営主体間のイコルフットイング確立が叫ばれる中、別表の公益的取り組みを実施いたしました。

ただし、新型コロナウイルス感染症予防により雄踏町山崎地区ロコトレサロン、大平台健康フォーラムなどは、取り組みを中止した案件もございます。

また、ほぼ一年を継続してボランティアによる慰問は自粛をしていただきました。そのような環境下、できるかぎりの公益的取り組みを実施し、社会福祉貢献度の高い低いはございますが、社会福祉事業・公益事業のみならず、各事業所業務の枠を飛び越えたこれらの総合的な取り組みが三幸会の存在価値を地域社会に向けて拡大認識していただけていることと考えます。

具体的内容についてはは別添します。

⑧借入金償還状況

令和2年度末における借入金償還状況は以下のとおりです。

今後も適正に償還をしまいいたく存じます。

(1)借入先：独立行政法人福祉医療機構

借入目的	借入金額	契約年月日	返済期限	
山崎園建設資金	241,000,000円	2002年1月21日	2022年1月10日	
年度末借入残高	返済日	年間返済額	利息	借入期限
12,050,000円	2021年1月10日	12,050,000円	1.60%	20年
支払事業所	特別養護老人ホーム山崎園/短期入所施設山崎園			

(2)借入先：静岡銀行入野支店

借入目的	借入金額	契約年月日	返済期限	
大平台の園建設資金	200,000,000円	2020年4月21日	2030年4月30日	
年度末借入残高	返済日	年間返済額	利息	借入期限
181,663,000円	2021年3月31日 毎月末日	20,000,000円	0.28%	10年
支払事業所	ライフケアアダージョ大平台/三幸の園デイサービスセンター 地域包括支援センター大平台/ユニット型短期入所施設三幸の園			

特別養護老人ホーム三幸の園 令和2年度事業報告

【基本方針】

施設理念に基づき、ご利用者様が住み慣れた地域で尊厳を持って安心した生活が送れるよう、ご利用者様本位の生活支援を提供します。多職種が協働し統一したチームケアを提供するため、報告、連絡、相談を行い情報の共有に努めると共に、介護の質の向上に向けた取り組みを行い顧客満足の高いサービスを目指します。

【生活相談員重点項目】

①ご家族との良好な関係の維持

(1)新型コロナウイルス感染症対策により、面会制限をする期間が多くなりました。直接ご家族様とコミュニケーションをとる機会が少なくなりましたが、関係維持の為に必要に応じて電話、写真を送る等の対応をしました。

(2)家族会含む、ご家族様参加の行事は中止しました。ケアプラン説明会も中止が多く、7月と10月の2回のみ開催としました。

(3)ZOOMやSkype等のICT機器の導入をし、ご家族様へ案内を送付、面会の対応をしました。接続方法の周知や説明が不十分な事もあり、活発な利用には繋がりませんでした。今後も案内を継続していきます。

(4)日頃の様子報告として写真を随時、請求書に同封して郵送しました。ご家族様から喜びの声をいただき、今後回数を増やしていく対応を検討しています。

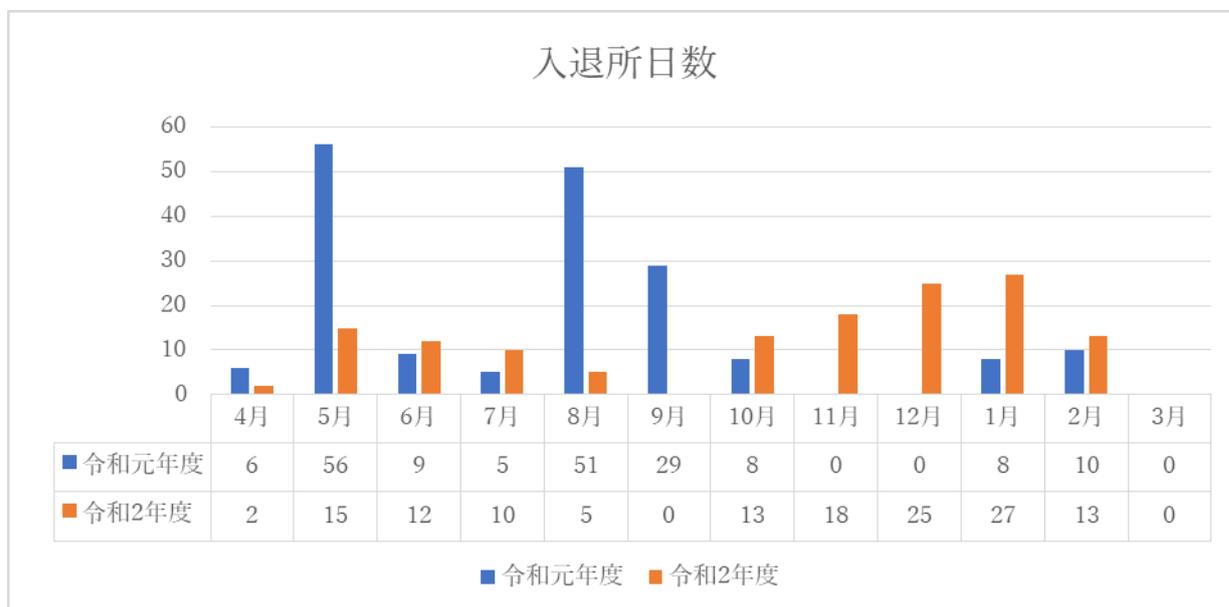
②入所待機者の準備と空床日数の短期間化

	入所人数	退所人数	入退所日数	外泊日数	入院日数	空床日数	平均介護度
4月	2	2	2	0	35	37	3.79
5月	2	3	15	0	4	19	3.80
6月	4	5	12	0	52	64	3.75
7月	5	3	10	0	38	48	3.75
8月	0	0	5	0	35	40	3.73
9月	2	2	0	0	22	22	3.72
10月	4	4	13	0	3	16	3.74
11月	4	4	18	0	38	56	3.68
12月	4	5	25	0	11	36	3.68
1月	4	3	27	0	33	60	3.68
2月	4	4	13	0	0	13	3.68
3月	2	2	0	0	0	0	3.68
合計	37	37	140	0	271	411	3.72

空床日数合計 411日 前年度 452日

(1) 法人内ショートステイからの入所が 23 件と全体の 62%と過半数を超えましたが、他のサービス事業所とも連携が出来ていましたので、継続していきます。

(2) 10 月より入退所が毎月 4 件以上あり、入所判定会での計画通りに待機者確保が進まず、不十分であった為、空床日数が多くかかってしまいました。

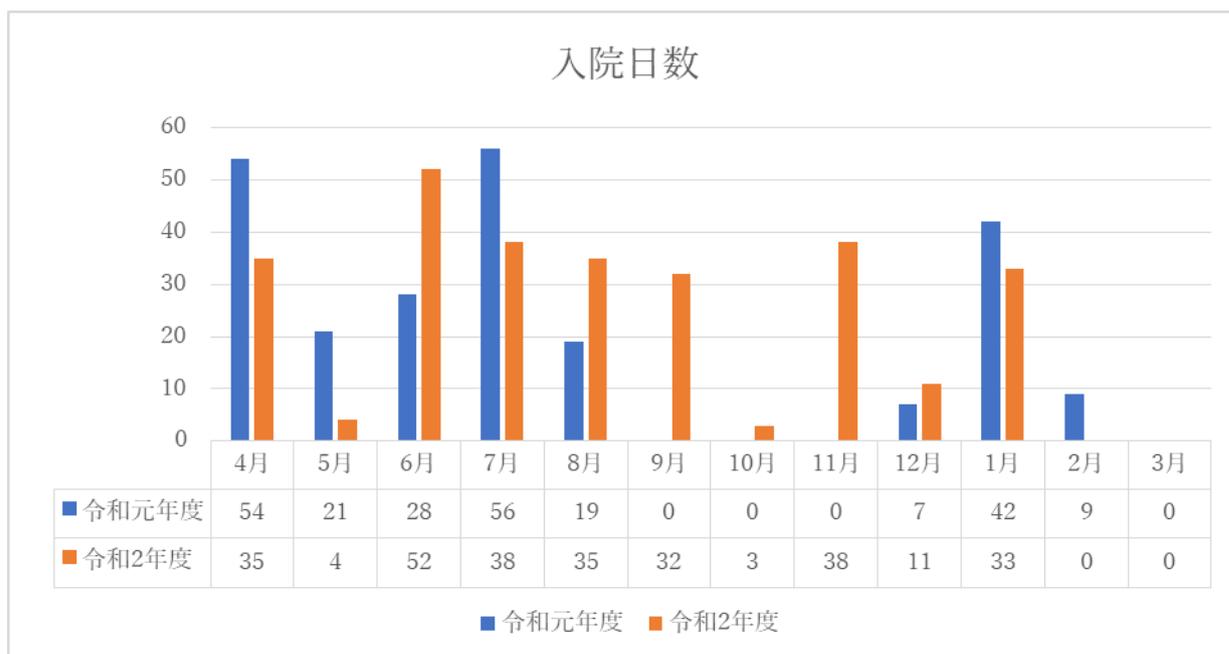


入退所日数 271 日 前年度 182 日

平均空床日数 4.6 日 前年度 6.4 日

(1) 目標である一件につき空床日数 5 日以内に関しては、達成できました。

1 件あたりの空床日数を減らす事はできましたが、入退所件数が前年度より 9 件増の為、全体合計日数は増加してしまいました。入退所 37 件 前年度 28 件



入院日数 271日 前年度 236日

【介護職員 重点実施項目】

①安定したサービスの提供と利用者が楽しめる余暇生活の充実

(1)誕生会実施

4月28日 5月26日 6月30日 7月26日 8月23日 9月27日
10月25日 11月22日 12月27日 1月24日 2月28日 3月28日

(2)お楽しみ会の実施

1階 10月6日 11月6日 2月18日 3月24日
2階 4月14日 5月29日 6月26日 7月31日
8月21日 9月29日
12月25日 1月8日 2月2日 3月23日
3階 4月25日 5月21日 6月21日 7月18日
8月22日 9月26日 10月16日 11月21日
12月19日 1月23日 2月27日 3月25日

(3)イベント行事の実施

8月9日 納涼祭
10月30日 仮装パーティー

②ケアプランの実施と評価

ケアプランの作成、見直しの為カンファレンスを定期的を実施しました。職員担当制にする事により、利用者の状態把握が出来、また、情報提供依頼を行う事により、他職種間の情報がスムーズに伝達できています。今後もより一層、利用者個々に合った満足していただけるサービスを提供する為に観察、記録、評価をしっかりと行い、プランを作成していきます。

③職員の教育

より質の高いサービス提供を行う為、職員の質の向上に努めました。毎月の定めた目標に対しての反省アンケートを継続し、職員一人一人が振り返りを行えるようにし、意識の向上に繋げました。知識、技術向上の為、外部研修の内容を施設内でもミニ勉強会の実施や資料配布で補い、新人職員に対してはチューター制度を実施し、本人のレベルに合わせた、きめ細やかな教育をしていけるよう配慮しました。今後も介護レベル向上の為の勉強会の実施、チームワーク向上をはかり、全職員が今より質の高いサービスが提供できる教育体制の充実を図っていきます。

④委員会活動

(1)感染症対策委員会

感染症標準予防策の勉強会等を開催し、周知徹底を図りました。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策が必須であり、他職種と連携しながら、感染予防意識の向上と空気清浄機や冬季使用の加湿器の管理、日常の使用物品に関する必要な消毒や交換等を定期的に行い、日頃からの感染予防に努めました。

(2)安全対策身体拘束廃止委員会

施設内事故に関して、対策の検討を行い、事故数減少を目指すと同時に、身体拘束ゼロを目指しました。誤薬、与薬ミスに関して、マニュアルの確認、周知をその都度行い、さらに二重チェックができる対策を徹底しました。その他事故に関してはその都度、早急に職員が対策を話し合い、周知の徹底、一定期間後の評価を行い、同じ事故が再度起こらないよう努めました。身体拘束に関しては、現在やむを得ずミトンを着用する許可をご家族よりいただいている利用者が2名おりますが、時間帯によりミトンを外し、状態観察を続けており、完全拘束ゼロへ向けて努力しています。

(3)褥瘡排泄委員会

定期的に利用者にあった排泄物品を検討し、皮膚トラブルの軽減とコスト削減に努めました。利用者の状態変化による排泄物品の変更も速やかに周知できるよう、配慮しました。正しく使用し、利用者の不快感の軽減ができるようオムツの当て方の勉強会を開催しました。

(4)防災委員会

年5回の定期的な防災訓練、避難訓練を実施しました。職員全員が緊急時、災害時に適切な対応が出来るようマニュアルの随時変更、緊急連絡網の更新に努めました。

[看護師重点実施項目]

①入所者健康診断と予防接種の実施

8/12 聖隷検診センターによる健康診断を実施

胸部レントゲン（結核検診を含む）、血液検査を実施しました。

利用者、職員に対し、インフルエンザの予防接種を行い、感染症予防に努めました。

利用者に罹患者なし。職員1名が罹患。肺炎球菌ワクチン接種希望者0名

②感染症予防策の徹底

新型コロナウイルスの流行が収まらない中、施設内にウイルスを持ち込まない、クラスター発生させない為、個人で体調管理を含め、手洗い、消毒、マスク装着等の感染予防策を徹底しました。近隣の病院や施設にクラスターが発生する中、当園での発生はなし。引き続き感染予防策を徹底していきます。

③利用者の健康管理、体調不良時や急変時の対応

健康状態を把握し、体調不良時は嘱託医と連携し、必要な医療を受けられるように努めました。急変時は家族の希望に沿った対応をとれるように、家族の気持ちに寄り添った対応を心掛けました。

④看取りケアの充実

環境整備を行い、最期の時間を穏やかに過ごせるように配慮しました。

感染症対策の為、家族の宿泊は中止としましたが、出来る範囲で面会を行い、病院では実施できない看取りケアを行えるように努めました。

⑤褥瘡予防

介護職と連携し、褥瘡を形成しない事を目標に、皮膚状態の観察を徹底し、異常の早期発見、早期治癒に努めました。必要時は病院受診し、適切な処置を受けられるように対応しました。今年は皮膚疾患が多くあり、今後の課題とします。

⑥機能訓練

機能訓練士による集団体操や、個々に合わせた機能訓練を計画、定期的を実施し、残存機能の維持と向上に努めました。

【栄養士重点実施項目】

①適切な栄養ケア・マネジメントの継続的提供

低栄養状態の予防・改善を重要課題とし、適切な栄養ケア・マネジメントが継続して提供できるよう下記のことを行いました。

- (1) 毎月同一条件での体重測定と食事摂取量調査の実施
- (2) リスク判定に関わらず毎月全利用者に対しモニタリングを実施
- (3) 定期カンファレンスへの情報提供と参加
- (4) 3ヶ月ごとに栄養ケア計画書の作成
- (5) 毎月2日間の栄養ケア計画書説明会の実施

(感染症対策のため説明会は7月と10月の計22組のみの実施。未実施月は郵送対応にて299組のご意向確認と同意を得ました)

②利用者様の状況にあわせた食事提供と朝食での展開食の提供

利用者様の状況や嗜好、要望を把握し、利用者様の状況にあわせた食事を提供するために下記のことを行いました。

- (1) 給食会議を毎月第3月曜日に開催
- (2) 嗜好調査を全利用者様対象に9月14日から9月27日に実施
- (3) 栄養給与目標量を年2回(9月15日と3月5日)に設定
- (4) 栄養給与目標量98%以上の食事の提供

また、これまでの課題であった朝食での展開食の提供を5月1日より開始し、朝食の充実を図りました。

③新体制での安全で安心な食事の提供

新体制での安全で安心な食事の提供のために下記のことを行いました。

- (1) 厨房委託業者との打合せを月1・2回実施
- (2) 衛生管理大量調理衛生管理マニュアルに基づく書類作成と管理を毎日実施
- (3) 厨房書類は厨房責任者と施設栄養士の二重確認を毎日実施
- (4) 厨房職員による厨房内の毎日の清掃と業者による配管清掃を4月に実施

(5)業者による害虫駆除用薬剤散布を5月と11月に実施、害虫の保守点検を毎月実施

④災害に備えた非常食や備品の確保

災害時にも継続して食事が提供できるよう下記のことを行いました。

- (1)ローリングストック法により150名5日分の非常食の品質と備蓄量を確保
- (2)毎月非常用献立表を毎月更新し、施設内12箇所の非常用献立表の差し替え
- (3)5日間の食事提供に必要な食器類の備品を保管
- (4)9月1日に他職種参加の炊き出し訓練を実施し、調理工程等の情報を共有

短期入所施設三幸の園 令和2年度事業報告

【基本方針】

在宅介護であることを理解し、利用者様が可能な限りその在宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、入浴・排泄・食事等の介護やその他の日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者様の心身の機能の維持だけではなく、利用者様のご家族様の身体的及び精神的負担の軽減を図ります。

【利用者様へのサービス】

① 生活援助の実施（短期入所介護計画の作成・提供）

月4日以上のご利用者様の短期入所生活介護（予防）計画を、計46件作成し、個々にあった個別援助を提供しました。

② 情報の共有

- (1) ご利用者様のご様子を、ご利用状況表に毎日介護職が記入をし、退所日にご家族様にお渡しして、情報の共有を図りました。
- (2) イベントを行った際は写真を、レクリエーションを行った際は作品をその都度ご自宅にお持ち帰り頂き、ご家族様と楽しみの共有を図りました。
- (3) サービス担当者会議出席、サービス担当者に対する照会、電話連絡等を行い、介護支援専門員と情報の共有を図りました。
- (4) 遠方のご家族様や地域の方々に活動を知って頂くために、ブログを計23回掲載しました。また、地元の魚屋さんにパンフレットを置いて頂いた上に、レクリエーションで作成した作品も飾って頂けるようになりました。

③ 栄養管理や行事食の実施

- (1) 管理栄養士による、栄養管理のされた食事を毎日提供できました。
- (2) 行事食を計44回提供する事ができました。

④ 保健衛生の確保

ご利用者様のご利用中の健康管理を介護職・看護師が毎日行いました。また、病院受診が必要な際は、ご家族様と介護支援専門員に相談をし、迅速な対応を心掛けました。

⑤ 教養娯楽の提供

- (1) 1階にYouTubeを導入し、脳トレ、体操、音楽療法等を定期的に行いました。

(2) 大きなイベントとして下記を開催しました。

- 4月・・・ロコモ体操、壁画作り
- 5月・・・カラオケ、マスク作り、壁画作り
- 6月・・・ピアノ演奏、壁画作り
- 7月・・・七夕祭り（ピアノ演奏、栄養士による講話）、壁画作り
- 8月・・・消費者被害講話、回想法、壁画作り
- 9月・・・看護師による講話、壁画作り
- 10月・・・おやつ作り、壁画作り
- 11月・・・おやつ作り、壁画作り、習字
- 12月・・・クリスマスコンサート、壁画作り
- 1月・・・中国語講座、こま回し大会、壁画作り
- 2月・・・おやつ作り、壁画作り
- 3月・・・おやつ作り

(3) テレビ2台を新たに購入、3台を特別養護老人ホーム三幸の園から譲り受け、お部屋に設置をしました。また、1階にカラオケ機械を設置しました。

⑥ 過ごしやすい環境づくり

- (1) コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザ等の感染症を施設に持ち込む事はありませんでした。
- (2) レクリエーションで作成をした壁画や作品を毎回フロアやお部屋に飾り、楽しい雰囲気作りに努めました。
- (3) 「くらしのめ」をフロア内に貼り出す等をして、消費者被害の注意喚起を行いました。

⑦ 防災・防犯対策の構築

- (1) 防災対策委員会の一員として、6月避難訓練、9月総合防災訓練、11月避難訓練、2月大平台の園と合同避難訓練を行いました。
- (2) 防災対策委員会の一員として、年4回、防災・防犯の目線で施設巡回を行いました。

⑧ 利用者数の継続安定確保

- (1) 計画していた月間平均稼働率80%は、79.8%と10月の1度だけ下回ってしまいましたが、その他の月は目標を達成する事ができました。
- (2) 年度間平均稼働率は84.63%で、計画していた82.5%を上回る事ができました。
また、年度間夜間利用平均人数最大15人に対し、14.729人でした。
- (3) ロング・定期利用をされていた利用者様16人が、特別養護老人ホーム三幸の園に入所をされました。

(4) 定期利用をされていた利用者様3人が、ユニット型短期入所施設三幸の園へロング移行、1人が約3週間一時的に利用をされました。

三幸の園指定居宅介護支援事業所 令和2年度事業報告

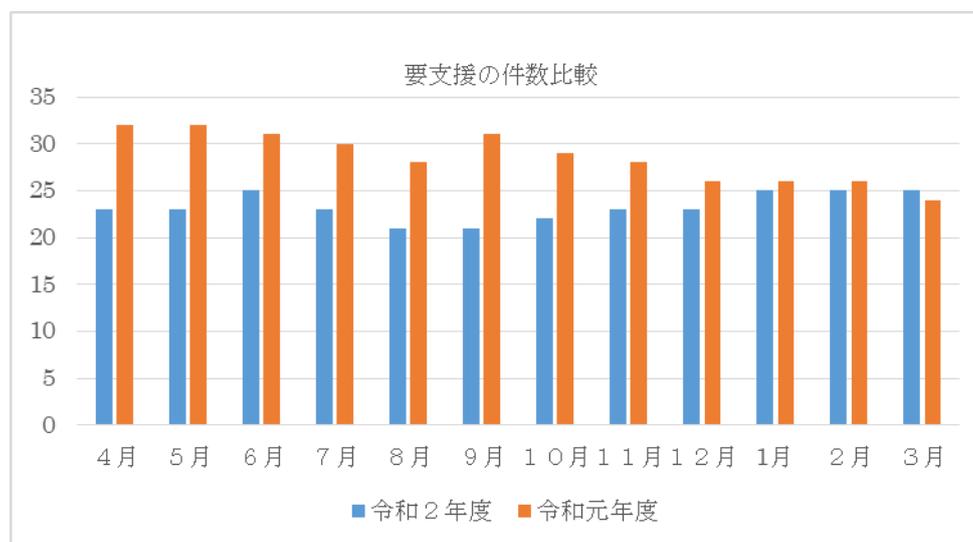
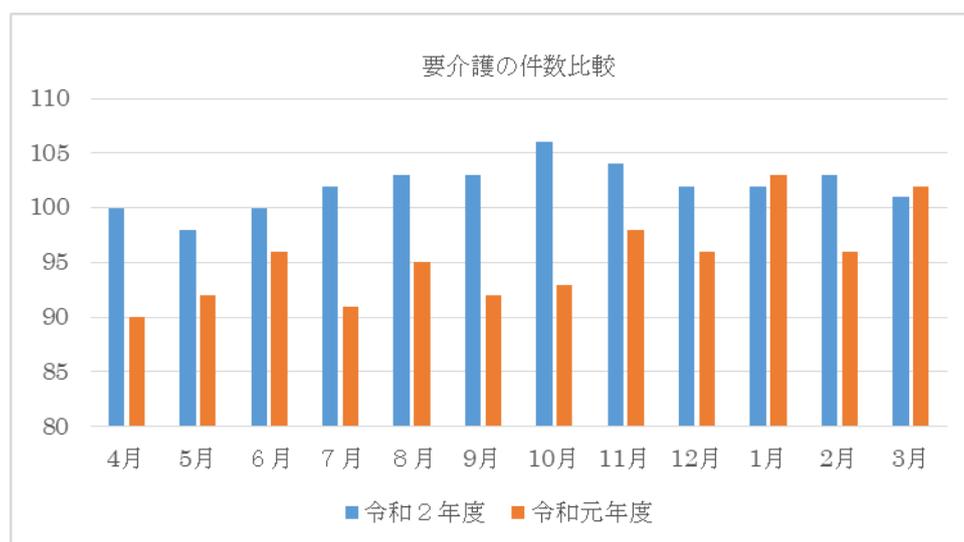
【基本方針】

利用者様が住み慣れた地域及び自宅で、その能力に応じ、可能な限り自立した日常生活が送られるように支援します。要介護状態の軽減、悪化の防止に資するよう、個々の解決すべき課題、心身の状況、取り巻く環境を把握し、利用者様の選択に基づき、適切なサービスの利用が総合的・効率的に提供されるように努めます。介護支援専門員の資質向上により事業所評価の向上を目指します。安心、安全な地域づくりの為に地域との繋がりの方に参画していきます。

【基本計画】

① 事業所の安定運営

◎前年度との請求件数の比較は下記の通りです。



介護支援専門員一人あたりの月平均実績は 37.87 件（予防 0.5 件換算）
2019 年度は 36.54 件でしたので、1.33 件の増加となりました。
加算については、初回 40 件、入院、退院時加算 33 件を取得しました。

② 利用者様支援

毎月の定期訪問については、コロナ感染の状況に合わせ、ご家族の意向を伺い、訪問もしくは電話でのモニタリングを実施しました。

コロナの影響で、サービスの利用を中止される方もおりましたが、支援は継続して行いました。これからも続く状況ですが、利用者様が不安無く、在宅で暮らせるような精神面のフォローもしていきます。

③ ケアマネジメント技術の向上

コロナ感染の影響で、研修会は殆どなく、zoom 研修となりました。

8/20 他法人（和恵会）との合同研修（コロナ感染症対策で、会場は 3 か所に分かれ少人数で開催）

主任介護支援専門員更新研修は、コロナ感染症により中止。

コロナ禍で研修会も無く、他のケアマネと顔を合わせる機会も減り、情報量も少なく閉鎖的な状況を感じました。

④ 地域のネットワークの形成・活用・連携（チームアプローチ）

民生委員との交流会の開催も無かった為、状況に応じ電話にて連絡を取り合いました。医療連携についても、病院へ伺うことも出来なかった為、電話にての対応が多く、退院支援は退院後に自宅訪問で状態を確認後、サービス調整をしました。

⑤ 併設事業所間による相互協力

月に一度の在宅部門会議、法人内居宅とは、在宅部門会議後や電話で、コロナ禍でのサービス担当者会議、サービスの調整、居宅訪問の状況など、情報共有をしました。

⑥ 公益的な取り組み

6/10 神久呂小学校、9/24 大平台小学校、10/14 西都台小学校、10/15 鴨江小学校、10/16 入野小学校、9/14 西都台小学校・福祉体験授業の開催に参加しました。昨年度より 1 校増え、6 校で開催することが出来ました。これからも、認知症高齢者を地域で支える地域作りに協力します。

特別養護老人ホーム山崎園（従来型）令和2年度年度事業報告

【基本方針】

ご利用者様が施設の中で尊厳を保ち、その人らしく健康で安らかに生活が送れるように援助を行い、ご利用者様には山崎園での生活を満足していただきました。また、地域に開かれた施設であるために、地域交流を積極的に誘致し展開してまいりました。職員一人一人が顧客満足度の向上に努め、サービスの質の向上を常に目指し自己研鑽してきました。

【介護職員重点項目】

① ケアプラン

介護職が担当利用者様のモニタリングをタブレット活用しながら毎月行い、状態変化を把握してケアプランに生かすことができました。特に食事摂取については食事形態見直しの参考にすることができ、医師との面談の必要性判断にも用いることが可能となりました。

パソコン上での「毎日確認」項目を利用し、職員全員の情報周知環境を整備し、担当者会議や各種評価の円滑化を進めました。

② 事故対策・身体拘束ゼロ推進

事故対策については、浜松市へ提出した事故報告事案が9件ありました。事故が起こった場合は、その原因・対策・対応・経過観察を迅速に行い、ご利用者様が安心・安全な生活を送ることが出来るよう援助させていただきました。

身体拘束については、マーゲンチューブ自己抜去リスクのある利用者様にミトンを使用しておりましたが、5月にミトン着用を終了することができました。現在身体拘束の事案はありません。

③ 感染症対策

今年度は新型コロナウイルス感染対策を徹底し、ご利用者様・職員の体調管理を厳格に行い、新型コロナウイルス感染者及びインフルエンザ罹患者はゼロでした。

マスクやグローブの備品管理は感染対策委員主導で取り決め枚数の配布、持ち出し制限等の対策で不足が生じないように努めて、業務に大きな支障はありませんでした。

④ 日常生活介護

今年度はコロナ禍において外出やボランティアの受け入れができませんでした。しかし、このような状況下でも施設内にいて季節を感じていただけるよう行事

やレクリエーションを、密を避けるためフロアごとで開催しました。

8月からは実習生の受け入れを再開し、わずかな外部の方との交流を持つことができました。

病気や老衰のためお看取りケアに移行した利用者様に対しても、好きな食べ物を少しでも提供して笑顔になって頂いたり、ご家族と過ごす時間を大切にし、遠方の親族の方とはリモートで交流していただき、人生の最終章を穏やかに過ごしていただくことができました。

⑤ 食事

管理栄養士と連携し、ご利用者様との会話の中から嗜好を分析し、食事を楽しんでいただけるよう配慮しました。お粥対応の方にもご飯と粥を合わせて軟飯状態にして安全に提供する工夫をし、嚥下状態に合わせた食事提供をすることができました。

居酒屋メニューをはじめ季節食・行事食を企画し季節感を味わってもらえるよう工夫し、ご利用者様に食事を楽しみにしていただくことができました。

ご利用者様の嚥下状態に応じて複数の食事形態、早出し（看護師がいる時間帯での対応）で食後の安全を確保し、嘔吐や誤嚥性肺炎のリスク削減に努めました。

【医務室重点項目】

①健康管理

日常ではバイタルサイン測定、栄養状態の観察を実施し、週に1回嘱託医の往診を受け、ご利用者様の健康管理を行いました。異常時や急変時には、介護・看護が連携し対応することができました。8月には年1回の健康診断を行い、11月にはインフルエンザ予防接種を受けていただきました。また、経鼻経管栄養や尿道留置カテーテル管理が必要な方に対して外部医療機関と調整しながら健康管理に努めました。

②機能訓練

ご利用者様の生活意欲向上と日常生活の充実を図る為、各ご利用者様の身体機能や日々の健康状態を把握し、現在可能な動作を維持するための個別機能訓練を週2回実施しました。また、看護師や介護職員と協力し個別機能訓練では行えない日常生活の項目を補い合うことで、より日常生活が充実させるよう努めました。

【生活相談員重点項目】

①相談業務

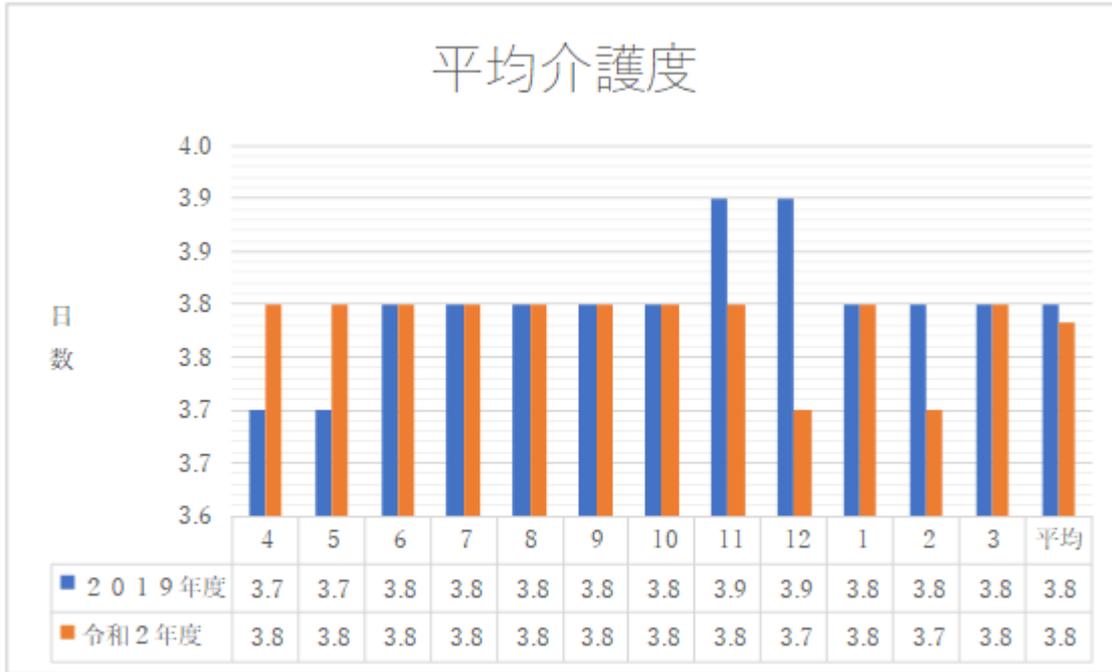
入居中の生活に関して、体調の変化や相談事がある時は連絡調整を行いご家族様と連携を図りました。特に今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止により自由に面会をして頂く事ができなかつた為、施設での様子を写真にし、毎月ご家

族に郵送し、より細かく様子をお伝えするよう心掛けました。ご家族様からは「毎月楽しみにしている」「こんな笑顔家では見たことない」「施設へ入所させてしまい後ろめたい気持ちでいたが、山崎園を選んでよかった」等のお言葉を頂きました。入居待機者の管理については、毎月1回の判定会議を行い、従来型の次期利用者の確保に努めました。今年度の1人当たりの入退居の手続きにかかる日数平均は、1.3日と昨年度5.9日より短い期間で入所につなげる事ができました。



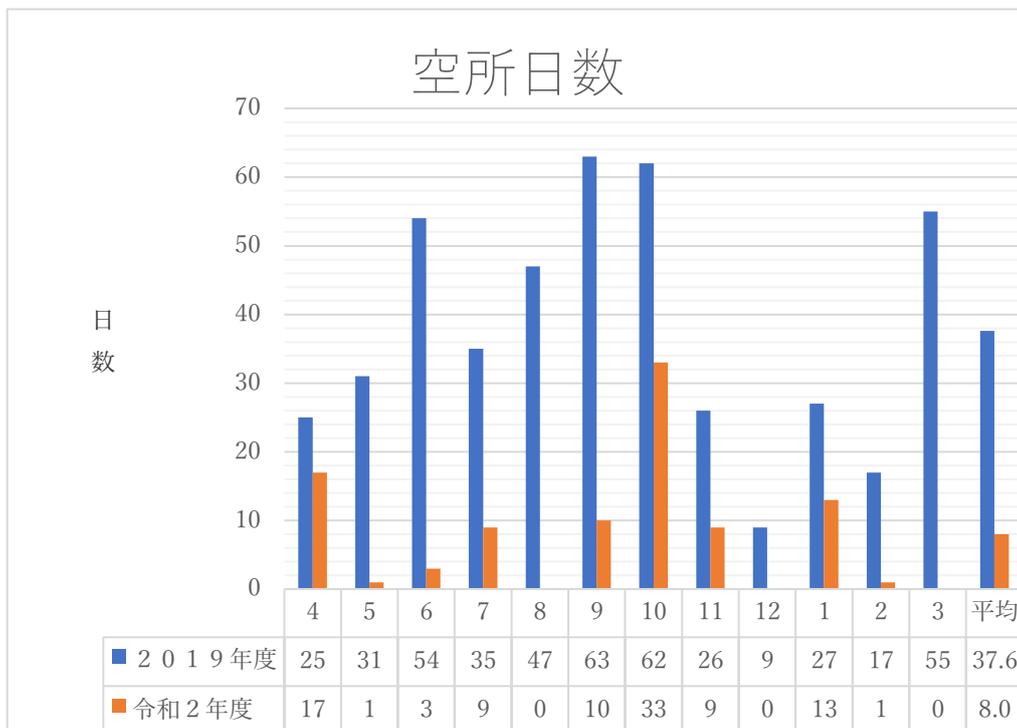
②要介護度について

前年度の平均介護度が3.8に対して今年度の平均介護度3.8と横ばいの数値でした。平成27年4月より特養の入所対象者が要介護3以上となり、要介護3以上の方に入所して頂いている為、維持できていると考えられます。今後ご利用者様の要介護度については、多職種で連携・情報の共有を行い、心身状況の把握を行い、ご家族様に速やかに報告し、必要に応じて介護度の区分変更を行って参ります。



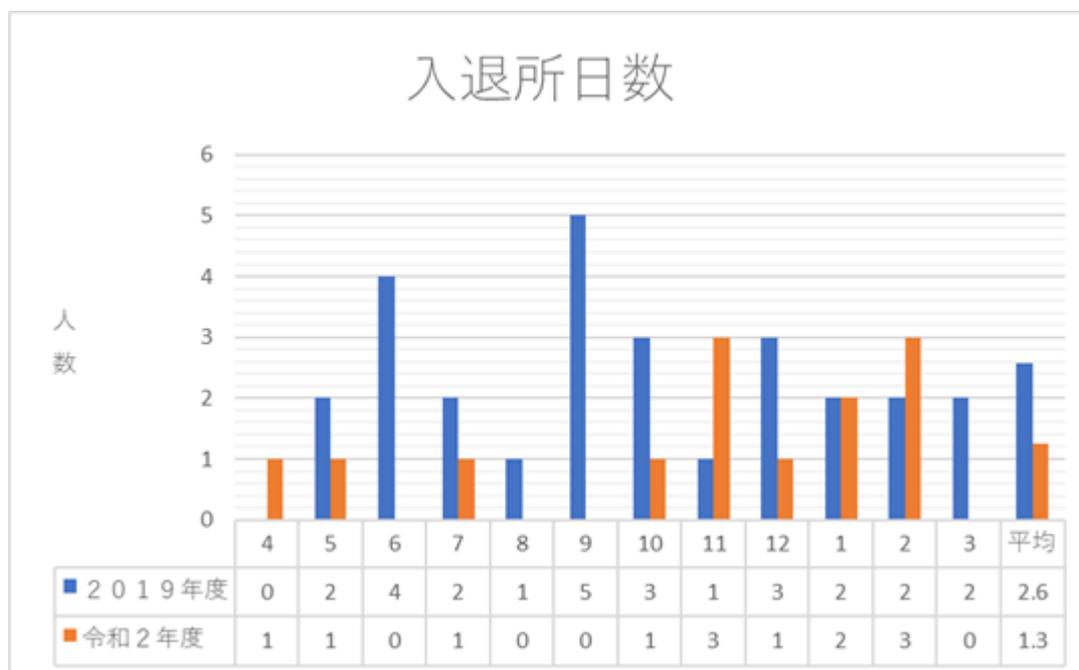
③空床日数について

各月の空床日数を25日以内となるように迅速に連絡を取り、スムーズな入退居の事務手続きを図ってまいりましたが、今年度は25日以上の月が1回、平均空床日数は8.0日でした。昨年度と比較して、長期入院の利用者様が少なかったこと、入所に掛かった日数が少なかった事が挙げられます。



④入退居について

令和2年度入退居者状況は、入所者13名・退居者13名となっております。待機者につきましては、令和3年3月31日現在で20名（要介護3以上）の方が待機しております。要介護2以下の待機者は従来型・ユニット型合わせて15名の方が待機しております。



【栄養士重点項目】

① 食事の提供

給与栄養目標量を4月に設定し、充足率90%以上を満たす献立作成を目指し、95%以上を満たす食事提供ができました。

給食会議を毎月1回、嗜好調査を9月に実施し、その結果に基づきご利用者様の状況に合った食事提供に努めました。選択食や松花堂弁当の提供等、コロナ禍でもできるイベント食や行事食を毎月実施し、季節を感じられ楽しむことができるように取り組みました。

② 栄養ケア・マネジメントの提供

毎月の体重の変動と日々の食事摂取量を確認し、ご利用者様一人ひとりの栄養状態の把握に努めました。それを踏まえて栄養スクリーニング・アセスメント・モニタリングを実施し、3ヶ月毎に栄養ケア計画書を作成しました。低栄養のリスクが高いご利用者様に対しては他職種と連携を図り、食事形態や給与栄養量の見直し、栄養補助食品の使用等について個別に検討し、低栄養の予防・改善に努めました。

③ 厨房内衛生管理の実施

害虫に対する保守点検を毎月1回、害虫駆除を5月と11月に実施し、厨房環境の衛生保持に努めました。また、大量調理衛生管理マニュアルに基づいた書類作成と管理を毎日実施し、1年を通して食中毒の発生を防ぎました。

④ 防災対策の実施

備蓄食品点検を毎月実施しました。期限前の入れ替え時には通常食として提供し、ご利用者様の現状に適しているかを検討し、最適なものを取り入れるように努めました。9月の防災訓練では他職種参加で炊き出し訓練を実施し、炊き出し釜の使用方法や炊き出し工程の確認、備蓄食品の試食を行いました。

【多職種連携重点項目】

①委員会

感染・事故対策・身体拘束・褥瘡・人材育成について、各委員会の役割を確立し毎月1回の委員会の開催、年1回以上の勉強会を開催致しました。委員会に属している職員だけではなく、全職員に感染・事故対策・身体拘束・褥瘡・人材育成についての知識が身に付くように周知し、ご利用者様が快適に生活をおくれるように環境作りを致しました。

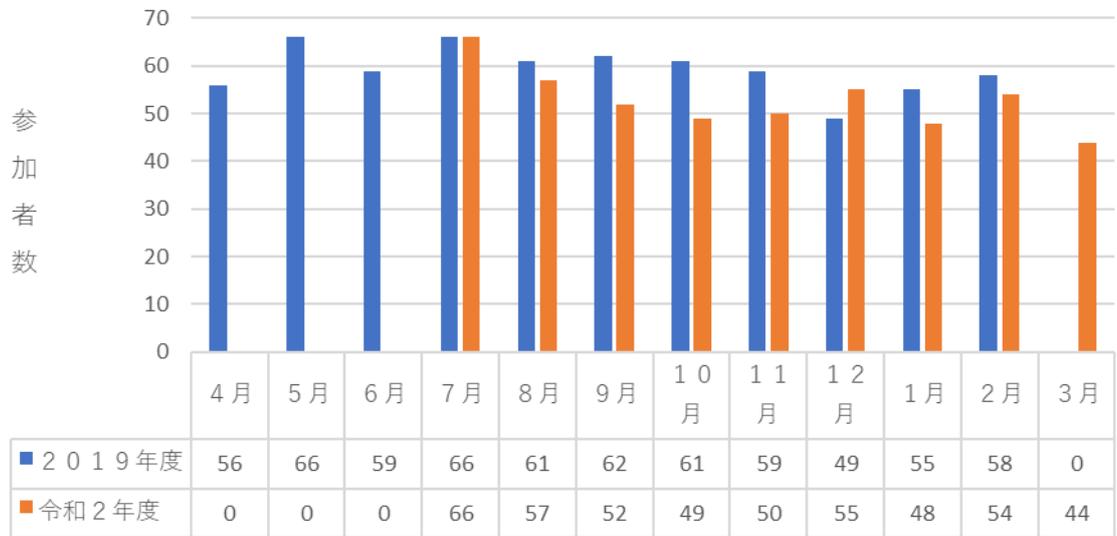
②防災対策

防災対策委員会を中心に毎月1回の基本訓練、9月・11月・3月には総合防災訓練を行い、日頃より災害時に職員が果たす役割を確認し、冷静に対応できるよう知識と心構えを学びました。

③職員の質の向上

全事業所参加型の施設内研修会を開催し、職員の質の向上を図ってまいりました。新型コロナウイルスの影響で昨年度3月～6月まで施設内研修会を中止し、7月から換気の時間を設けたり、複数のグループを作り密な状況を作らないようにしたり、ZOOM研修にしたりと担当者が中心となって感染対策をしながら開催しました。まだまだ感染対策の継続は必要ですが、来年度も試行錯誤しながら身になる研修会を開催して参ります。

施設内研修会参加者数



ユニット型特別養護老人ホーム山崎園令和2年度事業報告

【基本方針】

ご利用様が施設の中で尊厳を保ち、その人らしく健康で穏やかに生活が送れるように援助を行い、ご利用様には山崎園での生活を満足していただきました。また、地域に開かれた施設であるために、地域交流を積極的に展開してまいりました。職員一人一人が顧客満足度の向上に努め、サービスの質の向上を常に目指し自己研鑽してきました。

【介護職員重点項目】

① ケアプラン

施設ケアマネを中心に多職種が連携し、それぞれのご利用者様に合ったケアプラン作成を目指しました。また、タブレットを活用し利用者様の情報共有とデータ化を実施しました。

② 事故対策・身体拘束ゼロ推進

事故対策については、浜松市へ提出した事故報告事案が1件ありました。事故が起こった場合は、その原因・対策・対応・経過観察を迅速に行い、ご利用様が安心・安全な生活を送ることが出来るよう援助させていただきました。身体拘束については、今後も身体拘束ゼロを継続するよう取り組んで参ります。

③ 感染症対策

今年度は施設内でインフルエンザ、新型コロナウイルスを発症したご利用者様はいらっしゃいませんでした。コロナ禍により毎日ご利用者様・職員の検温を実施し、状況に応じて面会中止や予約制の面会など対策を取り外部からウイルス持ち込みの無いよう努めています。

④ 日常生活介護

コロナ禍により納涼祭は小規模で行いました。ご家族様やボランティアの参加は中止しましたが、職員が協力しアットホームな納涼祭を行う事ができました。外出は控え、各ユニットで季節に応じたレクリエーションを提供し、四季を感じて頂けるよう援助致しました。

⑤ 食事

管理栄養士と連携し、ご利用者様の嗜好を調査し、食事を楽しんでいただけるよう配慮しました。コロナ禍によりバイキングや喫茶の会が縮小されましたが、季節食・行事食を企画し季節感を味わってもらえるよう工夫しました。

【医務室重点項目】

①健康管理

日常のバイタル測定・栄養状態の観察と週1回嘱託医の往診を受け、健康状態の把握に努めました。8月に年1回の健康診断と定期採血を実施し、11月にはインフルエンザの予防接種を実施いたしました。異常時や急変時には、相談員・介護・看護が連携し対応することができました。状態変化時には、ご利用者様、ご家族の意向に沿えるよう嘱託医との面談を経て、今後のケアの方向性を決定し看護ケアに活かしました。また、透析やインシュリン・尿道留置カテーテル等医療ニーズの高いご利用者様の医療管理を行い、外部医療機関と調整しながら健康管理に努めました。

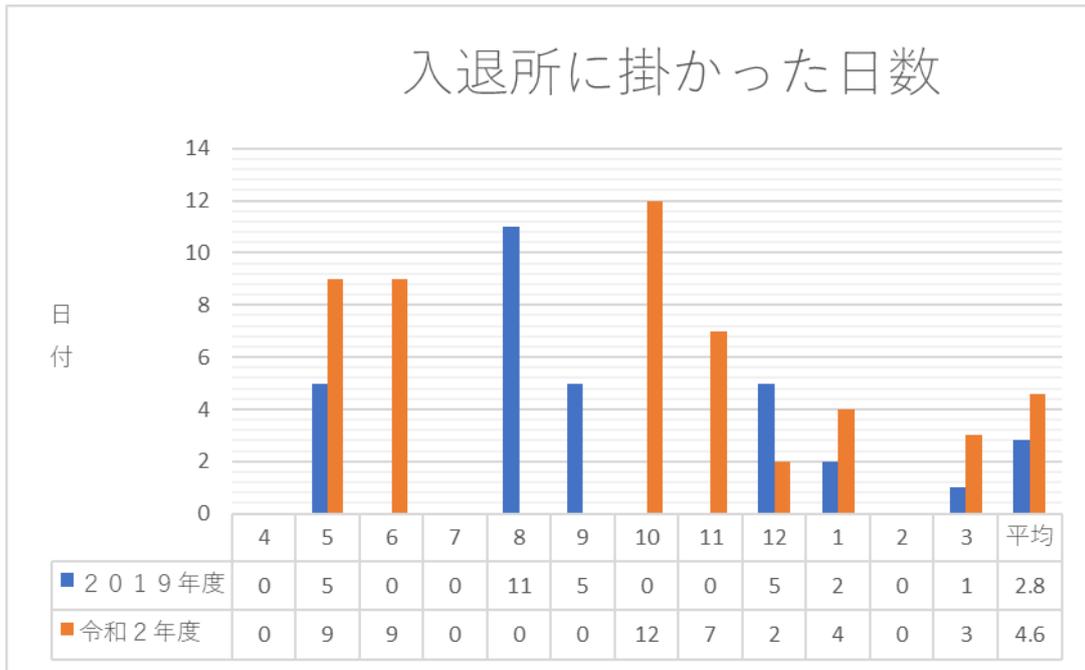
②機能訓練

ご利用者様の生活意欲向上と日常生活の充実を図る為、各ご利用者様の身体機能や日々の健康状態把握し、現在可能な動作を維持するための個別機能訓練を週2回実施しました。また、看護師や介護職員と協力し個別機能訓練では行えない日常生活の項目を補い合うことで、より日常生活が充実させるよう努めました。

【生活相談員重点項目】

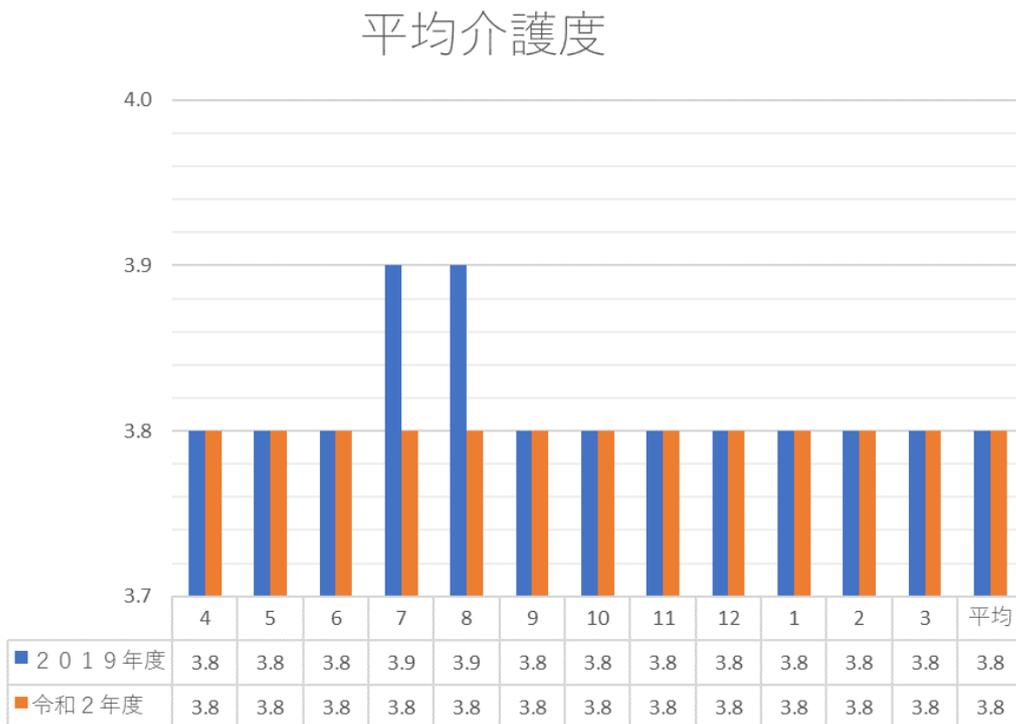
①相談業務

入居中の生活に関して、体調の変化や相談事がある時は連絡調整を行いご家族様と連携を図りました。特に今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止により自由に面会をして頂く事ができなかつた為、施設での様子を写真にし、毎月ご家族に郵送し、より細かくご様子をお伝えするよう心掛けました。ご家族様からは「毎月楽しみにしている」「こんな笑顔家では見たことない」「施設へ入所させてしまい後ろめたい気持ちでいたが、山崎園を選んでよかった」等のお言葉を頂きました。入居待機者の管理については、毎月1回の判定会議を行い、ユニット型の次期利用者の確保に努めました。今年度の1人当たりの入退居の手続きにかかる日数平均は、4.6日と昨年度2.8日より入所までに時間がかかってしまいました。退所者数や入院となる利用者が多かった事、ユニット希望の待機者が、要介護3以上が少ない事も要因の一つと考えられます。



②要介護度について

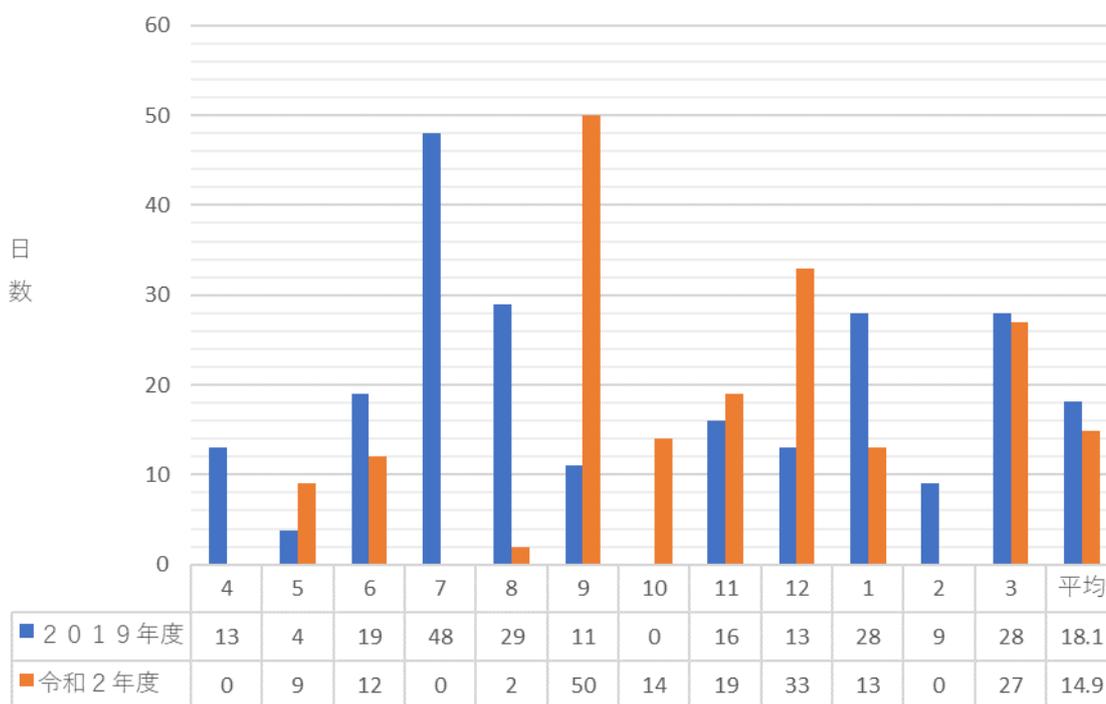
前年度の平均介護度が3.8に対して今年度の平均介護度3.8と横ばいの数値でした。平成27年4月より特養の入所対象者が要介護3以上となり、要介護3以上の方に入所して頂いている為、維持できていると考えられます。今後ご利用者様の要介護度については、多職種で連携・情報の共有を行い、心身状況の把握を行い、ご家族様に速やかに報告し、必要に応じて介護度の区分変更を行って参ります。



③空床日数について

各月の空床日数を25日以内となるように迅速に連絡を取り、スムーズな入退居の事務手続きを図ってまいりました。今年度は25日以上の月が3回、平均空床日数は18.17日でした。今年度は入院されたご利用者様も多く、空床日数が増えてしまいました。

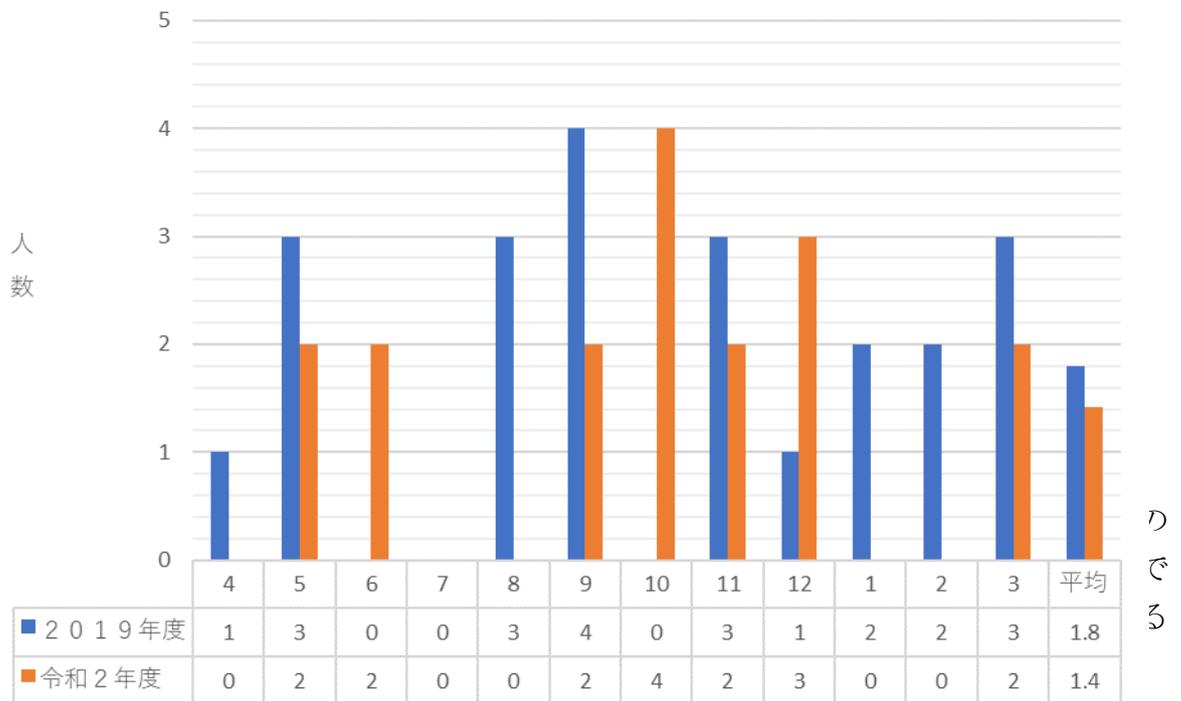
空床日数



④入退居について

令和2年度入退居者状況につきましては、利用者17名・退居者17名となっております。待機者につきましては、令和3年3月31日現在で19名（要介護3以上）の方が待機しております。要介護2以下の方は従来型・ユニット型合わせて15名の方が待機しております。

入退所日数



⑥ 栄養ケア・マネジメントの提供

毎月の体重の変動と日々の食事摂取量を確認し、ご利用者様一人ひとりの栄養状態の把握に努めました。それを踏まえて栄養スクリーニング・アセスメント・モニタリングを実施し、3ヶ月毎に栄養ケア計画書を作成しました。低栄養のリスクが高いご利用者様に対しては他職種と連携を図り、食事形態や給与栄養量の見直し、栄養補助食品の使用等について個別に検討し、低栄養の予防・改善に努めました。

⑦ 厨房内衛生管理の実施

害虫に対する保守点検を毎月1回、害虫駆除を5月と11月に実施し、厨房環境の衛生保持に努めました。また、大量調理衛生管理マニュアルに基づいた書類作成と管理を毎日実施し、1年を通して食中毒の発生を防ぎました。

⑧ 防災対策の実施

備蓄食品点検を毎月実施しました。期限前の入れ替え時には通常食として提供し、ご利用者様の現状に適しているかを検討し、最適なものを取り入れるように努めました。9月の防災訓練では他職種参加で炊き出し訓練を実施し、炊き出し釜の使用方法や炊き出し工程の確認、備蓄食品の試食を行いました。

【多職種連携重点項目】

①委員会

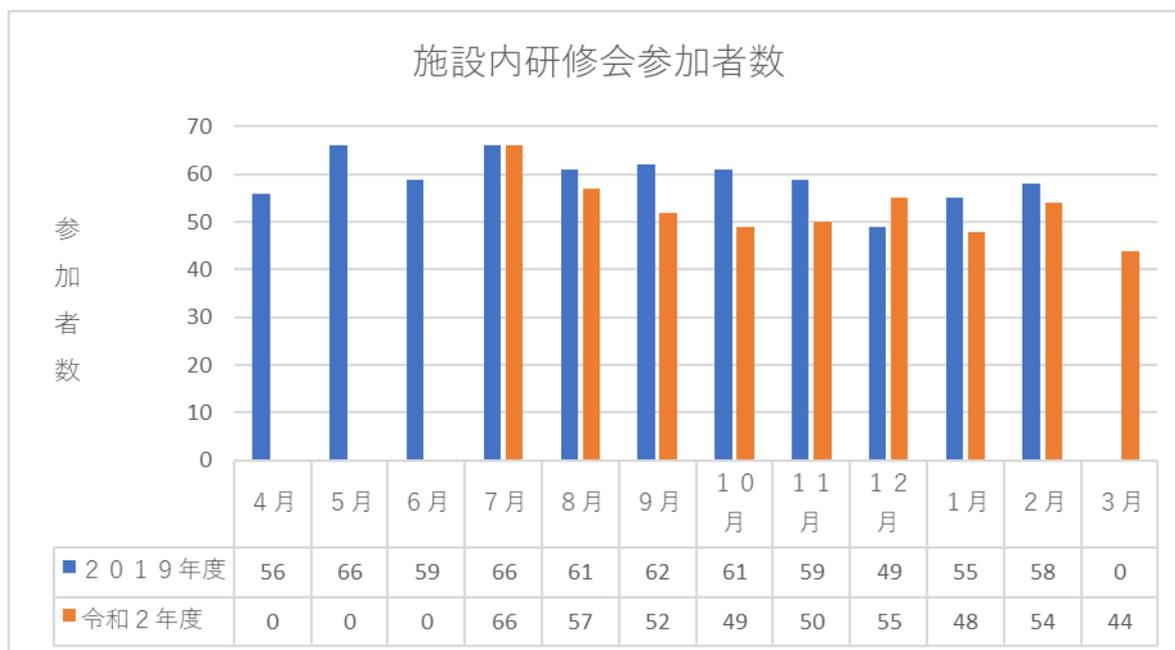
感染・事故対策・身体拘束・褥瘡・人材育成について、各委員会の役割を確立し毎月1回の委員会の開催、年1回以上の勉強会を開催致しました。委員会に属している職員だけではなく、全職員に感染・事故対策・身体拘束・褥瘡・人材育成についての知識が身に付くように周知し、ご利用者様が快適に生活をおくれるように環境作りを致しました。

②防災対策

防災対策委員会を中心に毎月1回の基本訓練、9月・11月・3月には総合防災訓練を行い、日頃より災害時に職員が果たす役割を確認し、冷静に対応できるよう知識と心構えを学びました。

③職員の質の向上

全事業所参加型の施設内研修会を開催し、職員の質の向上を図ってまいりました。新型コロナウイルスの影響で昨年度3月～6月まで施設内研修会を中止し、7月から換気の時間を設けたり、複数のグループを作り密な状況を作らないようにしたり、ZOOM研修にしたりと担当者が中心となって感染対策をしながら開催しました。まだまだ感染対策の継続は必要ですが、来年度も試行錯誤しながら身になる研修会を開催して参ります。



短期入所施設山崎園(従来型) 令和2年度事業報告

【基本方針】

ご利用者様一人ひとりを理解・尊重し、在宅生活とショートステイ利用後の生活が連続したものとなるようショートステイ利用中は残存機能を配慮しながら、入浴や排泄、食事等の介護やその他の日常生活上の支援に努めました。

【重点項目】

① 生活援助

利用状況表は継続作成し、個別情報などのご希望がある方には、別紙にまとめ報告致しました。状態に変化が見られた場合は、こまめにご家族様や担当介護支援専門員へ報告致しました。また、必要に応じて他サービス事業所へ情報提供致しました。新規ご利用者様の状況に関しては、ご利用2日目と、ご利用後に担当介護支援専門員へ報告することで、次回のご利用に繋げることが出来ました。

② イベント・レクリエーション活動

コロナ渦により、外出のイベントができませんでしたが、食事でのイベントを月に1度実施しました。日々の楽しみも増やせるよう、10時と14時に計算問題や色塗り、パズルやクイズなど個人で行うことや、体操やゲームなど集団で行うことを計画し、その方に適した余暇活動を計画・提供致しました。季節感が感じられるイベントはとても好評で、喜ばれている様子が見られました。

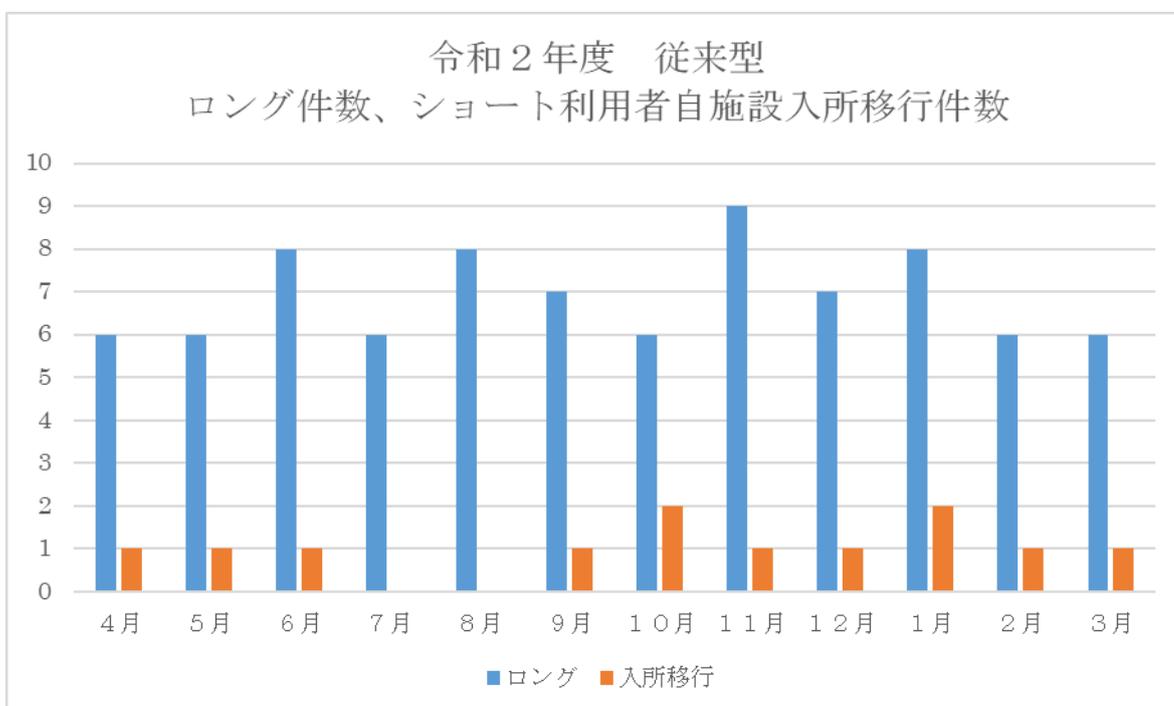
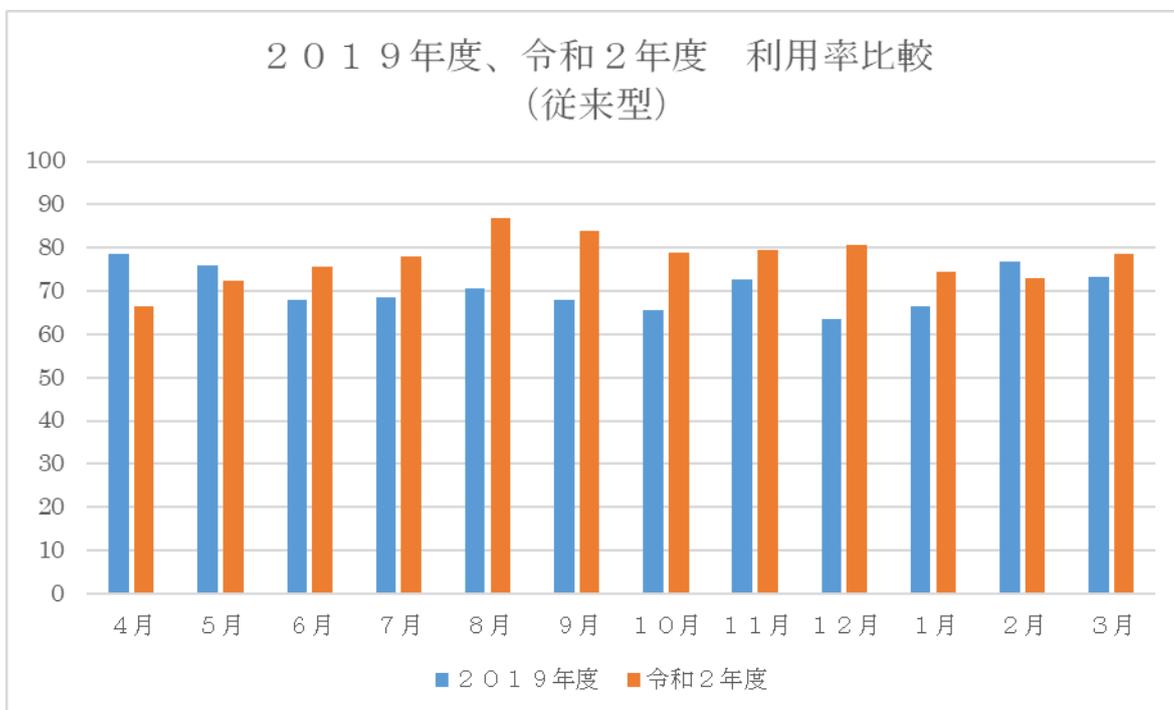
③ 保健衛生

来園時に血圧測定をはじめとする全身チェックを実施し、体調不良時にはこまめに情報収集を行いながら、ご家族様や担当介護支援専門員、ご利用者様の主治医に連絡し対応方法を確認・ご指示を頂き、スムーズに対応することが出来ました。新型コロナ対策として、ご家族様と連携し、日々の健康管理と入所日のお迎えに行った際の検温を徹底し、水際での対策を行いました。また、施設内では朝と夕方の2回検温を行い、体調の変化に対し、迅速に対応する事が出来ました。

④ 利用率向上

年間平均利用率は77.4%となり、年間目標の75%も上回る事が出来ました。また、去年の70.6%から6.8%上回る事が出来ました。引き続き、平日のイベント実施や、集団体操など体を動かすことを増加し、余暇を楽しめるような取り組みを増やしていきます。また、ご利用者様やご家族様、介護支援専門員が何を求めているか、定期的に会議を実施し、様々なニーズに応えられるよう介護職員・看護職員と協力体制を築いていきます。

また、ロングショートステイご利用様は月平均7名でした。令和2年度は12名の方がロングショートステイより特養へ入所されました。特養相談員との連携を強化し、ショートステイ利用からスムーズに入所出来るよう行動していきます。



ユニット型短期入所施設山崎園 令和2年度事業報告

【基本方針】

ご利用者様一人ひとりを理解・尊重し、在宅生活とショートステイ利用後の生活が連続したものとなるようショートステイ利用中は残存機能を配慮しながら、入浴や排泄、食事等の介護やその他の日常生活上の支援に努めました。

【重点項目】

① 生活援助

利用状況表は継続作成し、個別情報などのご希望がある方には、別紙にまとめ報告致しました。状態に変化が見られた場合は、こまめにご家族様や担当介護支援専門員へ報告致しました。また、必要に応じて他サービス事業所へ情報提供致しました。新規ご利用者様の状況に関しては、ご利用2日目と、ご利用後に担当介護支援専門員へ報告することで、次回のご利用に繋げることが出来ました。

② イベント・レクリエーション活動

コロナ渦により、外出のイベントができませんでしたが、食事でのイベントを月に1度実施しました。日々の楽しみも増やせるよう、10時と14時に計算問題や色塗り、パズルやクイズなど個人で行うことや、体操やゲームなど集団で行うことを計画し、その方に適した余暇活動を計画・提供致しました。季節感が感じられるイベントはとても好評で、喜ばれている様子が見られました。

③ 保健衛生

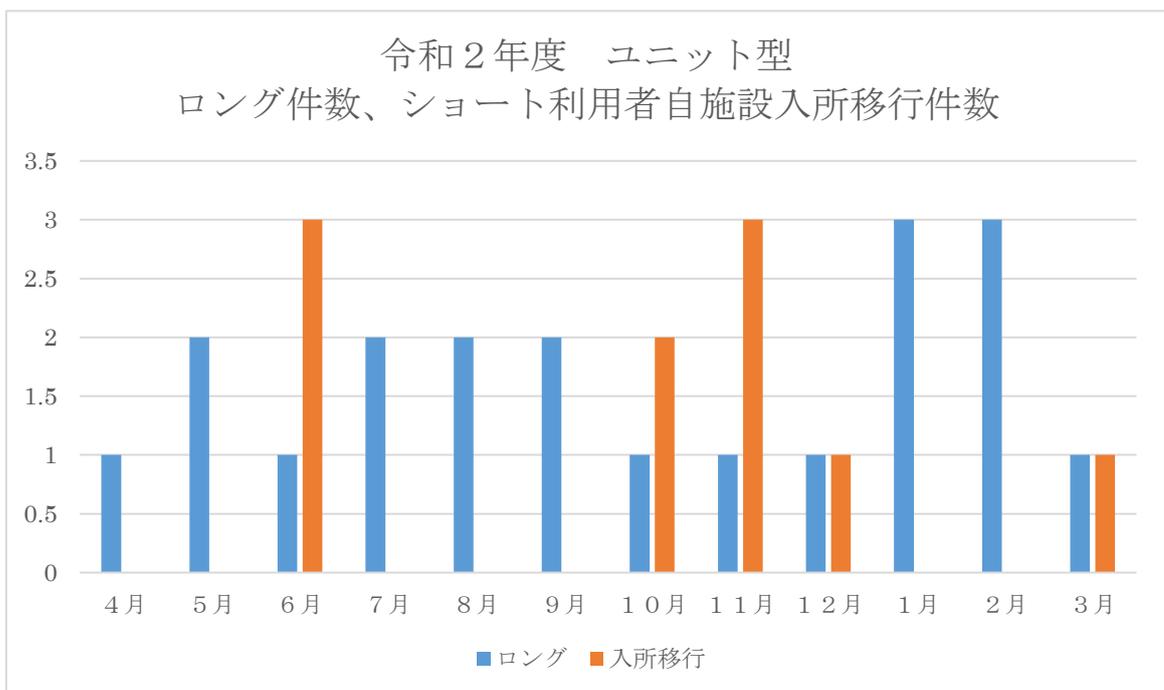
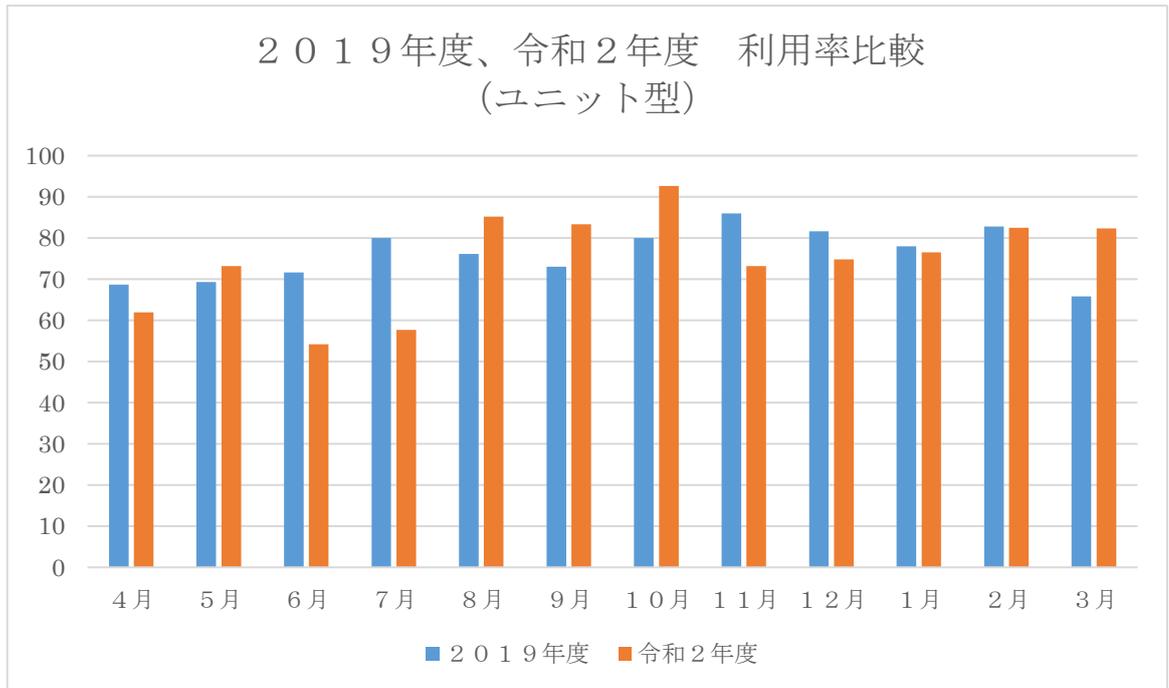
来園時に血圧測定をはじめとする全身チェックを行い、体調不良時にはこまめに情報収集を行いご家族様や担当介護支援専門員、場合によってはご利用者様の主治医に連絡し対応方法を確認・ご指示を頂き、スムーズに対応することが出来ました。新型コロナ対策として、ご家族様と連携し、日々の健康管理と入所日のお迎えに行った際の検温を徹底し、水際での対策を行いました。また、施設内では朝と夕方の2回検温を行い、体調の変化に対し、迅速に対応する事が出来ました。

④ 利用率

年間平均利用率は74.8%で事業所目標の75%を達成する事ができませんでした。また、昨年度の76.1%より平均利用率が低下してしまいました。新規の利用問い合わせの大半はロングショートステイ希望で、平日は空いているが週末は満床でお断りをするケースが半数以上という状況でした。平日のイベントや短時間でも機能訓練ができるような環境を整え、平日の利用を増やしていきます。

また、ご利用者様やご家族様、介護支援専門員が何を求めているか、定期的に会議を実施し、様々なニーズに応えられるよう介護職員・看護職員と協力体制を築いていきます。

また、ロングショートステイご利用者様は月平均2名でした。令和2年度は10名の方がロングショートステイより特養へ入所されました。特養相談員との連携を強化し、ショートステイ利用からスムーズに入所出来るよう行動していきます。



やまぎきデイサービスセンター 令和2年度事業報告

【基本方針】

ご利用様が可能な限りその居宅においてご自分の能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう支援、援助に努めました。心身機能の維持、意欲、生きがい、並びに介護されるご家族様の身体的・精神的負担に寄り添う声掛け、軽減への対応に努めました。また、ご家族様が相談しやすい環境を整えることにより情報収集が迅速にでき、関係者への報告、信用にも繋げることができました。

【重点項目】

①生活支援

きめ細やかなサービス提供に繋げるようケアプランをもとにし、個々のニーズに合わせた通所介護計画（介護予防通所介護計画）、選択的サービスの実施計画を作成し評価を行いました。スタッフ間でも常に利用者様の変化や情報交換を行うことにより異常の早期発見に努めました。サービス提供を円滑に行う為、関係機関との連絡調整も密に行いました。

②健康管理

ご家族様、主治医、ケアマネージャー等の関係者と連携を強め、常にご利用者様の健康状態を把握し、医療ニーズの高い利用者様に関しても、可能な限り受け入れを行いました。また、新型コロナ感染予防対策に日々の体調チェックに加えサービスご利用前の検温、マスクの着用、手洗い、換気、密を避けるための配置変更等を実施致しました。

③レクリエーション活動

個人製作、共同製作については、ご利用者の各能力に応じた準備を行い、充実感、達成感、満足度を促すよう努めました。

好天候日には中庭を利用し、機能訓練体操、散歩等、四季を満喫できる機会の提供に努めました。

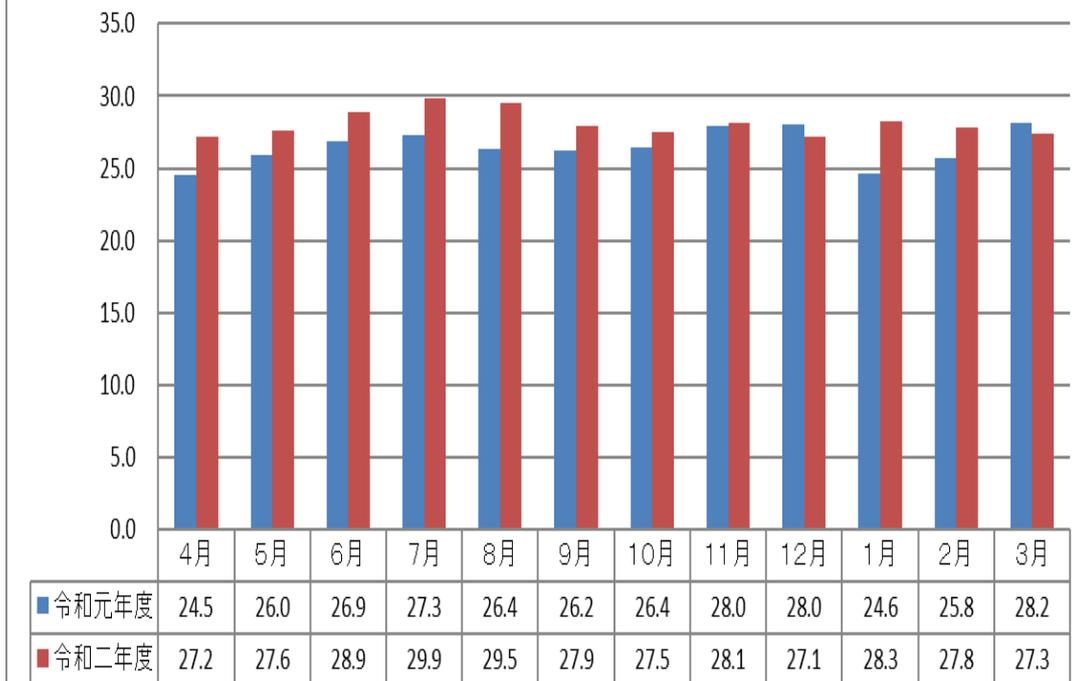
④機能訓練

計画書にそって、集団体操、個別訓練（歩行訓練・立位訓練・セラバンド運動・ペダル運動）を楽しく行っていただけるよう各職員がバリエーションを増やし、笑い声が出る免疫体操に繋がりました。また、口腔機能維持のため、食事前には口腔体操を実施し、昼食後の歯磨き、うがいの徹底を継続しています。

利用延人員比較



1日平均比較



やまぎきホームヘルパーステーション令和2年度事業報告

【基本方針】

要支援・要介護状態のご利用者様が、居宅においてその有する能力に応じた生活を営むことができますよう、ご利用者様の身体介護を中心に生活援助も含めて総合的な援助をサービス提供票に基づいて実施し、必要な日常生活上のお世話（入浴・排泄・食事介護・掃除・その他生活全般の援助）を懇切丁寧に行いました。

【重点項目】

①利用者状況

令和2年度の利用者数は、前年月平均26名に対し月平均30名と増加しています。内訳として要介護者22名・要支援者8名でした。

利用者件数は3,041件、前年度2,433件より125%増です。1日平均11.9件で、目標としている1日10件を達成する事が出来ました。前年度と比較すると身体介護146%、身体生活複合110%、生活援助152%、予防91%になっています。

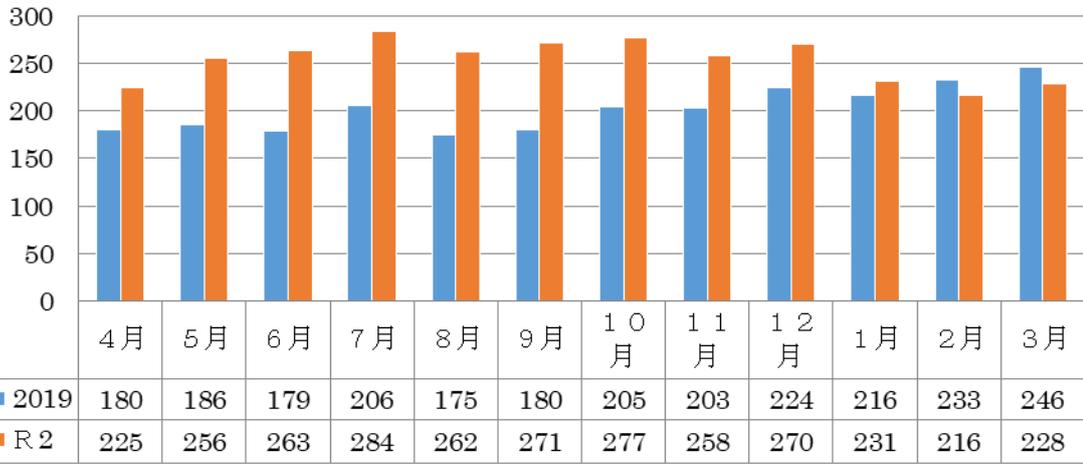
身体介護増加は、デイサービスご利用者様の送り出し支援の要望があり、可能な限り勤務時間の調整を図り受け入れました。また、5月よりライフケアアダージョ大平台のご利用者様の入浴介助も増加の要因と思われます。予防の減少はご利用者様の身体機能低下に伴って、区分変更され要支援から要介護に移行した為と思われ、生活援助が増加しています。

ご利用者様の身体状態や生活状況の変化を見落とす事がなく、ヘルパー間や関係機関と連携した支援ができるよう心掛けました。

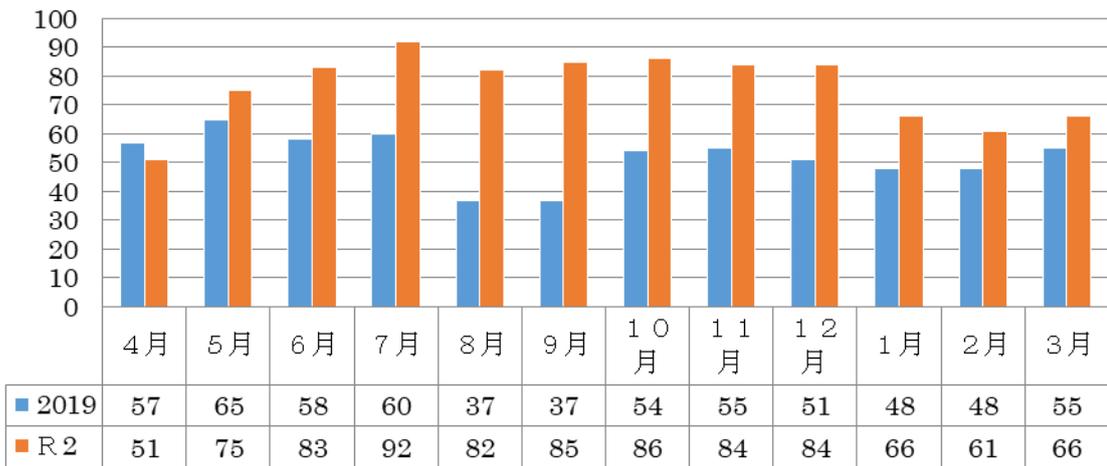
②健康管理

ご利用者様の健康管理はもちろん、職員も健康管理に留意し、インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症予防勉強会の実施やうがい・手洗い等の徹底を図りました。また、新型コロナウイルスの感染予防対応にも毎日の健康チェック、マスク着用を行い、関係機関と密に情報共有して対応しました。職員がご利用者様への感染源とならないよう自覚を持ち、配慮いたしました。

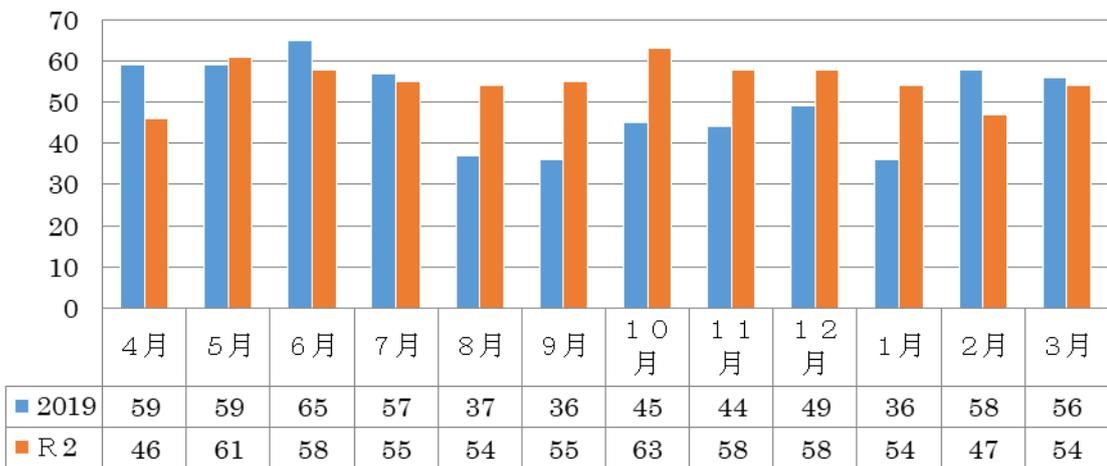
利用件数比較



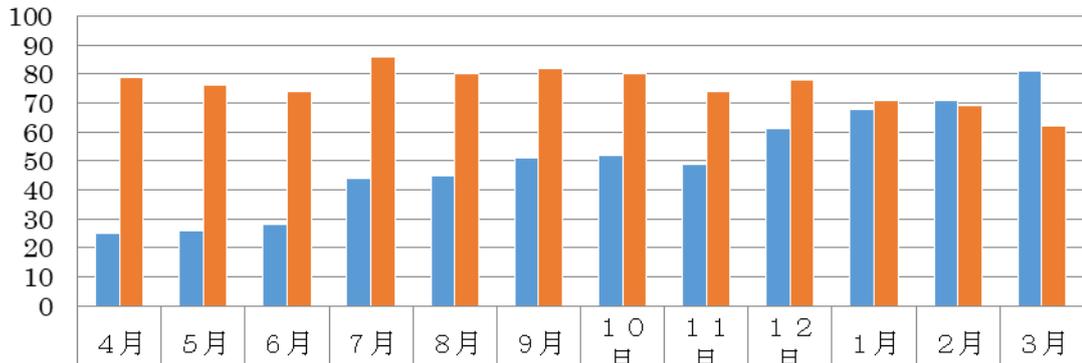
身体介護比較



身体生活複合比較

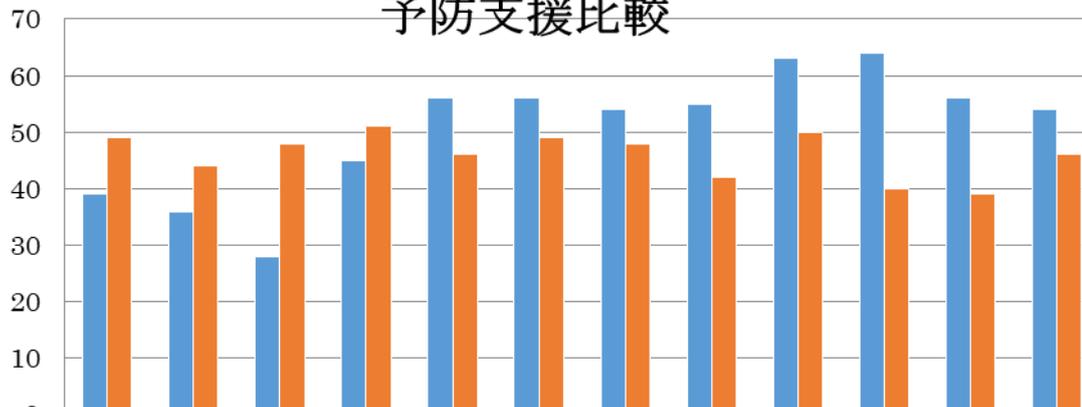


生活援助比較



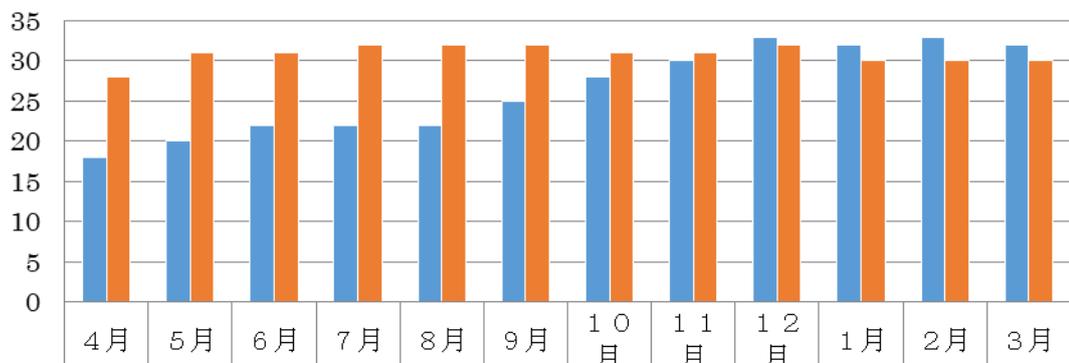
■ 2019	25	26	28	44	45	51	52	49	61	68	71	81
■ R2	79	76	74	86	80	82	80	74	78	71	69	62

予防支援比較



■ 2019	39	36	28	45	56	56	54	55	63	64	56	54
■ R2	49	44	48	51	46	49	48	42	50	40	39	46

利用人数比較



■ 2019	18	20	22	22	22	25	28	30	33	32	33	32
■ R2	28	31	31	32	32	32	31	31	32	30	30	30

【自費介護サービス】

介護保険では出来ない部分をサポート出来るよう、利用者様の選択の幅を広げ、在宅生活を安心して過ごして頂けるよう努めてまいりました。

同居家族がいる為、介護保険では掃除の支援が出来ない方の定期利用が5月から3月まであり、その他に通院の付き添いや入所の為、自宅の荷物の整理などの依頼がありました。また訪問の際には、自費サービスの周知を行ってまいりました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	1	4	5	4	5	4	4	5	4	4	4	44

グループホームやまざき 令和2年度事業報告

(認知症対応型共同生活介護・認知症対応型通所介護)

【基本方針】

家庭的な雰囲気の中、入浴・排泄・食事等の日常生活を提供し認知症が進行しないよう、また新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しつつ、ご利用者様が不自由を感じないよう、出来る活動を提供し、安心して楽しく過ごせるよう取り組みました。

【重点項目】

① ご利用者様へのサービス

計画作成担当者が他の職員と協力しながら、個別介助計画書を作成しサービスの提供に努めました。コロナ禍で、面会や外出が例年のようにできない中、感染予防対策を徹底したうえで、可能な限りの外出や外食を実施し、また、外部からの慰問が受け入れられない中、職員によるウクレレ演奏会を開催しました。ご家族様には、施設での様子をお知らせするため、毎月写真入りのグループホーム便りを送付し、またメールでの連絡も行い、家族との関係を密にとれるよう心がけています。

② 機能訓練

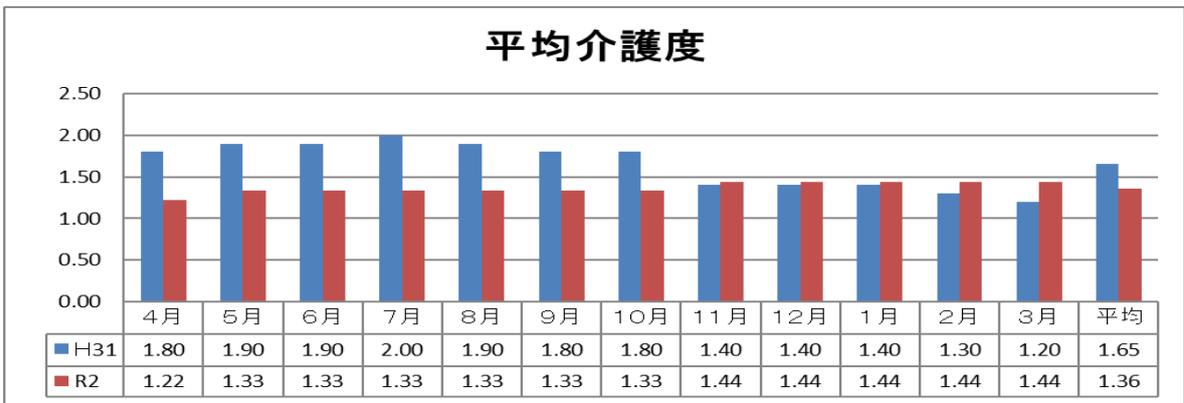
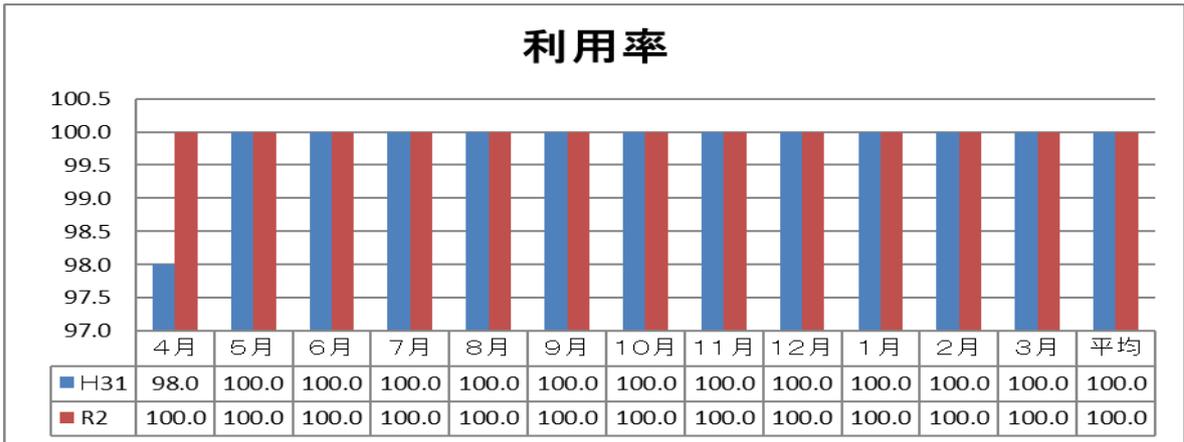
「生活リハビリ」を中心として、日々の生活における掃除、洗濯、炊事などの日常生活の作業を職員と共に行いました。また午前、午後と園内や戸外の散歩、体操、スクワット、昼食前には口腔体操として歌やパタカラ体操を取り入れ、楽しく筋力維持、体力維持、嚥下機能の維持に努めました。

③ 保健衛生

2回/日の体温測定、マスク着用、うがいや手洗い、手指消毒、換気など感染予防対策の徹底、環境整備、健康管理には十分配慮しました。ご利用者様が急変のときには、主治医やご家族様に連絡し必要な治療等が受けられるよう努めました。主治医との連携を密に早期対応を心がけ、日頃の健康管理に取り組みました。

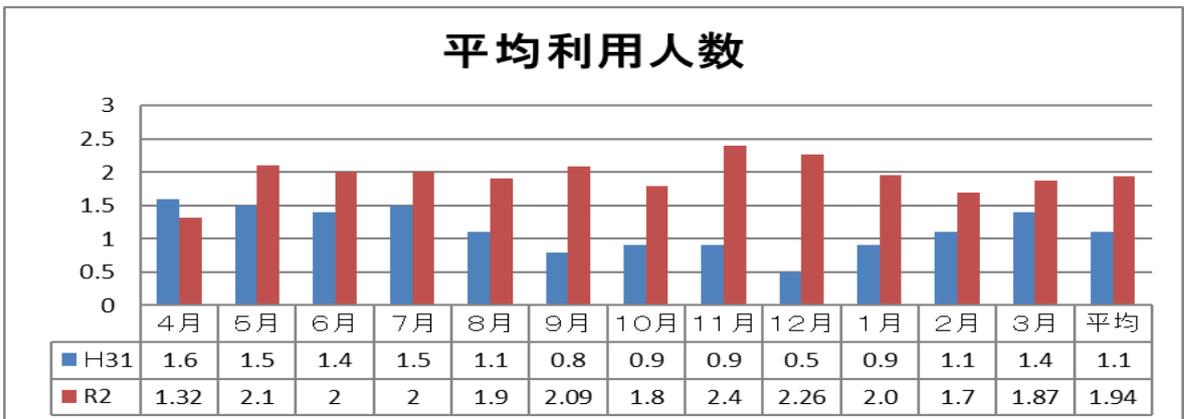
④ 運営推進会議の設置・運営

より地域に開かれた事業運営及びサービス、質の向上の確保を図るため、浜松市職員と地域包括支援センター職員、地域住民代表、ご家族様代表、ご利用者様代表に運営推進委員として参画していただき、定例会議を2ヶ月に1回(年6回)開催していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設開催が1回、他5回は書面で対応致しました。コロナ禍でのグループの活動に対し、励ましや称賛のお言葉を頂きました。



⑤ 認知症対応型通所介護（定員3名）

グループホームの建物を共有し、在宅生活の方のデイサービスを実施しています。定員3名ですが定員を満たすことはできませんでしたが、感染を理由に休まれる利用者はいませんでした。コロナ禍でなかなか思うように営業活動ができませんでしたが、入所の問い合わせの際、デイサービス併設を伝え、介護支援専門員に周知してもらえるよう心がけました。



山崎園居宅介護支援事業所 令和2年度事業報告

【基本方針】

ご利用者様及びご利用者様を取り巻く環境を把握し、ご利用者様のご自宅及び住み慣れた地域で、その能力に応じて、可能な限り自立した日常生活が送られるように支援致しました。また、要介護・要支援状態の軽減または重度化予防を目的とし、ご利用者様の選択に基づき適切なサービスが総合的・効率的に提供されるように努めました。

【重点項目】

① 事業所の安定運営

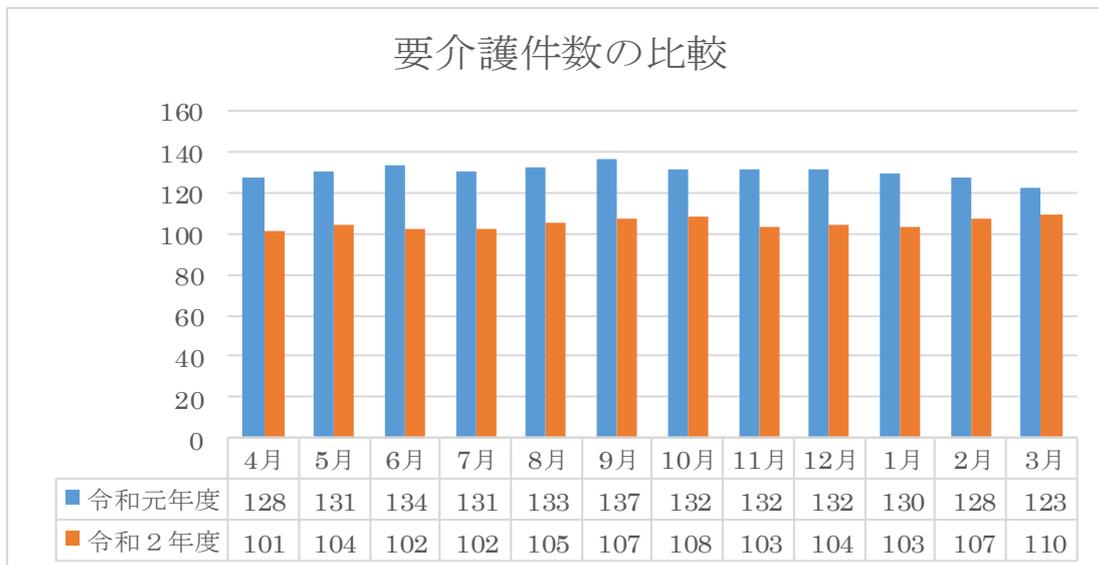
介護支援専門員1名の退職により、本年度の要介護給付管理件数は前年比約79.9%となりましたが、介護支援専門員1名あたりのひと月の平均給付管理件数は要介護34.86件、要支援（事業対象者）8件となり、本年度目標値とした標準担当件数（要介護105件・要支援24件）と比較すると、要介護99.6%件、要支援（事業対象者）100%となりました。

事業所内でのご利用者様支援に関する情報共有を継続するとともに、状況に応じて先手の行動を意識して、新規依頼の積極的な受け入れを行い、事業所の安定運営に努めました。

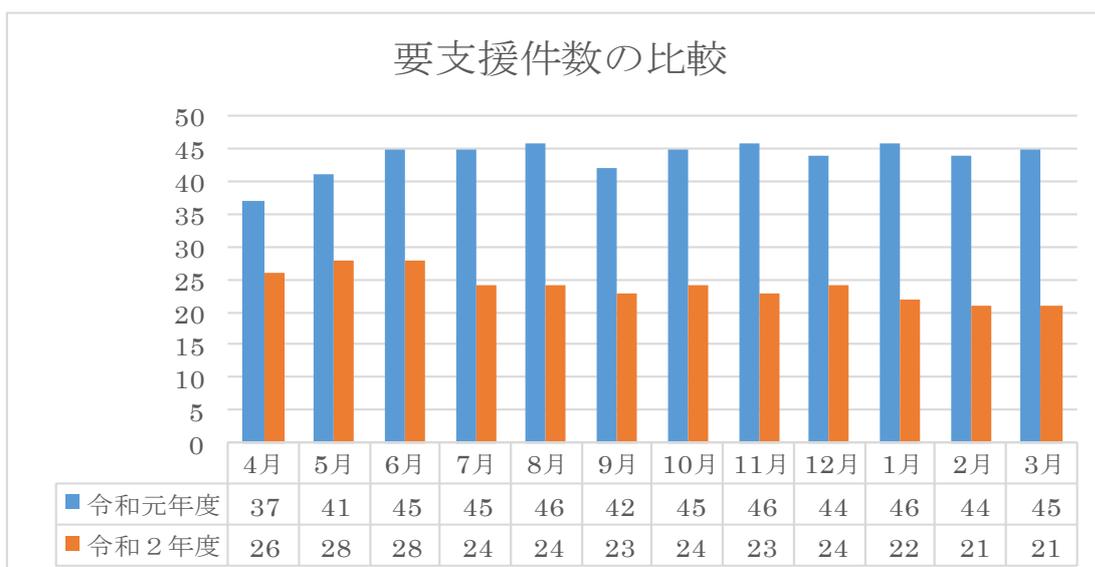
入退院時に係る加算として、入院時情報連携加算Ⅰ及びⅡを計20回、退院退所加算Ⅰを計3回算定しました。新型コロナウイルス感染症の影響により退院・退所加算の算定回数は減少しましたが、電話等により、医療機関との積極的な連携に努めました。

特定事業所加算算定再開については、主任介護支援専門員研修が中止となり、算定要件を満たさないため、次年度へ見送る事となりました。

◇前年度との給付件数比較と件数の推移



要支援件数の比較



② 利用者支援

月に一度以上のモニタリング訪問を行い、ご利用者様・ご家族様の意向を確認・尊重した支援を行いました。事業所内で毎朝のミーティングを実施し、支援進捗の共有、必要に応じて支援内容に関する話し合いを行い、多角的な視点で、ご利用者様への提案・情報提供や支援が出来るよう取り組みました。

③ ケアマネジメント技術の向上

月1回の施設内研修会は参加を継続致しました。法人外部との研修は、予定していた研修が中止になる中、以下のオンライン研修会に参加しました。

9/30 グリーンケアフォーラム オンラインウェビナー

3/24 浜松市多職種連携推進事業 西区研修会① オンライン研修

3/27 浜松市多職種連携推進事業 西区研修会② オンライン研修

④ 地域包括支援センター・法人内居宅合同で、市内の小学校4年生を対象にした認知症サポーター養成講座に以下の日程で計5回参画し、地域で認知症高齢者を支えるネットワーク形成及び事業所評価の向上に努めました。

6/10 神久呂小学校

9/24 大平台小学校

10/14 西都台小学校

10/15 鴨江小学校

10/16 入野小学校

生活支援ハウス山崎 令和2年度事業報告

【基本方針】

生活支援ハウスは、非該当の方や要支援1・2～要介護1までを対象者とし、生活援助員は見守りを主体としつつ、その持てる能力を十分に発揮し高齢者の生活が維持出来るように援助致しました。

介護サービスの支援が必要な方につきましては、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携を図り、ご利用に繋がるよう支援に努めました。

【重点項目】

①事業内容

今年度は中区にお住まいの方の問い合わせが15件と昨年度より4件増加、西区にお住まいの方の問い合わせは20件で昨年度より7件減少、南区からの問い合わせはありませんでした。病院や施設からの問い合わせは10件あり、退院・退所後に直接入所となるケースは4件でした。コロナ禍で施設見学を兼ねた面接が出来ないため、直接訪問の形を取り施設の様子を写真にまとめたものを面接時にお見せし、雰囲気を知っていただきました。

次のお住まいが決まらず利用の延長をされる方もおり、行政に延長申請の届けを提出致しました。利用者が安心して生活出来るよう見守りや相談出来る環境作りを心掛けました。

②利用稼働状況

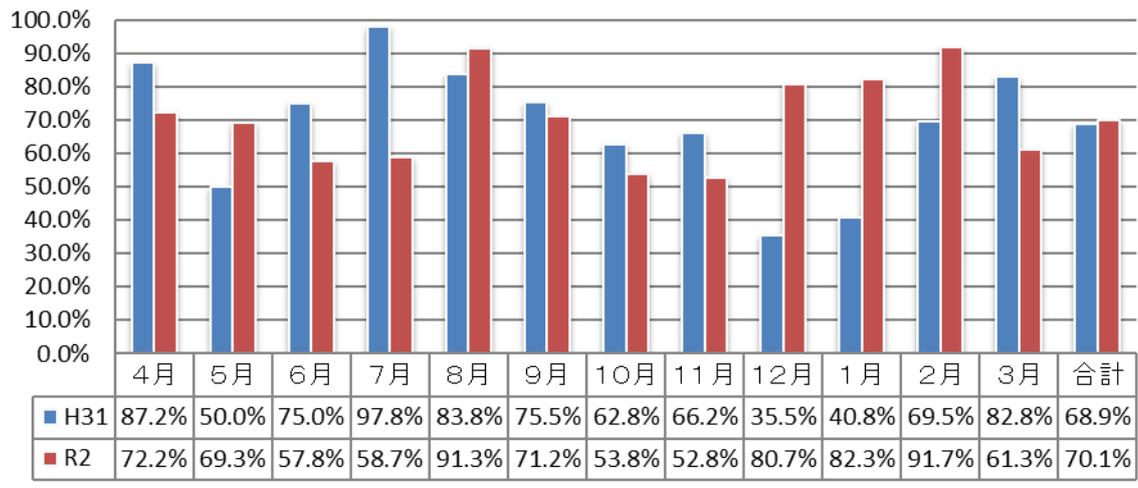
問い合わせ件数は75件と昨年度より5件減少、新規利用は16件、昨年度より3件減少となりました。例年、稼働率が50%を下回ってしまう月もありましたが、今年度はどの月も下回ることなく、平均稼働率は70.3%となり前年度と比較すると1.4%の増加となりました。

ご利用のうち2名はご夫婦で退所後すぐに再利用、ご兄弟でのご利用もあり、同室希望のご利用が3件ありました。

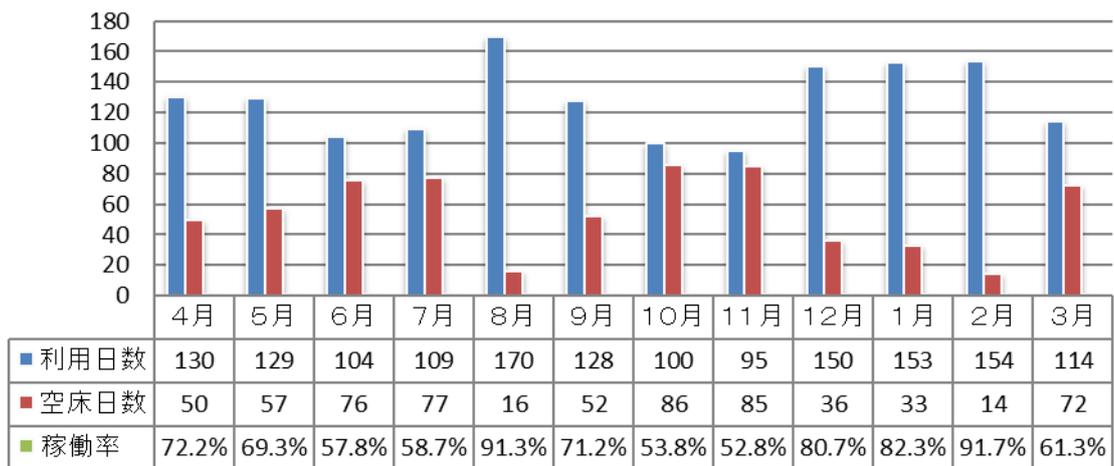
高齢者あんしん一時宿泊事業の利用は1件、利用期間満了後、生活支援ハウスに移行されました。

今後も利用状況を把握し、緊急の問い合わせにも対応出来るよう空床情報の提供の継続、各区役所や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等と連携を図り稼働率の向上に努めていきます。

生活支援ハウス稼働率比較



令和2年度利用日数・空床日数比較



救護施設神ヶ谷園 令和2年度事業報告

【基本方針】

生活保護とは、資産や能力などのすべてを活用しても生活に困窮する人に対して、国が経済的な援助を行う制度です。生活保護制度の原理と原則を定めた生活保護法に基づいて保護の必要性が認定され運用が行われます。日本国憲法第25条すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有することから救護施設は、健康で文化的な最低限度の生活を保障し、セーフティネット施設として役割を担ってきました。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、行事や活動がほとんど出来ませんでした。また、利用者の転倒事故による骨折が増加しましたので、体操や運動を多くして転倒事故防止に努めました。

【介護職員重点項目】

利用者の平均年齢が高くなっていて、その上に精神状態が不安定だったり集団生活に不慣れだったりして身体能力の低下に伴う転倒事故が複数回ありました。利用者の精神・身体状況の把握が不十分であったことや、新規利用者の受け入れ対応の不備も一因であったと考えます。改めて利用者の精神・身体状況に見合った適切なサービス提供を検討して、ヘッドガードの装着、車椅子も含めた歩行補助器具利用の見直し、食事提供形態の変更を行い転倒や嚥下事故の防止に努めました。また、居室の見直しをして居室変更を行い、新規受け入れは1階の居室で実施できるように居室変更をして安全の確保に努めました。

新型コロナウイルスについては、本部からの指示に加えて毎日の定期的な居室の換気と職員による買物の代理購入を実施し、感染防止に努めました。行事としては、例年行っていた旅行や親睦行事は中止となりましたので、ゲーム大会やお楽しみ食事会・おやつバイキングを開催し利用者の気分転換を図りました。

利用者の平均年齢

区 分	最低年齢	最高年齢	平 均 年 齢	
男 性	20歳	83歳	61.0歳	61.5歳
女 性	47歳	84歳	62.5歳	

【生活相談員重点項目】

新型コロナウイルス感染防止のため、色々な制限がかかる中で少しでも利用者の不安・不満・ストレスを取り除き、安心して生活できるよう努めてまいりました。また、関係機関と連絡・調整を図り、感染症を理由に不利益を被らないよう努めました。

利用者の入退所状況（1）、入所者の入所前環境（2）、退所者の退所先（3）の通りとなりますが、65歳以上の高齢利用者が多く施設移行待機状態にありますので関係機関へ働きかけ、その方にあった施設等に移行できるよう働きかけています。

新型コロナウイルス感染拡大のため、今年度の対外行事はほとんどが中止になりましたので施設の中でできる行事に置き換えて行いました。

(1) 利用者の入退所状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	男性	1			2							1	1	5
	女性			1	1				1					3
退所	男性			1			2		1	1	1			6
	女性	1	1						1					3
月末人員	男性	71	71	70	72	72	70	70	69	68	68	69	70	70
	女性	36	35	36	37	37	37	37	37	37	36	36	36	36
	合計	107	106	106	109	109	107	107	106	105	104	105	106	106

(2) 入所者の入所前環境

精神科病院から	5名
在宅から	2名
支援施設から	1名
入所者合計	8名

(3) 退所者の退所先

地域生活への移行者	3名
高齢者施設への移行者	2名
他の障害者施設への移行者	1名
死亡退所	3名
退所者合計	9名

【栄養士重点項目】

季節感を取り入れた食事提供

- ・4月：春献立（筍御飯と旬の食材を使用した料理提供）
- ・5月：八十八夜…茶饅頭 こどもの日…柏餅
- ・7月：七夕献立(昼食：七夕そうめん、天ぷら、天の川ゼリー、

夕食：星形ハンバーグ、すいか)



- 8月：山の日…富士山どらやき
- 9月：重陽の節句…栗御飯、梨 彼岸中日…おはぎ
- 10月：十五夜献立(さんまの塩焼、きぬかつぎ、まんまる月ゼリー)



ハロウィン…おやつ：南瓜のカップケーキ、夕食：パンプキンババロア

- 12月：クリスマス献立
(24日…ミートローフ、クリスマスデザート、25日…フライドチキン)



31日…年越しそば

- 1月：おせち料理(写真は1月2日昼食)



七草献立(昼食…年明けトマトうどん、夕食…七草がゆ)



11日…鏡開き おやつに白玉ぜんざいを提供

- ・2月：節分献立(寿司、いわし、呉汁) バレンタイン…チョコレート菓子



- ・3月：ひな祭り献立(海鮮ちらし寿司、ひなあられ) 彼岸中日…ぼたもち



ご当地メニュー ※写真を撮り忘れていたため、令和3年度は撮り忘れのないようにします。

- ・4月30日(木)：なすにゅうめん(香川)
- ・6月4日(木)：長崎ちゃんぽん(長崎)
- ・8月27日(木)：盛岡じゃじゃ麺(岩手)
- ・8月31日(月)：瓦そば(山口)
- ・11月26日(木)：しっぽくうどん(香川)
- ・3月13日(土)：深川丼(東京)

【看護師重点項目】

内科嘱託医師が月2回、精神科嘱託医師が2週に1回の定期的な回診補助を行い健診や血液検査を通じて利用者の健康状態を把握するとともに、確実な内服投与や予防接種を行いました。

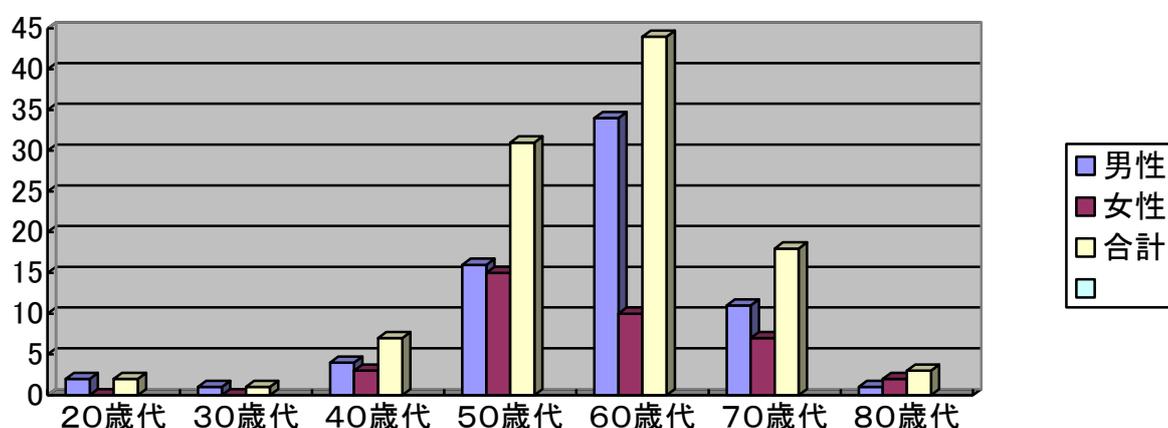
また、毎日の体温測定と日常的な心身の健康状態のチェックを行うとともに、定期的に血圧測定や体重測定を実施して健康管理の資料となるデータ収集に努め、利用者の健康管理に当たりました。

利用者の高齢化により医療が必要な場合も増加していますので、通院の援助を行い疾病の早期治療に取り組みました。

新型コロナウイルス感染症については、感染者を出さないよう細心の注意を払って気を付けています。高齢で基礎疾患を持っている利用者が多いので、今後も油断することなく感染症に注意し健康管理には最善を尽くしています。

利用者の年齢構成

年齢別	20歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳～ 79歳	80歳 以上	計
男性	2	1	4	16	34	11	1	69名
女性	0	0	3	15	10	7	2	37名
計	2	1	7	31	44	18	3	106名



【作業担当重点項目】

新型コロナウイルス感染症の影響で仕事量が激減しました。現在、3社から仕事をいただいておりますが、仕事があつたりなかったりの毎日を過ごしております。

電線を巻いて結束する仕事は、産業用ロボットに使う部品でこれからも需要が増す仕事と聞いております。

自動車部品の組立作業と検査の仕事は、簡単で神ヶ谷園の利用者でも十分にできる内容ですが、工場が細江町にあり材料の搬入や納品に時間がかかるのが難点です。もう1社は、昔から仕事をしていましてお菓子の箱折りですが、仕事量に波があり以前のような安定した仕事はできていません。

令和2年度の作業工賃収入は平成30年度の38.6%とかなり減少した数字となりました。

2018年度(平成30年度)	作業工賃収入	1,888,241円
2019年度(令和元年度)	作業工賃収入	995,442円
2020年度(令和2年度)	作業工賃収入	729,123円

電線を巻取り結束する作業（写真）



【防災・防犯重点項目】

消防計画に基づいて、毎月の避難訓練・消防設備自主点検を行ってきました。

8月の夜間避難訓練、9月の総合防災訓練、11月の施設防災訓練を実施、また防災備蓄品の点検、保管場所の整理整頓を行い防災倉庫への備蓄品の集約を進めました。また点検の結果、必要と判断した防災用簡易トイレや給水用タンク（写真）の備蓄を行いました。

防犯については、防犯カメラを駆使して不審者の監視を行っています。

また毎月1回は防犯点検を行い、防犯意識を絶えず保ち防犯活動に取り組んでいます。



【居宅生活訓練事業重点項目】

居宅生活の訓練生5名でスタート、施設近隣に法人が借りている訓練用アパートを使い、出納帳による金銭管理指導、献立のチェックによる栄養管理指導、各役所への連絡や書類提出の指導等、退所後の生活を想定した実際の地域生活に近い環境での日常生活訓練・社会生活訓練を行うことにより地域生活に移行できるよう支援を行いました。

前年度より訓練を行っていた2名は問題なく訓練ができ終了。1名は訓練期間を延長していましたが、数回の訓練規則違反が見受けられ施設生活に戻ることで終了。他2名は現在訓練中です。

また、保護施設部門事業部と連携を図り、施設内での訓練生選定や訓練中の評価を統一して行うことを目指し、「居宅生活訓練チェックリスト」「居宅生活訓練実施評価報告書」の作成・活用を行いました。

令和2年度居宅生活訓練事業実施報告

訓練を受けた者	訓練期間	退所年月日	生活訓練等の実施状況	障害等の状況	退所後の通所先等	備考
訓練者A	平成31年3月1日～ 令和3年2月28日	退所不可となる	日常生活訓練	なし	単身アパート生活	規則が守れない事が多くあり退所不可となる。
			健康管理訓練		神ヶ谷園通所希望	
			余暇・趣味訓練			
訓練者B	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	令和2年9月30日	日常生活訓練	精神2級	単身アパート生活	アパート審査が通らず左記期間まで延長していた。
			健康管理訓練	身体3級	神ヶ谷園通所希望	
			余暇・趣味訓練	日常生活に支障なし		
訓練者C	令和元年6月1日～ 令和2年5月31日	令和2年11月14日	日常生活訓練	なし	単身アパート生活	アパート審査が通らず左記期間まで延長していた。
			健康管理訓練		神ヶ谷園通所希望	
			余暇・趣味訓練			
訓練者D	令和2年12月1日～ 令和3年11月30日	令和3年11月30日	日常生活訓練	精神2級	単身アパート生活	
			健康管理訓練		神ヶ谷園通所希望	
			余暇・趣味訓練			
訓練者E	令和3年1月1日～ 令和3年12月31日	令和3年12月31日	日常生活訓練	精神2級	単身アパート生活	
			健康管理訓練		神ヶ谷園通所希望	
			余暇・趣味訓練			

【保護施設通所事業重点項目】

令和2年度は訓練対象者が5名以下のため事業として実施できませんでした。

【苦情について】

令和2年度の苦情につきましては、報告書を作成し全ての苦情は解決できました。

三幸の園デイサービスセンター 令和2年度事業報告

【基本方針】

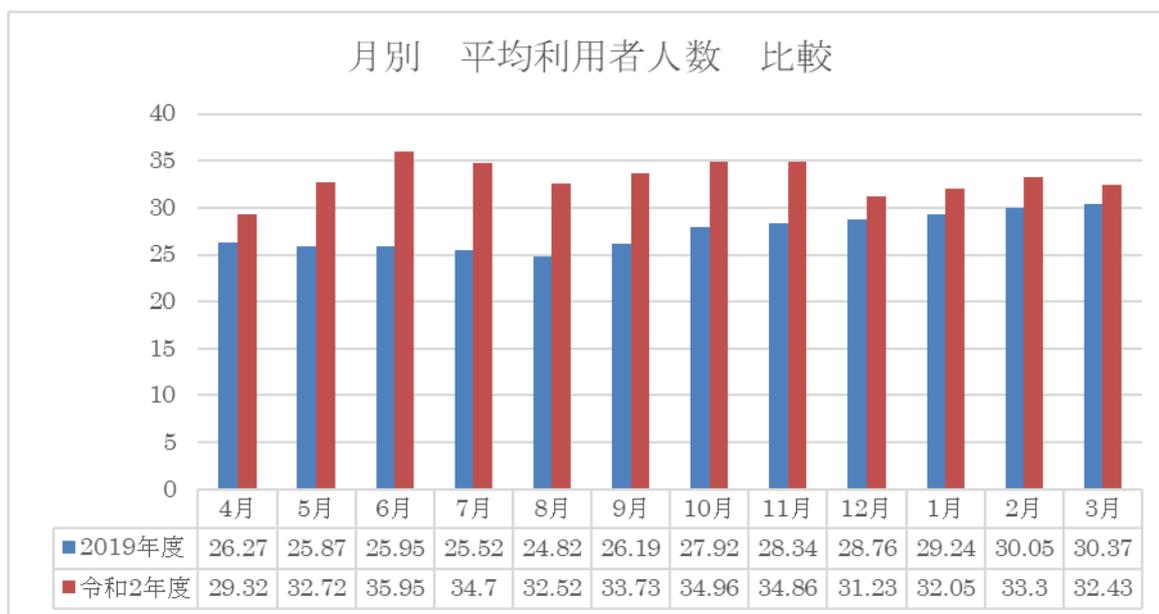
三幸の園デイサービスセンターは、要介護状態となった場合においても、利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図ります。

また、利用者が持つ能力を高め、自立支援に努めるとともに、一人ひとりを尊重した、そのひとらしい生活を支援していきます。

【重点計画】（多職種協働）

- ① 一般型、認知症対応型合わせて月の一日平均利用人数35名以上を目指し、新規利用者獲得を目指す。
 - (1) 新規利用者の獲得を目指し、居宅介護支援事業所、高齢者相談センターへの営業活動、連携を行います。
 - (2) 利用者に満足していただける対応、体制、サービス提供を行っていくため、日々のサービス内容の見直しを常に行い改善に努めます。

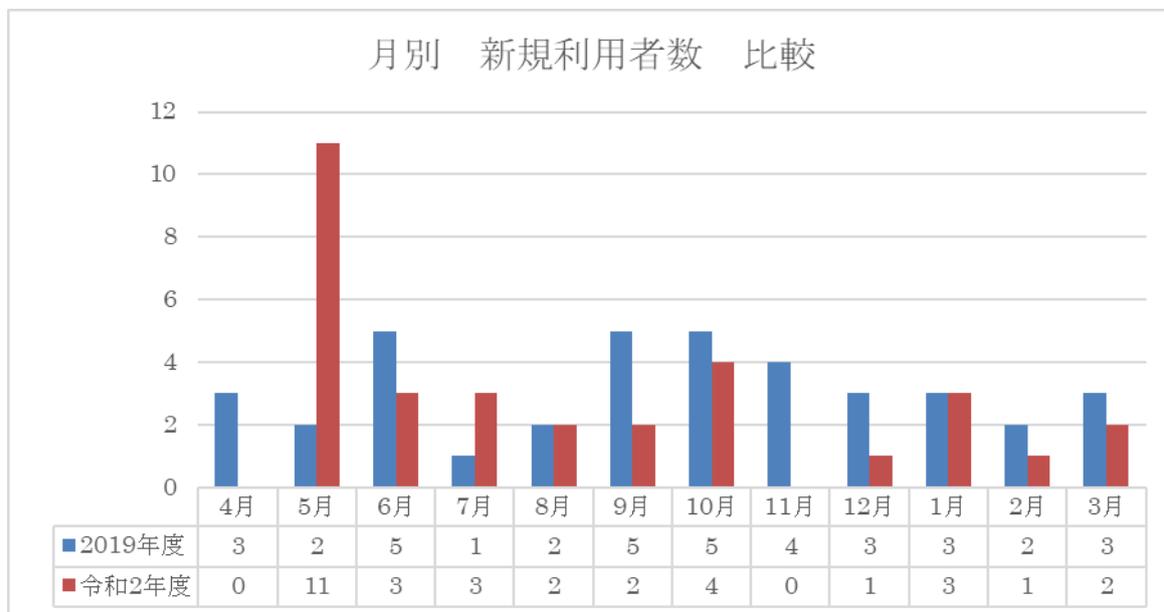
月の一日平均利用人数35名以上は、6月のみ達成することができています。



5月から三幸の園同敷地内の大平台の園へ移設となり、6月より同一建物内のライフケアアダージョ大平台入居者の利用増加に伴い、一般型35名（5名増）、認知症

対応型10名（1名増）となっております。令和2年度は年間を通して32名（うち16名はライフケアアダージョ大平台入居者）と新規契約をしています。

営業活動につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、居宅介護支援事業所と高齢者相談センターへの直接訪問は控えています。利用者状況報告や活動報告、空き情報提供は電話または書面にて毎月1回以上行うことで連携しています。



利用者に満足していただける対応、体制、サービス提供を行っていくために、ミーティングを開催して、日々のサービス内容の見直しを行っています。

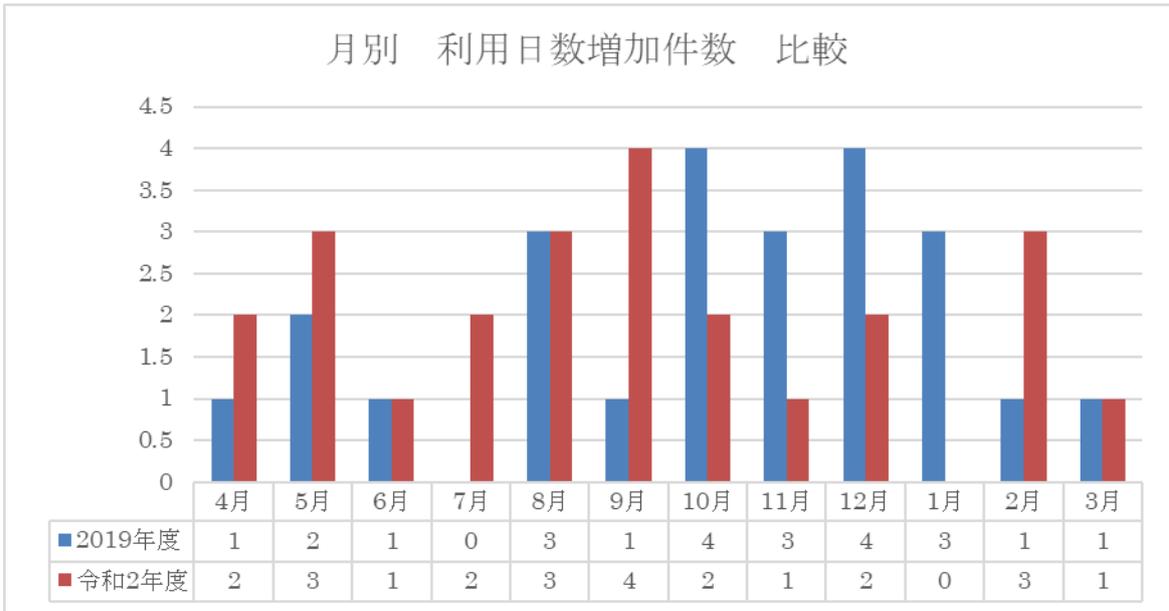
5月より新施設へ移設となり、ハード面が新しくなりました。機能訓練機器が新たに2台増えています。園芸スペースについてもデイサービスフロアと併設し、活動に園芸を取り入れるとともに、活動に参加できない利用者については気軽に作物の成長を観察していただけるようになっています。



機能訓練機器



園芸スペース



【基本計画】（多職種協働）

① 利用者への心のケアの実践

利用者においては、通所介護利用における、身体的及び精神的な変化を最小限にするため、職員の密な声かけ、これまでと変わらない生活が営まれるように支援を行います。

利用者に対して職員一人ひとりがワンタッチ、ワントークを心がけて対応をしていましたが、新施設移設に伴うハード面変更の対応や利用者の増加、新型コロナウイルス感染症予防対応のために、利用者一人ひとりとの関わる時間が短くなってしまいました業務の見直しを行い改善に努めていきます。

② 年間行事の充実

- (1) 季節感を感じていただけるようなイベント（ゲーム・製作活動・おやつ作り・誕生日会等）を計画し、行います。
- (2) 月に3回以上、地域のボランティア団体による慰問、個人によるボランティア（傾聴、活動補助等）を依頼し、利用者には楽しい時間を過ごしていただきます。また地域のボランティア団体には通所介護の取り組みを知っていただく機会を設けます。

季節感を感じていただけるイベント（ゲーム・制作活動・おやつ作り・誕生日会等）については年間計画を作成し、計画に沿って実施しています。新型コロナウイルス感染症予防として、3密にならないように実施しています。

慰問、ボランティアの受け入れについては、新型コロナウイルス感染症の状況をみて受け入れを行っています。月に3回以上の受け入れについては、10月の1回のみ達

成ができています。

③ 通所介護計画書の作成

- (1) 利用者において、身体的及び精神的な状態を勘案して、通所介護計画書・介護予防通所介護計画書を作成し、その有する能力に応じた自立支援が営まれるように援助を行います。
- (2) 通所介護計画の作成、変更の際には、利用者及び家族に対して、当該計画の内容を説明し、同意を得ます。
- (3) 利用者に対し、通所介護計画に基づいて各種サービスを提供するとともに、常にその実施状況について多職種協働で評価を行います。

ケアプランを基に通所介護計画書・介護予防通所介護計画書を作成し、能力に応じた自立支援が営まれるように努めています。通所介護計画書・介護予防通所介護計画書は利用者の状態を確認し、評価を行っています。

④ 機能訓練の実施

- (1) 家族、関係機関との連携を強め、常に利用者の健康状態の把握に努めます。
- (2) ケアプランを基に利用者のニーズに合わせた機能訓練計画を作成し、生活機能の維持、向上に努めます。
- (3) 機能訓練計画の作成、変更の際には、利用者及び家族に対して、当該計画の内容を説明し、同意を得ます。
- (4) 機能訓練の実施状況について多職種協働で評価を行います。

ケアプランを基に利用者のニーズに合わせた機能訓練計画書を作成し、生活機能の維持、向上に努めています。機能訓練計画は、利用者の状態を確認し、見直しと評価を行っています。

⑤ 家族との連携

- (1) 家族との連携については、利用前の状態確認、利用中の状態観察、利用後の状態報告等を連絡ノートや送迎時の口頭での申し送りを行います。
- (2) 家族会の定期的な開催により、情報交換をより密に行い、通所介護の取り組みを知っていただく機会を設けます。

利用前の状態確認、利用中の状態観察、利用後の状態報告等を連絡ノートや送迎時の口頭での申し送りを行っています。また、家族会は認知症対応型で新型コロナウイルス感染症予防対策を行い1回実施しています。通所介護の取り組みについては、活動内容チラシを毎月お渡ししています。

⑥ 事故防止

- (1) 利用者個々の心理状態および身体状態を把握し、職員間の情報共有を行い、転倒等の事故がないよう適切な介護を提供します。
- (2) 事故発生時は、利用者の生命維持を第一に考え、迅速に対応をします。また事故報告書の作成と事故原因を究明し、再発防止に努めます。
- (3) 年間の介護事故、自動車事故を前年度よりも減少させるよう、月に1回以上のリスクマネジメント会議を行い、職員の事故防止の意識を高めます。

今年度は、浜松市に届け出をした事故が0件、それ以外の事故が30件、自動車事故1件の、合わせて31件となっています。前年度の年間の介護事故、自動車事故は18件で、今年度はそれを上回る結果となっています。

事故の内訳としては、転倒8件、服薬忘れ7件、送迎忘れ5件、転落4件、落葉2件、皮膚剥離2件、内出血1件、送迎遅れ1件となっています。職員が注意すれば防ぐことができる事故が多くみられたため、業務改善、事故の再発防止、事故防止の意識向上に努めています。

三幸の園ホームヘルパーステーション 令和2年度事業報告

【基本方針】

在宅サービス基準指針を基に、自立支援、重度化防止を旨とし、知識と技術で利用者の日常生活の支援を行っていきます。利用者の体調、日常行動、言語、動作等を注意深く観察し、早期対応と報告を行い、多職種連携を図っていきます。また、衛生管理、緊急時、災害時の対応を強化し、地域社会で自分らしい生活が営むことができるように、介護の質を上げた最善のサービスを提供します。

【基本目標】

① 訪問介護利用者の確保

月平均利用人数 34.42 人を確保し、月平均派遣回数（令和 2.4～令和 3.3）249.33 回と前年度と比較して 117.6%でした。

1 日平均人数目標 11.5 人に対して 11.71 人と目標を達成することができました。介護サービス別で前年度と比較しますと、身体・生活複合回数が、259.4%と大幅に上回りましたが、身体介護回数が 81.6%と下回りましたので、令和 3 年度は身体介護サービスを積極的に引き受け、より多くのサービスを提供すると共に、安定した事業展開が出来る努力をし、利用者、ご家族、居宅介護支援事業所から安心と信頼を得るよう努めていきたいと思っております。

・ 令和 2 年度・令和 3 年度年間月平均値（4 月～3 月）

	利用人数	派遣回数	身体介護回数	生活援助回数	身体・生活複合回数	予防支援回数	平均人数 /日
令和元年度	31.08	211.92	78.25	46.67	26.08	60.92	9.97
令和 2 年度	34.42	249.33	63.92	51.17	67.67	66.58	11.71
前年度比	110.7%	117.6%	81.6%	109.6%	259.4%	109.2%	117.4%

② 多職種との連携

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、サービス担当者会議が例年より少ない開催でしたが、多種職と連携を図るため、開催された会議については、出席することができました。

実績・サービス状況表などは、FAX での報告が主流となりましたが、利用者の状況の変化が見られ場合は、いち早く電話・FAX などで報告を行い、多職種のチームと共に最善の支援を行うよう努めました。

③ 勉強会・研修会の参加

- ・ 令和 2 年度外部研修内容

10月	新型コロナウイルス感染症の対策・心と体の感染対策	静岡県ホームヘルパー連絡協議会主催
11月	訪問リハビリテーションと訪問介護との連携（リモート）	静岡県ホームヘルパー連絡協議会主催
12月	二宮金次郎映画鑑賞（感想文提出）	三幸会理事長主催

リモート研修1回を含め、合計3回の外部研修に参加し、自己啓発に努めました。令和3年度は、リモート研修を積極的に行い、自己啓発に努めていきたいと思いをします。

④ 衛生管理・緊急時・災害時の対応の強化

新型コロナウイルス感染症の対策中心となる一年でした。健康観察チェックシートにて健康管理・スタンダードプリコーション（標準予防策）を行い、感染対策の強化に努めました。

緊急時・災害時の対応の強化として、事業所の対応策を見直し、利用者個別の対応について話し合いました。

令和3年度は、BCP(業務継続計画)を立て、感染症拡大時・緊急時・災害時でも、可能な限り業務継続できる事業所づくりに努めたいと思いをします。

⑤ 公益的取り組み

・令和2年度公益的取り組み

9月	西都台小学校高齢者福祉疑似体験講座	1名参加
----	-------------------	------

令和2年度は以上1回の公益的取り組みを行いました。令和3年度は、地域社会の中のホームヘルパーステーションとして、昨年度より多くの公益的取り組みを行えるよう努めたいと思いをします。

訪問看護ステーション大平台 令和2年度事業報告

【基本方針】

高齢化が進む中、病院や施設ではなく病気を抱えながら在宅を生活の場としている患者様やその家族または親族の方に訪問看護サービスを提供する事で安心、安楽に在宅療養ができるように支えていきます。

保健医療機関及び福祉サービス事業所と連携を図り、患者様に統一した方向性でサービスが提供できるように致します。また、専門的視野での確な判断・対応していくと共にご本人・ご家族の要望を取り入れた看護サービスを提供致します。

医療ニーズが高い状態で在宅療養される患者様に対して在宅で安心して安全に生活できるように訪問看護サービスを提供致します。

また、在宅で終末期を迎える患者様に対して家族の不安や負担の軽減が図れるように臨機応変に対応していきます。

【計画案に対しての実績】

① ご利用者様のニーズに応じた看護の提供

利用者様やその家族と訪問を重ねるごとに話を聞きながら訪問看護計画書に沿って訪問を行って来ました。終末期を迎える方の緊急時の対応も行い介護負担が軽減できるように対応しました。

2020年度より令和2年度のほうが年間訪問回数 2393件から 2748件となり 355件増加しています。

それにより月の訪問件数が 228.8件と昨年度より約 29件と増加しています。

次年度も訪問件数が増えるように利用者様、ご家族様の話を傾聴し親切丁寧な対応を行い利用者様やご家族に選ばれる訪問看護をめざしてまいります。

② 医師・ケアマネジャー・多職種との連携

医療機関に毎月5日までには報告書を郵送し、ケアマネジャーへ6日までに報告書を郵送又は手渡ししできています。

また、今後の治療方針や対応について利用者様と家族の意思を確認して必要に応じてケアマネジャーや医師と連携をとり、安心して在宅療養または病院で終末期を迎えられるように調整できました。

今後もケアマネジャーや多職種との連携を行い他事業所との繋がりが増えるようにし、利用者様に対して良いサービスが提供できるようにしていきます。

令和2年度は新型コロナの影響で退院カンファレンスやサービス担当者会議は少なかつたですが毎回参加しました。今後も感染予防に努めながら参加してまいります。

③ スタッフの育成、知識・サービスの質の向上

施設内での年4回以上の勉強会参加は目標を全員達成できました。

月1回のカンファレンスも開催できています。ミニ勉強会に対してはいつも同じ職員の伝達講習や勉強会のため職員全員で行ったほうが個々に調べて勉強になると考えるため来年度は担当制にしていきたいと考えています。

④ 健康管理

令和2年度は利用者様や職員を含め新型コロナをはじめとしての感染予防に注意してきました。新型コロナ感染者は出ませんでした。熱発者や体調不良者の対応について感染予防を行い感染防止に努めることができました。

ただ、今後も現在の状況を考えると引き続き感染予防対策の共通認識と理解が大切です。感染の対応策を作成し、職員全員で理解するようにしていきます。

また、災害時の対応策についても作成していきようにしていきます。

地域包括支援センター大平台 令和2年度事業報告

地域包括支援センターは地域の高齢者が住み慣れた地域で安心して過ごすことができるように、包括的かつ継続的な支援を行う地域包括ケアを実現することを目的としています。

運営にあたっては、地域の高齢者等から寄せられるさまざまな期待に応じられるよう、また、介護保険法で定められた地域支援事業が展開できるように、浜松市の運営方針に沿った適正な運営を遂行するとともに、地域包括支援センター相互、また行政との緊密な連携による効率的・効果的な事業展開を図ります。

【重点取組事項】

1. 認知症対策の推進

認知症を正しく地域住民が理解するための普及啓発事業を実施しました。認知症の本人やその家族への支援、早期受診や適切なサービスが受けられるように支援しました。

2. 地域ケア会議の有効活用

個別ケースケア会議は、支援困難ケースの検討のみならず支援につながらないケースや、自立支援・重度化防止の視点で多職種での検討を行い、高齢者とその家族、地域住民、関係機関との支援体制づくりを行いました。

個別ケースケア会議から地域課題を把握し圏域課題の把握や解決に向けて、圏域レベルの地域ケア会議を行いました。

3. 介護予防の推進

圏域におけるロコモーショントレーニングをはじめとした介護予防活動の継続及び推進に向けての支援を行いました。

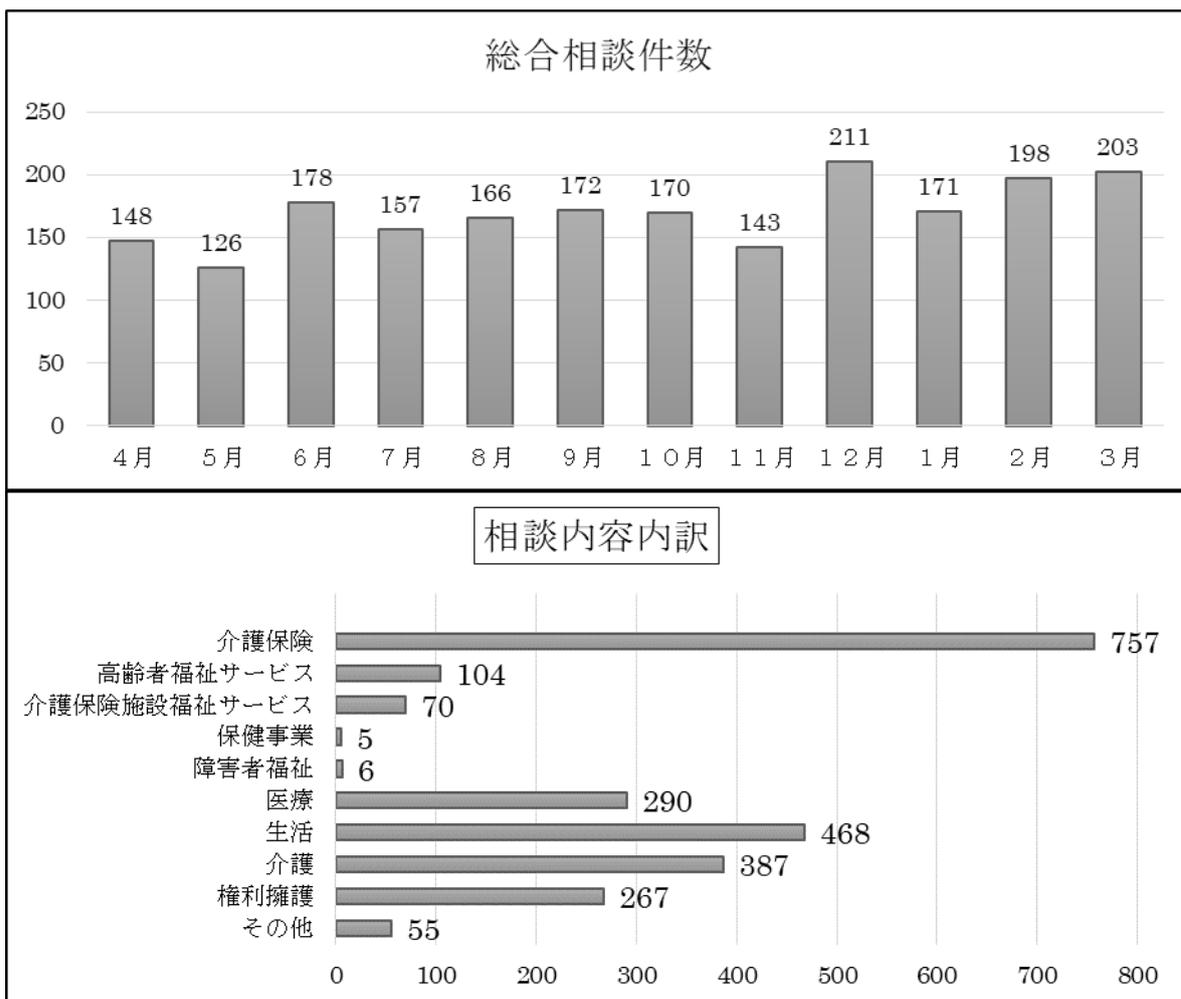
【基本方針】

1. 包括的支援事業

①総合相談支援業務

- ・相談対象者の年齢や相談内容で区別することなく相談を受け止め、適切な機関へつなげることができるように必要な情報収集をして、状況、緊急性の判断を行い、関係機関と連携を図り、迅速な対応を行いました。
- ・高齢者や家族等の状況を把握するために訪問活動を積極的に行いました。
- ・自治会、民生委員協議会、シニアクラブなど地域活動もコロナの影響があり開催の見合わせるが多々ありました。

総合相談件数 2043件 前年度比 92%



③地域におけるネットワーク活動、ニーズ把握を行いました。

内 容	構成員、機関	開催数
大平台圏域会議	入野・篠原地区民生委員 正副会長、相談支援事業所まど・くるみ、社協西地区センター、生活自立相談支援センターつながり	5回

参加

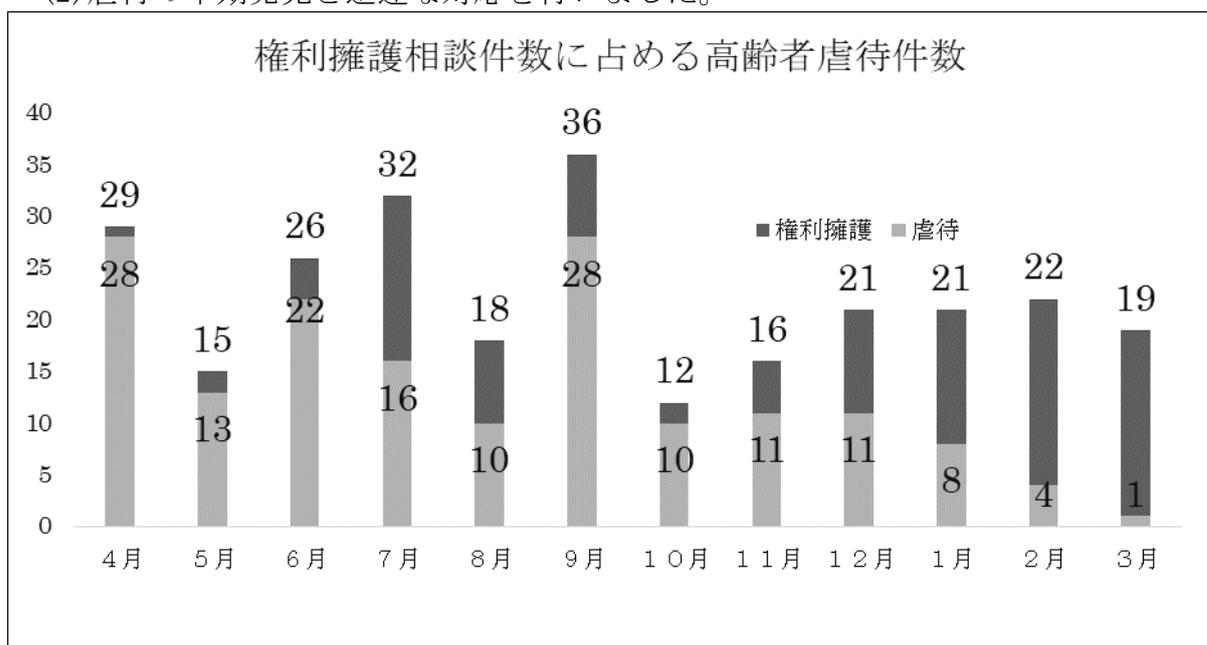
内 容	構成機関・団体	参加回数
認知症初期集中支援チーム員会議	西区・南区長寿保険課、好生会三方原病院、西区・南区包括センター	13回
地域既存組織集会	西区あんしんネット、高齢者サロン、シニアクラブ、自治会、民生委員定例会、地区社協	20回

②権利擁護業務

(1)活動実績（権利擁護広報周知活動）

活動内容	対象	回数など
消費者被害防止、成年後見制度広報周知	高齢者サロン、シニアクラブ、サービス事業所、	13回
西区包括行政虐待進捗管理会議	西区長寿保険課、西区包括センター	6回
成年後見制度申し立て支援	担当地区高齢者	3件

(2)虐待の早期発見と迅速な対応を行いました。



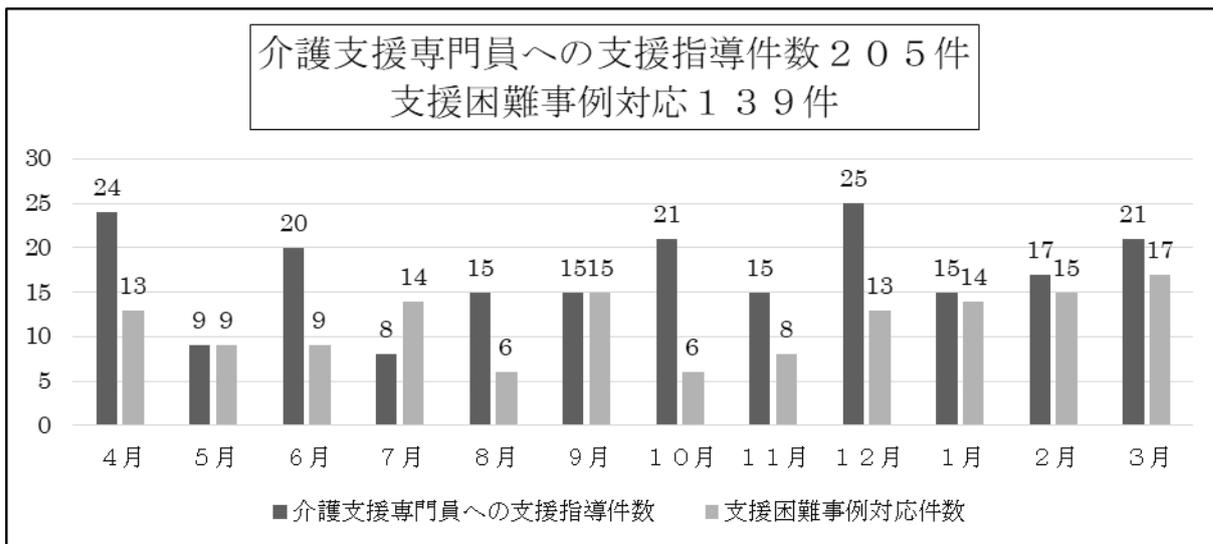
③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

(1) 西区包括センター合同ケアマネサロン開催なし。

(2) 地域密着型事業所運営推進会議

対象	内容
地域密着型事業所運営推進会議	小規模多機能型居宅介護 2ヶ所、地域密着型通所介護 3ヶ所、認知症対応型通所介護 3ヶ所、認知症グループホーム 3ヶ所、地域密着型特別養護老人ホーム 1ヶ所 会議出席 6回。 他、書面報告から回答する。

(3) ケアマネジャーの支援指導及び支援困難事例に対し、助言をして同行訪問等を行いました。



④介護予防ケアマネジメント業務（第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント業務													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
直営	48	48	49	53	52	52	54	58	56	56	62	63	651
委託	112	111	109	108	108	105	106	105	105	108	104	106	1287

⑤在宅医療・介護連推進業務

医師会、多職種と連携して医療介護連携推進を行いました。

西区多職種連携研修 開催 Web	3/13 15:00~17:00	テーマ:ACP について 講義・人生会議手帳の活用について 坂の上在宅医療支援医院 坂田稔之先生 訪問看護細江 看護師 藤野由美子様 (91名参加)
家族介護教室開催	6/15 10:00~11:30 大平台交流室	テーマ:頻尿、便秘予防について 講義:排泄障害ケア専門看護師 佐藤文恵様 (13名参加)

⑥生活支援・介護予防推進のための基盤整備業務

高齢者が地域とのつながりや生きがいを持ちながら暮らしていく

大平台圏域協議体会議 出席	6/25、10/7、1/25、3/12 全4回
ロコトレサロン	新規サロン立上げ2件 既存サロン指導 7か所

⑦認知症施策の推進業務

認知症サポーター 養成講座開催	6/10	神久呂小学校
	9/24	大平台小学校
	10/14	西都台小学校
	10/16	入野小学校
	10/24	大平台地域交流室にて地域住民
	12/11	大平台高校
	3/16	入野町田端地区住民
家族介護教室開催	8/19 大平台 地域交流室	知って安心！認知症講座 精神科認定看護師 杉田百合子様 (7名参加)
オレンジシール	新規登録 14件 廃止 3件	
認知症初期集中支援事業	昨年からの支援継続1件	
認知症地域支援推進員活動	11/11 高齢者ひとり歩き（徘徊）訓練 西区包括合同開催（住民、スタッフ 45名参加）	

⑧地域見守り支援に関する業務

新聞店からの通報により自宅訪問を行い救急搬送したケースと病院から未受診の連絡から自宅訪問するも応答なく警察、義弟とともに管理会社により施錠解除し在宅中の本人の安否確認を行いました。（2ケース対応）

⑨地域ケア会議

月日	テーマ	出席者
7/29	金銭管理に不安のある方の支援体制づくり	親族（姉妹）、民生委員、弁護士、ケアマネジャー、訪問看護、訪問介護、地域包括
9/28	キーパーソン（別居）とケアマネジャーとの関係構築について	居宅事業所管理者、担当ケアマネジャー、サービス事業所、地域包括
10/7	金銭管理に不安のある方の情報と今後の対応を共有し、円滑な支援体制を作る	親族、民生委員、ケアマネジャー、訪問看護、地域包括
10/19	不透明な家族関係により医療・介護ニーズにアプローチできない方への支援方法	民生委員、西南障がい相談支援センター、浜松基幹相談センター、社協西地区センター、地域包括
12/2	経鼻栄養ケアにより介護者の心身ストレスをチームで支え介護継続の方策を検討	親族（長男、長女）、医師、訪問看護、訪問介護、ケアマネジャー、地域包括
1/22	地域住民へ認知症の理解を	民生委員（会長、副会長）社協西地区セン

	求めて本人と地域住民が共に暮らしていくためには	ター、生活相談自立支援センター、地域包括
3/19	地域住民との関りから見えてきた、地域課題と役割づくりについて	民生委員、社協西地区センター、障がい者相談支援事業所、地域包括

2. 指定介護予防支援事業

①公的な機関として、公正・中立な業務を遂行し特定の事業所に偏らないプラン作成をして行いました。

②委託プラン作成では担当介護支援専門員に対して確認、指導を行いました。

指定介護予防支援事業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
直営	73	77	84	85	83	85	89	93	91	96	93	95	1044
委託	57	54	59	53	53	52	53	55	50	49	50	51	636

ユニット型短期入所施設三幸の園 令和2年度事業報告

【基本方針】

要支援・要介護者等のご利用者様が、可能な限り能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、日常生活上の手伝いを行うことにより、ご利用者様の心身の機能の維持並びに家族様の身体的及び精神的負担の軽減を図れるよう、担当介護支援専門員と共に設定しサービスを提供致します。

【利用者様へのサービス】

①生活援助の実施

- (1) 介護支援専門員の作成する居宅サービス計画書に基づき、月4日以上のご利用者様には、短期入所生活介護（予防）計画を作成し、個々にあった個別援助を提供しました。
- (2) ご利用のあった100%のご利用者様に対し個々のニーズに沿った個別機能訓練計画書を作成し、機能訓練士などによる個別機能訓練を実施しました。

②情報の共有

- (1) 依頼のあったサービス担当者会議に参加し、会議開催の無い場合でも書面による情報提供を100%実施しました。
- (2) ロング利用者様は特養のみならず医療系施設など様々な施設に転居されましたが、全ての施設の事前アセスメントに協力し、求めるところの書面での資料を作成し提供致しました。
- (3) コロナ過で十分な面会が叶わないご家族様に対し、納涼祭などの季節行事や日常レクリエーション中の笑顔の写真の提供で楽しみの共有を図りました。
- (4) 上記いずれの場合においても必要時眠りスキャンのデータの共有を行いました。

③栄養管理や行事食の実施

- (1) 粥食やきざみ食、ミキサー食等の形態変更を求めに応じた柔軟な提供のみならず、身体機能の変化や医師の求めに応じた減塩食の提供も行いました。
- (2) バイキングメニュー、鍋などの行事食やイベントを以下の通り実施しました。
5月…子供の日献立、母の日献立、茶娘、郷土料理（東京・長崎）、喫茶の会
6月…父の日献立、ケーキバイキング、喫茶の会
7月…七夕献立、土用の丑献立、冷たいデザートバイキング、健康増進メニュー（疲労回復）、喫茶の会
8月…第二土用の丑献立、納涼祭、郷土料理（山口）

- 9月…非常食使用献立、重陽の節句（栗ご飯）、敬老式典（祝い膳）、敬老の日献立、秋分の日献立、慰霊祭献立、喫茶の会
- 10月…十五夜献立、紅葉献立、十三夜献立、ハロウィン（南瓜）、喫茶の会
- 11月…七五三献立、恵比寿講（たい焼き）、和菓子バイキング、釜飯、郷土料理（山形）、寿司バイキング、和食献立、喫茶の会
- 12月…地の神様（赤飯おにぎり）、冬至献立（南瓜）、クリスマス献立、もちつき、大晦日（年越しそば）、喫茶の会
- 1月…お神酒・おせち料理、人日の節句（七草粥）、成人の日献立、健康増進メニュー（コレステロール）、鍋メニュー、喫茶の会
- 2月…節分献立、喫茶の会
- 3月…ひな祭り献立、お彼岸（おはぎ）、春分の日献立、寿司バイキング、喫茶の会

④保健衛生の確保

コロナ過の一年でしたが、ご利用者や職員の健康管理を送迎時を含め日常的に行い、体調不良時や緊急搬送時には迅速な対応をしました。
職員全員が高い知識を身につけ対応できるよう勉強会を実施しました。

⑤教養娯楽の提供

新聞・図書・雑誌・テレビ等の設置をすると共に、積極的に散歩やラジオ体操、集団体操の実施、レクリエーション、カラオケなどの提供を行い心身機能の維持に努めました。
外出レクとして、3月にお花見ドライブを実施しました。

⑥過ごしやすい環境づくり

定期巡回を行い5Sの徹底を促し、ご利用者様やご家族様も快適に生活できる環境作りを意識し実行しました。

⑦防災・防犯対策の構築

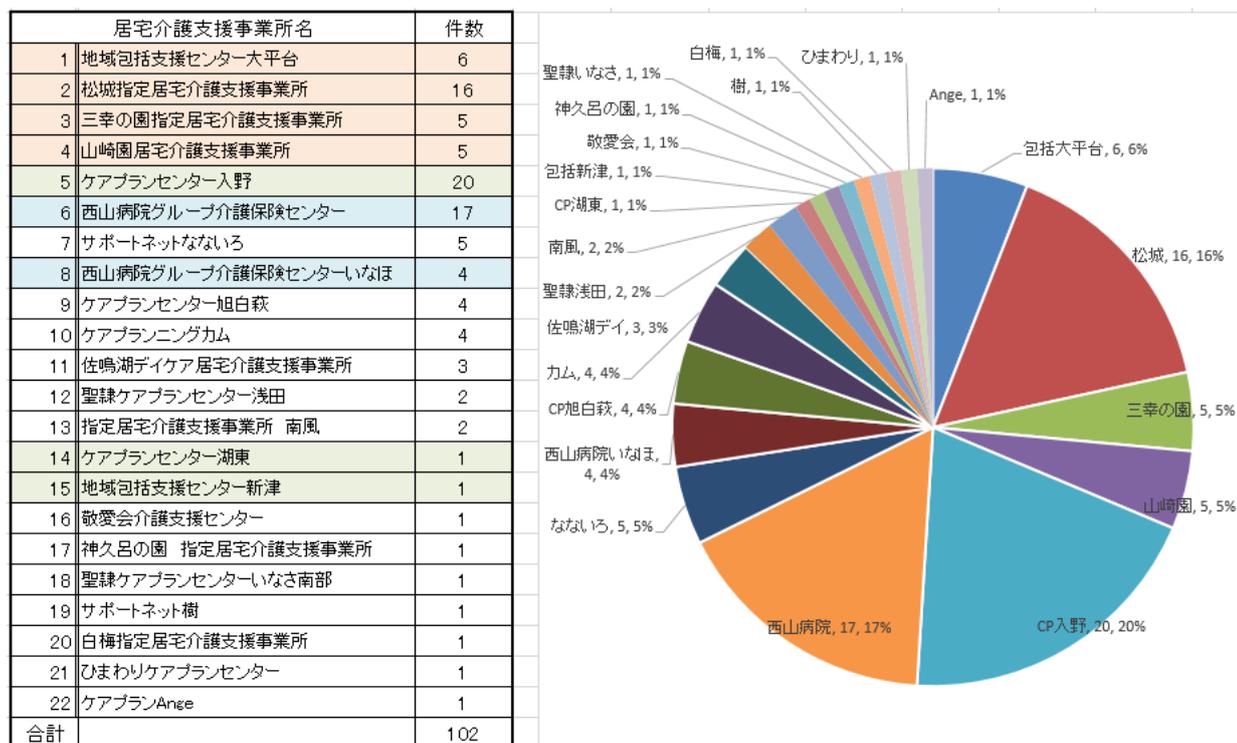
特養三幸の園と合同で、以下の通り消防計画に基づいた年4回の防災訓練と情報伝達訓練を実施しました。

- 6月…防災訓練（避難経路確認）
- 8月…情報伝達訓練（非常連絡網確認）
- 9月…総合防災訓練（避難訓練、消火訓練、応急処置、炊き出し訓練）
- 11月…防災訓練（避難訓練、非常用スロープ確認）
- 2月…防災訓練（夜間想定、消防への連絡訓練）

⑧新規開設後の利用率向上

(1) 地域の介護支援専門員との連携を密に図り、新規ご依頼を年度間で37事業所より計274件の紹介をいただきました。

うち、契約を122件実施し、102件がご利用されました。事業所ごとの紹介（利用実績）内訳は以下の通りです。



(2) 年度計画の月実績80%達成は8月実績時に実現し、年度間平均利用率は80.35%となりました。

令和3年度	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度平均
計画利用率	40.0%	45.0%	55.0%	65.0%	75.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	69.1%
実績利用率	40.8%	64.5%	63.9%	87.9%	93.5%	88.3%	87.7%	78.4%	90.0%	95.7%	93.3%	80.35%

(3) 法人内他事業所との連携について、活動実績は以下の通りです。

三幸の園特養入所…5名、三幸の園ショートへのロング移行…3件、
 山崎園特養入所…2名、山崎園ショートへのロング移行…1名、
 アダージョ大平台入居…2名、アダージョからの緊急ショート受け入れ…7件

ライフケアアダージョ大平台 令和2年度事業報告

【基本方針】

ご入居者が住み慣れた地域で安心して自分らしい生活が続けられるよう、快適な暮らしを支える環境を提供します。また、地域に開かれた施設として、地域交流を積極的に展開いたします。地域の皆様に選ばれる施設となるようサービスの質向上に努めます。

【ご入居者様へのサービス】

① 環境整備について【施設長・生活支援員・用務員重点項目】

生活相談員・用務員が共有フロア、入浴設備、洗濯設備、トイレ等の定期点検、清掃作業を実施し、清潔保持に努めています。

ご入居者様の要望に応じて、受診の送迎・付き添いを月2件以上実施しました。新型コロナウイルスへの感染予防策として、ご入居者様の友人との自由な面会や地域住民との交流機会の確保、集団での買い物ツアーは未実施となっています。

② 食事について【栄養士重点項目】

(1) 食事の提供

月1回の給食会議へは栄養士が出席し、年1回嗜好調査を実施しました。イベント食も月1回実施致しましたが、嗜好調査の結果も踏まえて来年度の食事レクリエーションの充実に繋がります。

(2) 厨房職員及び設備の衛生管理の実施

給食委託事業者のエームサービス株式会社と管理栄養士と協働し、厨房職員の健康・衛生チェックと厨房設備の衛生点検及び消耗部品の定期交換を行うとともに各種マニュアルの整備をしています。

施設内の防鼠・害虫駆除については保守点検を毎月1回、駆除作業を半年に1回実施し、厨房全体の衛生保持に努めています。

(3) 防災対策

保存食の備蓄管理を毎月1回実施し、他職種参加の炊き出し訓練を総合防災訓練(令和2年9月1日)内で実施しています。

【安定運営・地域交流について】

③ 定員確保及び多職種連携について【施設長・生活支援員重点項目】

開設準備段階から45件の入居前面接を実施しています。入居件数の進捗と入居申し込み件数については、別表のとおりとなります。

入居前提で面接済みであった方

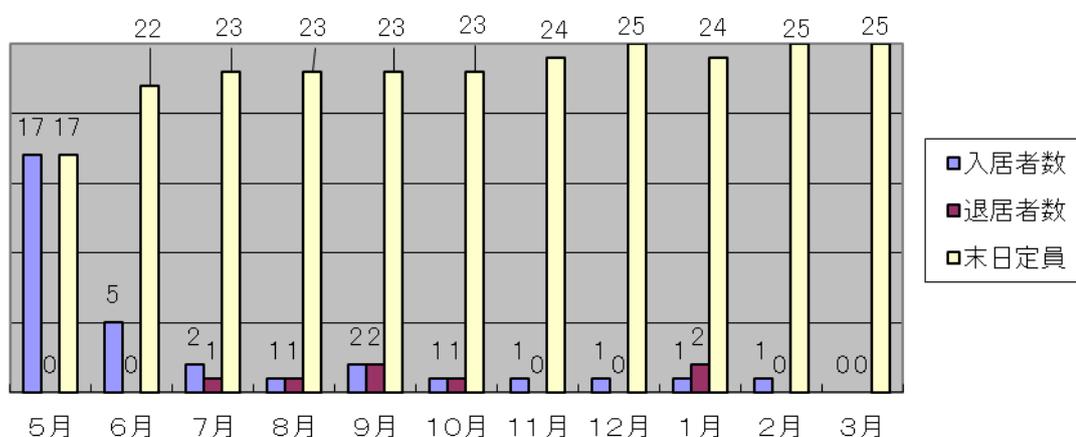
のキャンセルが相次いだこともあり、当初計画を下回る進捗状況となりました。

また、ご入居後に体調を崩される方も複数おり、7名のご退居がありました。

地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、医療機関の相談室等と情報の共有と積極的な連携を行い、定期的に入居申し込みを頂いております。

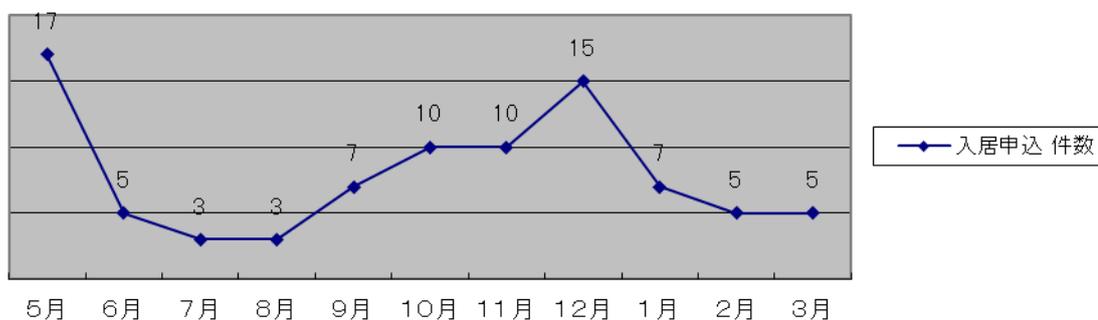
数値目標 定員 25名

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居者数	17	5	2	1	2	1	1	1	1	1	0
退居者数	0	0	1	1	2	1	0	0	2	0	0
末日定員	17	22	23	23	23	23	24	25	24	25	25



申し込み件数

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
申込件数	17	5	3	3	7	10	10	15	7	5	5	87



地域包括支援センター大平台との協働により地域交流室を活用し、健康体操教室、手話サークル、子育てサロン、地域のシニアクラブ等への活動支援を行うとともに、ご入居者様の地域参加の機会を確保しています。

④キャリアパス構築について【多職種連携重点項目】

(1) 委員会について

毎月1回の委員会開催、年12回の勉強会を実施しています。委員会に属している職員だけではなく、感染・事故対策・身体拘束・褥瘡・排泄・防災・接遇・その他のケアについての知識が身に付くように全職員に周知しています。

(2) 職員研修

施設内研修会を毎月1回実施し、時代の変化に応じたケアが提供できるよう、オンライン形式で講義を実施し、職員の自己研鑽に繋げました。

外部研修については、出張形式への参加は自粛致しましたが、オンライン研修に参加しています。

⑤地域との連携について【多職種連携重点項目】

防災対策委員会中心に消防計画に基づいた訓練と各設備器具の自主点検の実施、異常の有無の確認と整備をしています。

施設内の防災訓練は毎月1回以上計画通りに実施しておりますが、地域の防災訓練が中止となったことで、地域と連携した防災対策が課題となります。

防犯に対する訓練が不十分であることから、次年度には刺又の使用方法や不審者が侵入時の対応方法の講習を行い、緊急時落ち着いて対応できるようにしていきます。また、侵入防止対策とし外部からの不審者を防犯カメラで監視し録画を保存しています。

⑥年間行事及び外出支援【多職種連携重点項目】

年間行事として、納涼祭、敬老会、運動会、新年祝賀式、花見ドライブ等を企画実施しました。外出支援（買い物ツアーや日帰り旅行等）については、感染症の蔓延状況から未実施となっています。

松城デイサービスセンター 令和2年度事業報告

【基本方針】

私たちが目指すものは、利用者がその居宅において持っている力を使い日常生活を送ることが出来るよう生活に必要な支援、及び機能訓練を行ないます。また利用者の心身機能の維持向上を図ることで更なる生活の質を高めます。

【計画に対する評価】

- ① 登録利用者一般型毎日25人を超えるようにする
 - (1) 新型コロナ感染症が流行した関係上、営業スタイルを居宅事業所へパンフレット等の郵送、FAX、電話と大きくスタイルを変えざるを得ませんでした。しかしこれがケアマネージャーとの直接会話をする機会が増え、今まで係りのなかった3事業所からご利用者を紹介して頂く事が出来ました。
 - (2) 新型コロナ感染症が流行した為地域活動が中止となり参加することはできませんでした。
 - (3) 見学やお試し利用を営業時宣伝し、お試し利用を510円から無料に変更する事により気軽にお試し利用をして頂く事ができました。お試し利用して頂いた方は22名
契約へと結び付いたのが21名でした。
 - (4) 登録利用者25名以上達成は、月曜日の8月、9月、11月、12月のみ達成出来ました。その他月・曜日は目標を達成する事は出来ませんでした。
 - (5) 認知症型は月曜日によって、7月の金曜日が登録者10名・利用者10名・稼働率が81.25%と順調の時もありました。認知症型はどうしても利用予定日がショートに変更、新規者を獲得しても施設入所や体調不良などで休みが多く、利用終了になるケースが早い為稼働率は安定しませんが、2年前と比べますと1日辺りの平均利用者が4.7名から6.7名へと順調に増えています。
- ② カラオケ、活動を通じ気持ちが明るくなる雰囲気を大切にします
 - (1) おやつ作りや製作活動などはご利用者様にやっていただくことにより楽しみ更により脳の活性化等に繋げることができました。
 - (2) 通信カラオケ機材を導入しています。カラオケだけではなくゲーム、体操などが追加されていきマンネリ化を防ぐ事もできています。体操やゲームにも活用しご利用者に喜んでいただくことができました。懐かしの歌をBGMとして流しおやつ時には喫茶店にいる雰囲気づくりにも一役かってくれました。
 - (3) 月ごとの変わり湯は入浴をされるご利用者様には好評でアンケートの中にも喜びの声を聞く事が出来ました。

4月みかん湯
5月よもぎ湯
6月大根葉湯
7月どくだみ湯
8月ミント湯
9月ミント湯
10月みかん湯
11月アロエ湯
12月米ぬか湯
1月みかん湯
2月ローズマリー湯
3月大根葉湯
を実施しました。

③ 5Sの徹底・事故ゼロを目指します

- (1) 新型コロナ感染症を職員が持ち込まない為に職員が毎日の検温及び体調管理チェック、外食、不要な外出控えの徹底を行い感染者0名でした。
- (2) 事業所で新型コロナ感染症を発生させない為に、定期的な換気、酸性水噴霧器導入、スペース的に対面になってしまうテーブルには、仕切り用パーティションを設置、除菌掃除の徹底などを行い感染予防対策徹底しました。感染者を0名継続する事が出来ました。
- (3) 浜松市へ報告する介護事故は1件ありました。さいわいな事に大きな怪我を負う事故ではありませんでした。
- (4) 単独での公用車事故は5件ありました。相手のある事故は0件でした。

④ 慰問・ボランティアに関して。

- (1) 慰問ボランティアは新型コロナ感染症流行の為に今年度は受入0回でした。
- (2) 上記の理由と同じく実習生の受け入れも0件でした。

⑤ 通所介護計画書・介護予防通所計画書に関して

- (1) ケアプランを基に利用者様に無理なく、自立支援が営まれるように作成しました。
- (2) 作成は利用者様及び家族様が理解し易いように専門用語をなるべく控え作成しました。
- (3) 評価は全職種共同で行いました。

⑥ 個別機能訓練計画書・運動機能向上計画書に関して

- (1) 利用者様の身体状況をしっかり把握して作成しました。

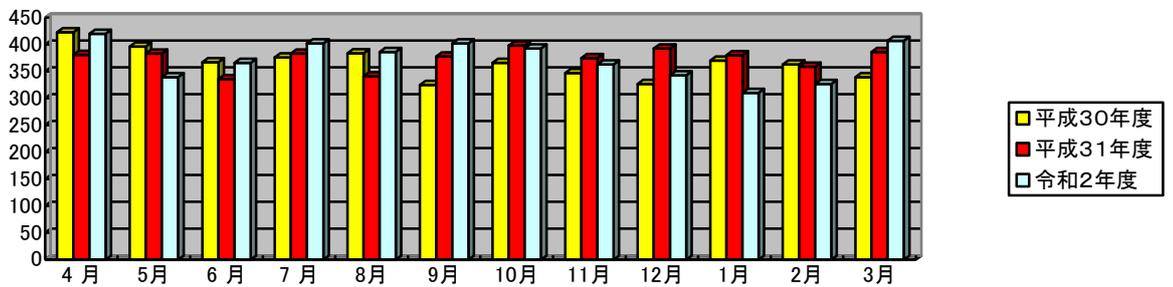
- (2) ケアプラン其に利用者のニーズに合わせ作成しました。
- (3) 評価は全職種共同で行いました。
- (4) 計画書に基づいて機能訓練実施しました。

⑦ 家族とのやりとり

- (1) 利用者様のバイタル、検温測定、体重測定の結果、心身の状態を連絡ノートに記載しています。
- (2) レクリエーション活動、表情、どのような感じで過ごされたことも連絡ノートに記載しています。
- (3) 急を要する事、重要事項は直接家族様と連絡を取って報告をしています。
- (4) 送迎も職員が行っていますので、笑顔でのあいさつ及び家族様と口頭の申し送りも行いました。
- (5) 松城かわら版を毎月作成し、レクリエーション活動の内容、利用者様の活動写真など掲載し見える化を行いました。

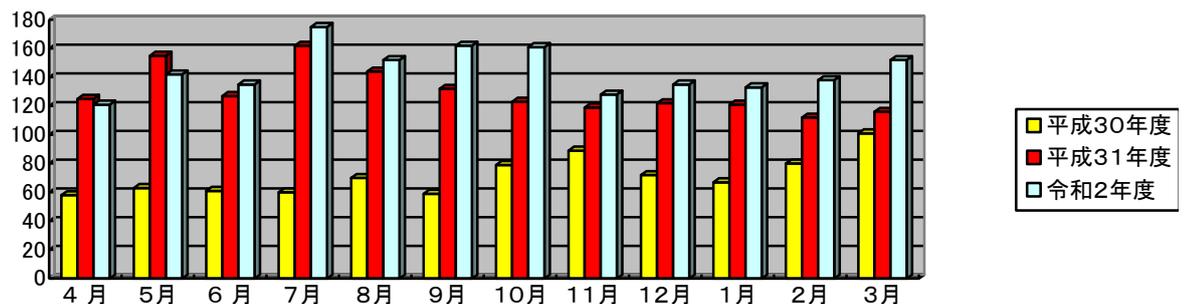
月別利用者人数 令和2年度 一般型 (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
稼働日数	22	21	22	23	21	22	22	21	23	21	20	23	21.75
延べ人数	420	339	366	402	386	402	393	363	343	310	327	407	371.5
平均/日	19.1	16.1	17.5	18.4	18.3	17.9	17.3	17.3	15	14.8	16.4	17.3	17.07
平均 介護度	2.1	1.9	1.8	1.8	1.8	1.9	1.9	1.8	1.6	1.7	1.6	1.6	1.79



月別利用者人数 令和2年度 認知症型 (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
稼働日数	22	21	22	23	21	22	22	21	23	21	20	23	21.75
延べ人数	121	142	135	175	152	162	161	128	135	133	138	152	144.5
平均/日	5.5	6.8	6.1	7.6	7.2	7.4	7.3	6.1	6.1	6.7	6.9	6.6	6.7
平均 介護度	3.8	3.3	3.2	3.4	3.4	3.4	3.0	2.7	2.7	2.5	2.6	2.7	3.1



令和2年度レクリエーション活動報告

【おやつ作り】

- 4月 お好み焼き
- 5月 かしわ餅
- 6月 パンケーキ
- 7月 わらび餅・水まんじゅう
- 8月 あんみつ・フルーツ寒天
- 9月 おはぎ
- 10月 芋ようかん
- 11月 蒸饅頭
- 12月 クリスマスケーキ
- 1月 すいとん入りおしるこ
- 2月 たこ焼き
- 3月 ぼたもち



令和2年度レクリエーション活動報告

【製作】

- 4月 鯉の滝登り
- 5月 壁飾り (6月・7月用)
- 6月 ハーバリウム
- 7月 壁飾り(8月・9月用)
- 8月 フラワーアレンジメント
- 9月 壁飾り (10月・11月用)
- 10月 お正月用お花飾り
- 11月 壁飾り(12月・1月用)
- 12月 干支飾り
- 1月 壁飾り(2月・3月用)
- 2月 裁縫・和紙・かるた作り (選択制)
- 3月 フラワーアレンジメント



松城指定居宅介護支援事業所 令和2年度事業報告

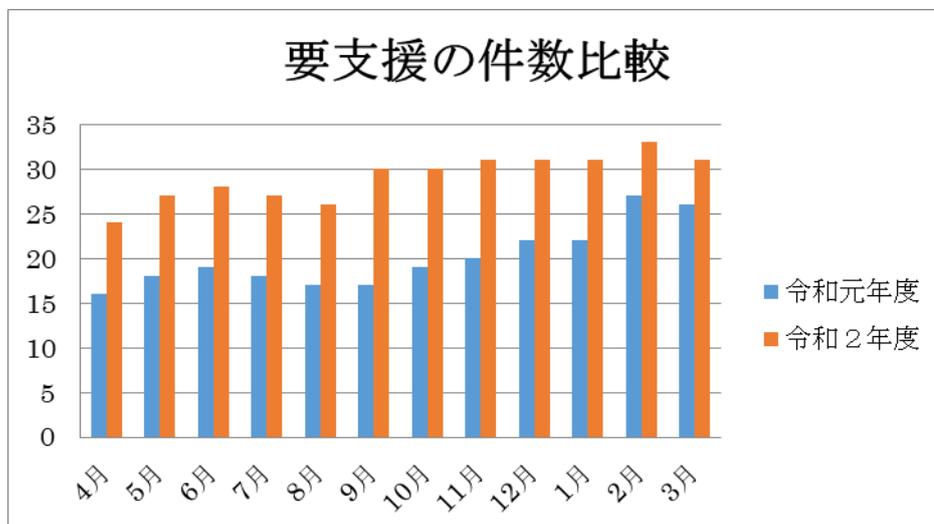
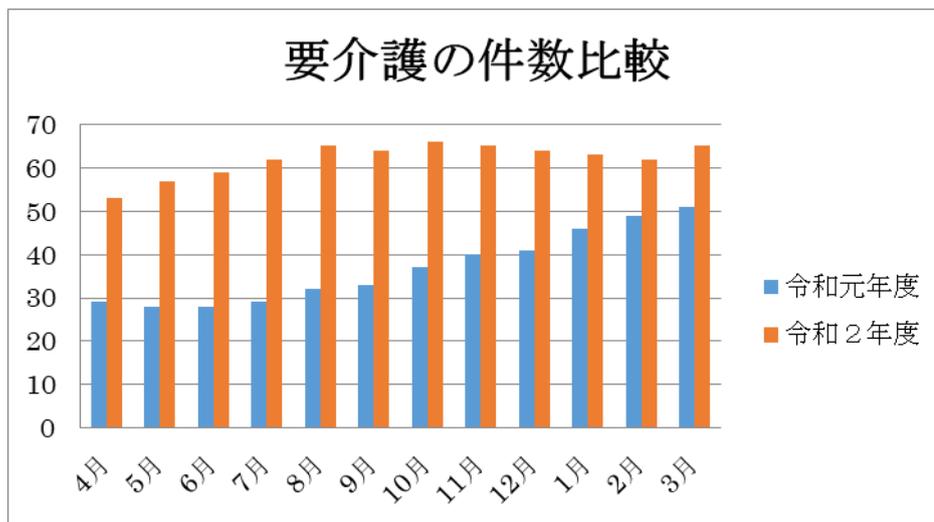
【基本方針】

利用者様が可能な限りその他居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援します。利用者様の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき適切な保健医療サービス及び福祉サービスが多様な業者から総合的かつ効率的に提供されるよう支援します。利用者様の意志及び人格を尊重し常に利用者様の立場にたち、利用者様に提供されるサービスが不当に偏ることのないよう、公正中立に行います。住民による自発的な活動によるサービスを含めた地域における様々な取り組みを行うものとの連携に努めます。

【基本計画】

① 事業の安定運営

◎前年度との請求件数の比較は下記の通りです。



介護支援専門員一人あたりの月平均実績は 38.27 件（予防 0.5 件換算）。
2019 年度は 35.3 件でしたので 2.97 件の増加となりました。

② 利用者支援

定期訪問でモニタリングを実施し、サービス利用状況、生活の様子を確認し、適切なケアマネジメントが行われているか評価を行い、適宜、サービス調整を行いました。コロナ禍ということもあり、ご利用者様希望の時は電話連絡にてモニタリングを行いました。

③ ケアマネジメント技術向上

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で上半期はほとんどの研修が中止、無期延期となりました。WEB 研修の案内が下半期から届くようになり、参加をいたしました。外部研修参加は下記の通りになります。

11/9 中区地域包括支援センター主催 ケアトーク広場（安東・中西）

2/13 浜松市多職種連携推進事業「エンドオブライフケア」に関する研修会（安東）

2/26 浜松市社会福祉協議会 成年後見制度と意思決定支援について（安東・中西）

3/10 司法書士会浜松支部 事例検討会（安東・中西）

外部研修参加延べ 7 回、内部研修（施設内自主勉強会、事業所内勉強会）延べ 18 回参加になります。

④ 地域ネットワークの形成・活用と連携

利用者様が住み慣れた環境でより良い生活が続けられるよう、地域の社会資源の活用や民生委員の方との連携、圏域内地域包括支援センターとの連携に努めました。医療連携については、主治医相談用紙の活用、入退院時には、病院との連携に努めました。

⑤ 自法人事業所間および各関係機関相互協力

月に一度の在宅会議の参加をしました。法人内ケアマネ会議について今年度は 1 回のみにとどまり、情報交換や事例検討の機会が少なかったです。令和 3 年度では、2 か月に一度の居宅代表者会議の実施、法人内事業所との情報交換の機会を設け、法人内事業所との相互協力体制の構築に努めていきたいと考えております。

⑥ 公益的取り組み

西都台小学校（福祉体験 9/14・講座 10/14）・大平台小学校（9/24）・鴨江小学校（10/15）・入野小学校（10/16）にて小学校における福祉体験学習のお手伝いをさせていただきました。認知症サポーター養成講座は包括大平台・包括鴨江・三幸の園居宅・山崎園居宅と協働して開催しています。令和 3 年度も活動を継続し、新規の依頼を受けた場合は積極的に受入をしていきたいと思っております。

①在宅部門事業部 HWD 令和2年度活動報告

令和3年3月
社会福祉法人 三幸会
在宅部門事業部
大平台の園 袴田剛史

1. 在宅部門における業務協力支援体制・協調体制・品質向上・新規性向上の構築を図る

【活動報告】

- ① 毎月第三水曜日13時30分からの在宅部門会議の開催は継続実施しました。今期は新型コロナウイルス感染に関わる予防対策で距離を保つ、定期的な換気もしくは空気清浄機の設置を恒常化しました。
 - ・5月の会議はメールで各事業所報告書への質疑応答のみの開催、8月以降の会議では各事業所からの報告書に対する質疑応答は会議冒頭の30分とし時間内に入らなかった部分はメールでの質疑応答に変更しました。
 - ・在宅会議内後半では4～5名の少人数に区分けし、ブロックミーティングを新しく実施を試みました。
 - ◆質疑応答のメール開催では、質問に対しての答えに十分な時間で考えられるメールならではの利点もあり、会議の1時間内以外にも問題について考える時間を持つことで通常開催時と比較しても内容が濃く、コロナ過であっても意義のある会議となりました。
ブロック分けは各事業所を毎月ランダムとして振り分けました。少人数にしたことで各ブロックとも活発な話し合いが出来、各事業所の抱える問題点を洗い出し、改善解決に向けて話し合い、同じテーマで少人数のミーティングは熱を帯びた良い話し合いが前向きに出来ました。
2. 在宅部門の業務の標準化・密着化・広報力強化・営業力強化・多職種連携強化、事業所間交流、見学者増、実習生受入増、ボランティア受入増を図り、生産性向上とお客様獲得を図る

【活動報告】

- ① 実習生やボランティア、慰問受け入れにつきまして、今期は新型コロナウイルス感染に関わる予防対策で各事業所とも計画の大幅な変更が余儀なくされており、以下の受け入れにとどまりました。

月	事業所	内容	団体	人数
5月	三幸デイ	サツマイモ苗植え、計2日間	磐田農業高校	教師・生徒計5名
10月	三幸デイ	傾聴ボランティア、計8回	-	1名
10月	三幸デイ	マジック慰問	富塚マジック	5名
11月	三幸デイ	サツマイモ収穫	磐田農業高校	教師・生徒計5名
11月	三幸デイ	バイオリン演奏慰問	-	1名
1月	三幸居宅	ケアマネ実務研修	-	1名
3月	三幸居宅	ケアマネ実務研修	-	1名

② 三幸ショートではブログの継続掲載を年度間通じて実施し、計24回掲載しました。

③ 法人内デイ間交換研修を計画、実行しました。3月に三幸デイ青島職員がやまざきデイと山城デイに研修派遣されました。

◆慰問やボランティア受入れにつきまして、先方の申し出による回避もありコロナ過で受入れに難しい部分もありましたが、今年度の三幸デイのように可能性を模索しながら結果的に利用者を楽しませるような慰問イベントの開催が出来るよう次年度の各施設・各事業所の活動に期待します。

交換研修に関しまして、デイ通しだけでなく、デイ⇔特養を含め今後も定期的に企画、実行してまいります。

3. 在宅部門の横の情報と会計進捗を共有し、未来軸での課題解決を目指す

【活動報告】

① 下表の通り、グループホームデイや三幸デイ、山崎園ショート（一般型）、訪問系事業所のように大きく数値を伸ばす事業所がある反面、実績数値が昨年度と比較して下がった事業所もあります。それでもおおよそ1%未満の減少とほぼ横ばいの数値で終わりました。

	2019年度平均	令和2年度平均	前年度比	前期比(参考)
山城デイサービスセンター(一般型)	57.3%	56.87%	-0.43%	-0.73%
山城デイサービスセンター(認知症型)	50.1%	54.81%	+4.71%	+0.41%
三幸の園デイサービスセンター(一般型)	75.1%	80.27%	+5.17%	-0.83%
三幸の園デイサービスセンター(認知症型)	54.7%	58.59%	+3.89%	-1.71%
やまざきデイサービスセンター(一般型)	87.4%	80.16%	-7.24%	+0.24%
グループホームやまざきデイサービス	51.0%	66.36%	+15.36%	-0.64%
短期入所施設三幸の園	85.6%	84.63%	-0.97%	+0.13%
ユニット型短期入所施設三幸の園	-	80.35%	-	+4.75%
短期入所施設山崎園	70.6%	77.35%	+6.75%	-0.75%
ユニット型短期入所山崎園	76.1%	75.23%	-0.87%	+1.73%
生活支援ハウス山崎	71.0%	70.26%	-0.74%	+2.76%
三幸の園ホームヘルパーステーション	9.97人/日	11.71人/日	+1.74人/日	-0.29人/日
やまざきホームヘルパーステーション	9.56人/日	11.97人/日	+2.41人/日	-0.23人/日
訪問看護ステーション大平台	9.26人/日	10.63人/日	+1.37人/日	+0.33人/日

- ・三幸デイ（一般型）、訪問系はアダージョ入居者のサービス利用獲得もあり大きく数値を上げる運びとなりました。
 - ・やまざきデイにつきまして、相談員の交替以降厳しい状態が年間を通して続いています。現相談員も他事業所から学ぼうとする姿勢が強く感じられ、第3四半期と比較すると微増、3月度もお試し利用が4件入るなど上昇気配もあり、今後に期待が持てます。
 - ・実績数値こそ微減の松城デイ（一般型）に関しまして、アダージョ入居者のサービス利用が延べ6名以上開始された中での減少であり、体制等のハード面・営業等のソフト面でそれぞれ大きな見直しと変革が必要と感じます。次年度は危機感を持って施設一丸となってサポートしてまいります。
 - ・同じく実績数値微減の支援ハウス、三幸ショート、山崎ショート（ユニット型）は本年度第3四半期までと比較するといずれも数値が上がっており上昇の兆しが見えます。三幸ショートは実績数値こそほぼ横ばいの微減ではありますが、特養相談員から入所申込者のロングへの紹介や三幸居宅からの紹介が昨年度よりも多くあり施設内の協力が得られています。山崎ショート（ユニット型）は従来型の数値が上がっていることからお客様の希望に沿った調整の結果と見られます。
- ◆毎月の在宅部門会議にて、年度目標に対する月毎の各事業所の反省、各事業所の空き状況や稼働進捗状況の共有を継続しました。
- ブロックミーティングでは、数字の伸びている事業所や新規問い合わせ数の多い事業所を参考にして送付チラシの工夫や営業先の固定（得意先を作る）など、この訪問営業のし辛い状況でも可能で効果的・効率的なアプローチの方法を再検討しました。普段挨拶程度であまり関りの無い事業所通しのコミュニケーションの場としても活用され、次年度以降も横の繋がりを継続するための良い期間となりました。

4. 他施設、他事業所の福祉機器の動向を勉強し、導入の参考とする

【活動報告】

① ICT 機器導入実績は以下の通りです。

月	事業所	対象ICT機器	内容
5月	三幸デイ(一般型)	ワイズマンタブレット	導入
5月	三幸ユニットショート	ワイズマンタブレット	導入
5月	三幸ユニットショート	眠りスキャン	導入
9月	山崎居宅	ワイズマンタブレット	デモ
11月	山崎居宅	ワイズマンタブレット	導入
11月	やまざきデイ	ワイズマンタブレット	導入

② ワイズマンタブレット（ケアシステム）の使用感です。

- ・まとめた記録の管理に優れており、今まで手書き処理していた記録やご家族へお渡しする状況表もタブレットへ入力すればシステムから直接印刷できるなど業務短縮だけではなく見やすい記録となりました。
 - ・デイやショートでは、同じ記録入力でもデスクでのパソコンへ入力作業からご利用者の見守りがしやすい場所でのタブレット入力が可能になったことで安全面の配慮もなされるようになりました。
- ◆三幸特養相談員間でインカムの導入が検討されています。導入された際の使用感を積極的に確認し情報を共有してまいります。

5. 認知症サポーター講座などを幅広く推進し、事業所の存在価値を高める

【活動報告】

① 活動は以下の通りです。

月	内容	実施先	主催事業所	協力参加事業所
6月	認知症サポーター養成講座	神久呂小学校	包括、松城居宅、三幸居宅、山崎居宅	-
9月	認知症サポーター養成講座	大平台小学校	包括、松城居宅、三幸居宅、山崎居宅	-
9月	高齢者体験授業	西都台小学校	松城居宅、三幸居宅	三幸ショート、三幸ヘルパー、三幸ユニットショート
10月	認知症サポーター養成講座	西都台小学校	包括、松城居宅、三幸居宅、山崎居宅	-
10月	認知症サポーター養成講座	鴨江小学校	包括、松城居宅、三幸居宅、山崎居宅	-
10月	認知症サポーター養成講座	入野小学校	包括、松城居宅、三幸居宅、山崎居宅	-
11月	認知症高齢者徘徊模擬訓練	大平台地区	包括	松城居宅、三幸居宅、訪問看護、三幸ユニットショート

◆次年度も法人全体として積極的に協力参加してまいります。

【年間を通じて】

在宅部長として広い視野での積極的な活動を年度初めに心掛けたのですが、結果として新規事業所の立ち上げから安定運営を優先させた事でいっぱいになってしまい、主に個別に相談を直接いただいた事業所への受け身の対応となってしまいました。その為、その他の事業所への十分な観察が出来ず、課題発見や解決にも至らず、反省の多い一年間となりました。

それでも年間通じて感じた事は当該事業所には今年度でお伝えしてまいりたいと思います。

ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

関わり方は変わりますが、今後ともよろしくお願い致します。

②高齢者施設部門事業部 EWD 令和2年度活動報告

委員：高齢者施設代表者

事業部長 小澤京子

令和2年度は以下の6項目を中心に活動を行いましたのでご報告いたします。

1. 入退所の報告に終わるのではなく、利用者様の年齢、入退所の状況を分析、数値に加え、利用者様やご家族に選ばれて入所され、そして穏やかに過ごされ退所される施設環境を整える。
 - ・入退所や入院される方の年齢、性別を分析し、どのような状況で退所されるのか、入院されるのか資料を事前確認し、会議の場で話し合うことで、その背景の確認、分析ができました。
 - ・退所ではお看取り期に移行し、施設で穏やかな最期を迎えていただくことができました。
どのようにご家族と最期の時を過ごされるのか、ご希望は家庭により様々です。「病院に行きたい」「慣れた施設で過ごしたい」等、それぞれのご要望に柔軟に寄り添える施設環境が築けていると感じています。
 - ・最近の動向としては男性の入所希望が増えているとのことです。
現状では、女性向けの多床室が多く、男性の多床室確保が難しい状況が報告されています。
2025年に向けて、さらにこの状況は加速されると思われます。
法人内で連携して、男性のお部屋が少ないという理由で入所できない状況を軽減する施設環境整備が必要となっています。
2. 職員の満足度、利用者様やご家族、地域の方々の満足度を高める施設を目指すために何が必要か検討し、実行する。
 - ・令和2年度は新たにライフケアアダージョが加わり、入所ご希望の方の選択肢を広げることができました。地域の多様なご要望に応えられるよう、それぞれの施設の特徴やアピール点を職員一人一人が理解し発信していければと思います。
 - ・コロナ禍において、施設間で足並みをそろえた面会対応ができました。
面会ができない施設もある中、アクリル板や窓越し、マイクの利用等、状況に合わせた対応を行い、ご利用者様やご家族様に安心をお届けするよう努めました。

- ・ 新人職員、中途入職者、異動職員の業務状況を確認しながら、新しい職場環境で力を発揮していただけるよう施設部門で確認することができました。会議の場で報告する前には、個々の現場においてフィードバックが必要になるため、細やかな声掛けができたと思います。
 今後は、更に職員が笑顔で満足して働ける職場環境づくりができるよう各施設で取り組みたいと思います。
 - ・ 地域への発信はコロナ禍で十分には行えませんでした。3月に他プロジェクトと連携し、Web 説明会を実施し、地域に向けた働く場の情報提供ができたと思います。
 今後も様々な働き方を提供し、短時間でも働きたいと感じている方へのお仕事紹介をしていければと思います。
 - ・ ご利用者様がお出かけになった際、地域の方に助けられたという事例もありました。施設と地域で連携して高齢化社会に対応していく大切さを感じました。
3. 情報通信技術を活用し、職員間の情報共有、作業効率の向上、また職員の事務作業等負担軽減を図り、利用者様と寄り添える時間を確保する。
- ・ 今年度は4月から新型コロナ対策のため、報告期間を決め資料をメンバーに送付し、事前に検討、情報共有をすることができました。そのため1時間の会議の時間を質問、意見交換に十分な時間を費やすことができ、またメンバー間でのメールでの情報共有が定着しました。
 - ・ ZOOM pro への加入で、時間制限を気にせず、ZOOM 研修や会議を実施できる環境が整いました。
 ZOOM 使用時の予約方法等、確認することができました。
 今後は移動時間の短縮による職員の負担軽減、顔が見える環境での意見交換、地域への発信ツールとして有効利用していきたいと思います。
4. 今後到来する超高齢化社会において、私たちの施設で何が出来るかを考え、未来志向でできる取り組みを検討する。
- ・ 職員が社会の出来事に関心を持ち、共助の気持ちを持てる取り組みを行いました。
 7月3日に熊本南部で発生した豪雨により川が氾濫し特別養護老人ホームが被害にあいました。「他人ごとではない」と多くの職員からの募金が集まり、義援金として熊本に届けることができました。

これからも社会の動向に目を向けた取り組みを継続していきたいです。

- ・施設で気軽に働ける環境を整備し、お仕事紹介動画作成やお仕事説明会を通じて超高齢化社会に対応するための人材確保・人材育成に向けた取り組みを開始することができました。

5. 高齢者施設としての広報活動

- ・コロナ禍での失業率の増加にも関わらず、慢性的な介護人材不足が続いています。そのため、地域に向けて介護施設で働くための敷居を低くした取り組みで、短時間のお仕事紹介動画を作成し、ホームページでも紹介しています。

お仕事紹介動画へのアクセス方法



- ・各事業部やプロジェクトと連携して、三幸会 Web お仕事説明会を開催いたしました。高齢者施設部門は短時間のお仕事希望者向けの説明を担当し、お仕事紹介動画を活用しました。短時間お仕事枠の需要があると感じています。今後少しでも採用につながり、短時間から正社員へステップアップも可能であることを地域に示していきたいです。

スポット職員採用の目的

- ★介護の職場で働くのに不安を抱えている方に資格がなくてもできる短時間のお仕事がある事を紹介したい
- ★介護の興味があれば、そこから介護職にステップアップし資格を取得していく機会を提供したい
- ★若い世代の方に介護のお仕事に興味を持ってほしい
- ★現在働いている介護職員の負担を減らしたい



質問タイム

- ・仕事をするにあたり心配していること
- ・職場の雰囲気
- ・入所されている方との関わり方 など

* 気になることは何でも聞いてください



- ・説明会では、短時間のお仕事に興味をお持ちの方が、たくさんいらっしゃると実感できました。

質問で多かった項目は次の通りです。

- ・小さい子供がいて、急な病気になった時は休みやすい環境であるか。
- ・ダブルワークで働くことはできるのか。
- ・何歳まで働くことができるのか。
- ・働く時間を相談し調整できるのか。

今後さらにわかりやすく説明できるように職場の働き方を含め、人材が必要な時間帯、仕事内容、職員との連携等に施設の中で検討していければと思います。

6. 新型コロナウイルス感染症対策におけるリスク管理について検討する。

- ・各施設での取り組みを確認することで、迅速なコロナ対策を可能にし、リスク管理ができたと思います。

アクリル板の設置、窓越しのマイクを面会、実習生やボランティア受け入れ状況等、施設間で足並みをそろえ対応を行えました。

所感：高齢者施設部門事業部長より

令和2年度の活動を通じて、高齢者施設間での課題解決に向けた取り組みができたと感じております。報告時間の短縮により、会議時間の有効活用、電話、メール、ZOOMでの打ち合わせにより、メンバー同士が気軽に意見交換できる関係は来年度以降も継続してきたいです。メンバー個々のステップアップもでき、今後も施設ケアの質の向上に励んでいきたいです。

1年間ご協力ありがとうございました。

③保護施設部門事業部 令和2年度報告

令和3年5月10日
救護施設神ヶ谷園 小杉公伸

年度初めに理事長より提示された以下の5項目を指針に、月一回会議を行いより良い救護施設を実現するため活動をしてきました。

1. 居宅←→入所間のスムーズな移行の流れを作り、自立支援・地域生活支援とともに通所事業、訪問事業、高齢者施設への退所移行と生活困窮者の入所救済を目指す。

・令和2年度の入退所者

入所者	8名
退所者	9名

- ・退所者の内訳は、居宅訓練終了→通所対象者2名、グループホーム移行1名、介護施設移行3名、死亡退所3名となっています。
- ・施設生活者の高齢化に伴い、介護施設への移行が必要な方が増えている一方、入所者数は前年度実績より一名少なくなっています。介護施設への移行推進と同時に、病院や市の担当者と連携を密に取り、入所者を増やす取り組みを行っていく事が課題です。
- ・居宅訓練事業は前年度に引き続き3名を対象に実施しています。前年度の対象者3名の内、2名は地域生活移行し、通所事業の対象者となっています。1名は度重なる規則違反により退所不可となり施設生活に戻っています。
- ・通所・訪問事業は現在3名を対象に自主事業として行っています。市から事業として認可されるには5名の定員が必要です。定員の確保を目指し、居宅訓練を推進し地域生活移行者を増やしていく必要があります。通所事業は基本的には退所者を対象とした事業ですが、5名定員の内1名は居宅生活者でも可なので、早期の事業認可のためには外部から対象者を募ることも視野に、市の担当者と連携をとっていく必要があると思います。
- ・自立支援と地域生活支援のため、居宅訓練チェックリストを作成し、居宅訓練対象者の選定と居宅訓練実施評価に活用しています。
- ・コロナ禍の影響で、通所者・居宅訓練者に自宅待機を要請した時期がありました。今後も施設内で感染者を出さないための予防策を講じていく必要があります。

2. 職員間における標準化・密着化・効率化・広報力強化・協調体制・多職種連携強化、見学者増、実習生受入増、ボランティア受入増を図り、未来軸での課題解決を目指す。

- ・多職種連携強化への取り組みとしては、従来看護師が行っていた利用者の受診付き添いを、相談員・介護職も協力して行うようになりました。
- ・神ヶ谷園では身体・精神・知的障害など様々な困難を抱えた利用者様に対し、介護職が個別に計画を立ててそれに基づく支援を行っています。
現状、月一回の個別支援会議において2名分の計画書を検討していますが、全職員がより多くの個別支援計画書について情報共有できるよう、会議に先立ち前月作成された全ての個別支援計画書を回覧する案が介護主任より提案されました。
- ・コロナ禍の影響で、見学者の受け入れは第1第2四半期においてはありませんでしたが、第3・第4四半期において浜北病院と三方原病院より見学を受け入れていています。

3. 第三者評価結果より理想の救護施設実現のための課題解決をする。

- ・令和元年度に受審した第三者評価において低評価だった『地域の福祉ニーズを把握するための取り組み』として、地域包括支援センターを通じて民生委員の西区長会にて時間をいただき、相談員が神ヶ谷園の紹介と、今後の地域交流についての意欲を伝えています。
- ・利用者対象の勉強会として、3月に中川寺の巨島善道住職をお招きして講演会を実施しました。
同じく3月に施設看護師による『薬に頼らない健康管理について』の勉強会を実施しています。
また、映画クラブの活動として自己啓発につながるDVDを取り上げたり、余暇時間に脳トレのプリントをやらしてもらったりと、自立支援につながる取り組みを行っています。
- ・コロナ禍により、社会見学旅行や救護施設間の交流行事など外出を伴う多くの行事が中止になる中、福祉サービスの質の向上のため、代替行事として近隣の飲食店からのテイクアウトによるお楽しみ食事会を3回、おやつバイキングを2回実施しました。いずれも利用者に大好評でした。
- ・12月に利用者満足の向上と適切な福祉サービスの提供を目的とした『神ヶ谷園生活についてのアンケート』を実施しています。アンケート結果に対する取り組みとして娯楽室の図書の拡充を行っています。漫画の他、心身の健康や自己啓発に繋がる内容のものを選択しています。
- ・雨天時に洗濯物を干す場所が不足しており、部屋干しがカビや悪臭を発生させる原因となっていました。男女で洗濯の曜日を分けること、雨天時の乾燥機使用のルール作り、居室ベランダの物干し竿の位置を調整することで対応を行いました。
変化を受け入れるのが難しい方もおりますが、清潔な生活環境確保のため、部屋干しをしないことが定着されるよう根気よく指導を行っていきます。

ランドリー室利用の規則については、利用者自治会と話し合いを重ね、現在も調整を行っています。

- ・入所して間もない精神疾患・知的障害のある方で、夜間に施設2階の居室から飛び降りて脱園をしようとしたケースが2件ありました。入所に際し、ルールを説明して同意を得ていても、そうした衝動的な行動を防ぐことは非常に困難なため、安全確保の対策として、新規やお試し入所の受け入れは1階の居室としました。また、事故防止の観点から廊下の窓にストッパーを設置しています。
- ・高齢化や精神疾患の重篤さに起因する事故が増加しており、3月に浜松市福祉総務課より実地調査が入っています。現在も転倒のリスクが高い方、異食行為が続く方が入所されております。職員配置が少なく、異食防止の環境も提供できない救護施設において、そうした方々の他施設移行は早急に取り組むべき課題だと思えます。

4. 新たな作業の導入・農作業の導入など日中の豊富な過ごし方を提供する。

- ・新規の作業については、不織布マスクの袋詰めや車の部品の組み立てなどを検討してきましたが、安定した作業量が見込めなかったり、運搬について折り合いがつかなかったりで導入には至っておりません。しかし、現在取引のある業者からは別の作業の依頼があり、作業の種類が増えました。また、難易度を考慮して作業の分担を見直すことで、作業参加人数を増やすことができました。今後もより多くの方が作業参加できるよう調整を行っていきます。

5. 他施設、民生児童委員、社協、学校との共生を推進する。

- ・10月に、居宅訓練者による私有地へのごみ投棄事件がありました。市のケースワーカーや佐鳴湖病院と情報共有し、中障害相談支援事業所とも連携し対応について検討を行いました。当該利用者は退所不可となり、施設生活に戻っています。
- ・10月に、近隣の救護施設慈照園が主催する『地域で暮らすためのお役立ち講座』に居宅訓練者・通所者より3名が参加しています。
- ・3月に、慈照園主催の『グループホーム』についての勉強会に、今後グループホーム入所を検討する利用者3名が、相談員とともにZOOMで参加しました。
- ・コロナ禍により参加できない時期もありましたが、大平台地区の一斉清掃や草取りに参加をしています。また、3月に行われた大平台N I Z I フェスタでは、施設の駐車場を提供しています。今後も地域貢献を重ね、地域の皆様に喜ばれる施設を目指します。
- ・11月に、聖隷クリストファー大学にて麻原介護職員が福祉の仕事についての講演を行いました。
- ・聖隷クリストファー大学より施設相談員にソーシャルワーク実習生受け入れの依頼がありました。

令和3年2月に相談員2名が実習指導者講習会を受講・修了し、令和3年5月の実習生3名の受け入れに繋がっています。

1 年間の活動を通しての反省

居宅訓練チェックリストの作成やお楽しみ食事会などコロナ禍においても実施できる行事の企画、自立支援につながる利用者対象の勉強会など、理想の救護施設実現のため一定の取り組みはできたかと思えます。しかし、3月の保護施設部門会議において、理事長と施設長からいただいた「職責に対する意識が甘い、取り組みが弱い」とのご指摘が大きな反省点です。誰が何をやるのか、いつまでにやるのかを明確にできなかった、私のリーダーシップの欠如が保護施設部門会議の活性を高められなかった大きな原因だったかと思えます。今後は職員一人一人が当事者意識を持ち、報・連・相を密にして協調していくことが、神ヶ谷園を理想の救護施設にしていくための鍵だと感じています。

④真：満足感向上プロジェクト SMP (Satisfaction Management Project)

令和2年度活動報告

委員：各施設代表者 プロジェクト長 藤田悦史

主内容：毎月一回 稟議報告提出、4半期に一度・年4回報告書提出

1. 職員の人材育成・人材活用・人材登用をはかりながら、顧客満足CS向上とともに職員満足ES向上の実現を目指す。
2. 職員にとっての物心両面の満足について追求する
3. 厨房業者にとっての物心両面の満足について追求する
4. 利用者様・ご家族にとっての物心両面の満足について追求する
5. 顧客満足度、利用率・リピート率向上を組織的に構築する
6. 福祉事業における真の姿を追求し、法人内外に大いに発信する

◆活動報告

プロジェクトの活動主内容として、以下の4つを1年間進めてきました。コロナ禍での活動となり、年度初めに企画した他施設見学や研修の開催については、実施困難と判断し年度途中にて中止としました。毎月の会議開催と稟議での報告は実施できましたが、活動の目的であったCS・ESの向上、物心両面での満足に関しては、具体的な成果は報告できませんでした。満足感を向上させる、結果重視の取り組みは難しいと思いますが、仕事を通じて職員の人生が充実する、幸せであると感じられる活動やイベントが出来ればと考え実施しました。

① 仕事でのやりがいや自己成長が実感できる環境づくり

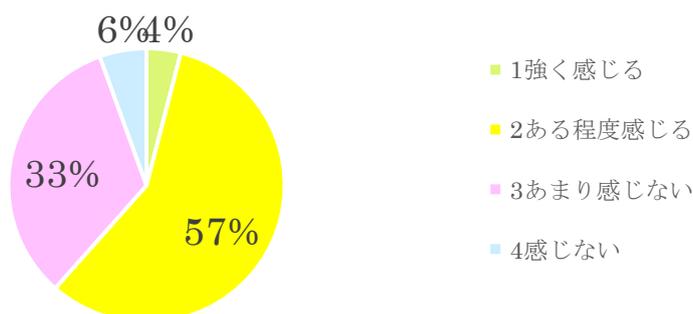
・全職員対象にES向上に関するアンケート実施

実施結果で、満足感を感じている職員が6割、あまり満足と感じていない職員が4割の現状がわかり、満足を感じていない職員へのアプローチ、やりがいを感じる成功例を体験してもらう事を課題としました。

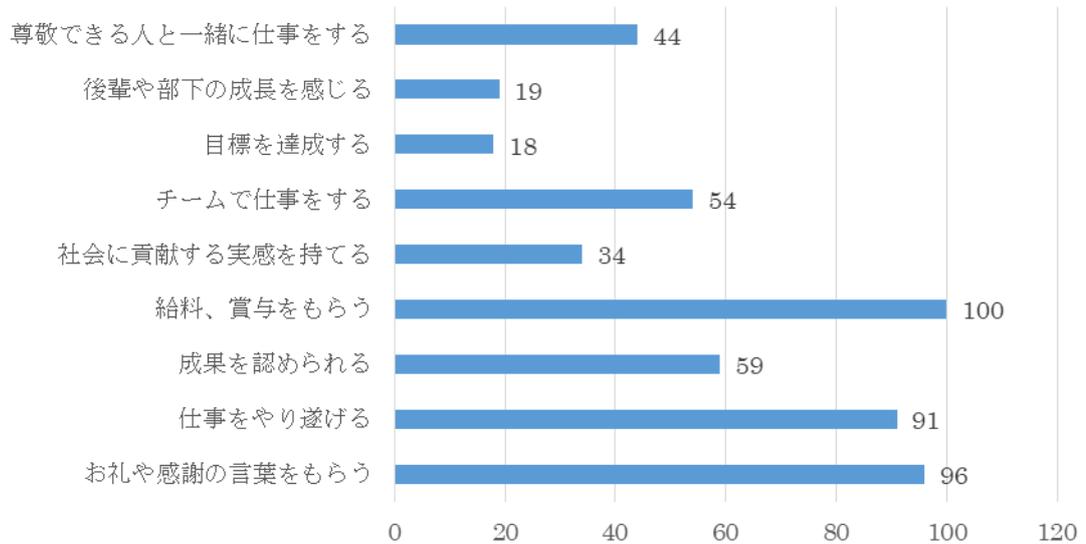
7月…アンケート実施、会議録にて集計報告しました。

以下、アンケート結果の一部です。

三幸会の職員として満足感・幸福感を感じる事がありますか？



仕事のどこにやりがいを感じますか？



・ 地域学校で、自法人の紹介や福祉の魅力を伝える運動

地域の学生に福祉の仕事、魅力を感じてもらう事を目的に、福祉施設、仕事の紹介、仕事の楽しさを伝える授業を実施しました。

高齢者体験キットを使用し、少しでも理解しやすく興味を持っていただけるよう工夫しました。施設紹介の動画は、とても興味深くご覧いただき、機会があればとボランティア希望のお声も聞かれました。福祉人として、責任感を持って伝える事の大切さを感じました。

職業講話（1時間程度の授業の講師）

11/ 6 … 浜松市立湖東中学校 5年生

12/14 … 静岡県立大平台高校 1年生

12/20 … 静岡県立大平台高校 3年生



・職員にやりがいを感じていただく運動

法人の永年勤続表彰には該当しない勤続3年、5年の職員を対象にモチベーションを高めて頂く、やりがいを感じて頂く等、ES向上を目的に法人名の入ったクッキーを贈りました。

今後も長く三幸会へ勤めていただき、自己成長、やりがいを感じて頂ければと活動しました。対象の職員へは、委員が直接お声をかけ、手渡しでお祝いをさせて頂きました。記念撮影実施し、喜んで頂けたと感じています。

法人内で、20名の職員が対象でした。(3月度実施)



② 人間力（相手の期待値を超えようとする力）を高める考え方を学び実践する

・「人間力向上」をテーマにした勉強会の実施（対話と映像による研修）

「職員のやる気を出させるリーダーとは？」を題材に、映像と対話を合わせた研修を実施しました。

職員それぞれが、主体性と責任を持って仕事をする、仲間のベストを引き出す為に何をすべきか等、映像を見た後、グループでの対話で理解を深める内容でした。参加者には、主体性を持って仕事をする事が、やりがいや自己成長に繋がる事を理解して頂きました。

8月度…三幸の園で実施（4名参加）

試写交流会

**DVDを活用した
新しい社員研修を体験する**

日程：令和2年8月28日(金)
時間：14:00～15:00
場所：三幸の園 会議室

テーマ：メンバーのやる気高めるリーダーとは？
～他部署のマネジメンから、やる気引き出すリーダーシップへ～



③ 関わる全ての人へ感謝を伝える手法を学び実践する

厨房職員（エームサービスさん・魚国さん）に、ご利用者と職員から日頃の感謝の気持ちを伝える活動をしました。

メッセージ付きの写真アルバムを制作し、それぞれにお渡ししました。

メッセージは、ありがとう推進プロジェクトのご協力をいただきました。感謝の気持ちを伝える方法として、物を渡す形としましたが、色々と検討した事も多く、委員も学ぶことが出来ました。（2月度実施）



④ 広報について（活動を法人内外に発信する）

6 月度…職員満足度調査結果報告（会議録添付）

8 月度…研修実施報告（会議録添付）

11 月度…地域学校での職業講話（ホームページブログ掲載）

12 月度…WithYou 特別号（ありがとう推進プロジェクト、広報推進プロジェクト
合同）地域学校での職業講話（ホームページブログ掲載）

3 月度…勤続 3 年 5 年表彰（会議録添付）

広報に関しても、報告のみになり、目的や結果を伝えきれていない部分が多く、
色々なツールを活用しながら広報活動を充実させる必要がありました。

◆活動反省・課題

コロナ禍の活動でしたが、施設内での定期的な運動に併せて、地域学校での運動も実施できた事は、参加職員のやりがいに繋がりました。

プロジェクトの職員が積極的に活動し、成功体験として実施が出来た事は成果があったと考えます。また、他のプロジェクトとも連携が持てた事は、良い点だと感じています。しかし、年度途中で計画の変更や中止、運動の見える化も不十分であり、結果として ES・CS 向上の成果を出す事は出来ませんでした。

今後も ES・CS 向上を目的とした活動の継続によって職員が仕事に対する考え方、取り組み方に少しでも影響があり、道徳心を持って対応する事により、その効果として、サービスの質の向上、ホスピタリティーの提供に繋がる事を期待します。

1 年間、有難うございました。

⑤接遇マナー向上プロジェクト MMP 令和2年度活動報告

令和3年4月30日
松城居宅介護支援事業所
生活相談員 安東知子

主内容：

- 1・福祉のプロ意識を醸成するよう、こころの浄化・純化・緑化するための雑草を抜き取る育成の場、人としての道、社会人として善行、礼儀、接遇を展開する
- 2・究極の接客サービス業として身だしなみ、マナー、言葉使い、挨拶、態度、来客接客対応を学び、地域で模範となるような三幸会全体の接遇マナーの習慣化を目指す
- 3・人間力強化のためのこころの純化・浄化・緑化する施策の為のミーティング強化 研修強化・ロールプレイから礼節ある人間力向上と気づき力向上を目指す
- 4・リスクマネジメントを行い、クレームの大幅削減を目指す
- 5・福祉事業における利他の心を追求し法人内外に大いに発信する

【活動報告】

① 勉強会の実施

施設勉強会にて接遇マナー向上プロジェクトで時間をいただきました。

勉強会の内容

8月・・・マナーとは何か？マナーはなぜ必要なのか？

12月・・・電話のマナー

2月・・・Zoomのマナー

今年度は新型コロナウイルスによる影響で面会ができない為、電話でのお問い合わせが増えているということや、研修、会議がオンラインで実施されることが増えたのでZoomを使う際のマナーについて考える時間としました。

② 挨拶標語 掲示

「 挨拶し自分が変わろう 顔上げて 」

各施設、事業所にて職員に見ていただける場所に掲示しました。

挨拶標語については今年度募集等できず、一度のみの掲示となってしまう周知徹底、意識付けできるほどのものにはならなかったと反省します。

③ 身だしなみチェック

今年度プロジェクトメンバーの金原さんによる三幸会の法人制服のイラストを作成し、各事業所、施設の更衣室などに掲示しました。

出勤前、鏡をみて身だしなみをチェックする意識を持っていただきました。

④ 施設モニタリング訪問（年3回）

8月・11月・2月 モニタリング実施

プロジェクトメンバー5人が5施設を訪問

事前に訪問日時を伝え、各施設のプロジェクト委員がお知らせし訪問を実施

今年度は新型コロナウイルス対策で面会も禁止しているのでモニタリング訪問の実施を迷うこともありました。職員は毎朝検温していることや手指消毒、マスク着用しているので実施としました。

モニタリングの結果については四半期の反省にまとめてお伝えする形のみだったため、振り返り確認などするにはいたらなかったと感じています。

実施の内容としては各施設職員、身だしなみ、挨拶、雰囲気などは問題になることはありませんでした。

コロナ禍でマスクを着用し人と接することになるので口元が見えず、笑顔が伝わりにくいことや表情の見えにくさ、声の聴きづらさがあるがモニタリング訪問時はマスクの下でも笑顔が伝わるような受け入れをしてくれたという印象を持った訪問が多かったです。

⑤ Webお仕事説明会に向けてZoomのマナーについて

3/27 3/27に行われるWebお仕事説明会に向けて法人担当職員向けに

Zoom開催時のマナーについてのお知らせをしました。

基本的な事ですが、再確認していただくこととしました

⑥ 新人職員オリエンテーション

4/1 新規採用された職員と技能実習生3名の方に接遇マナー向上プロジェクトより30分お時間をいただきました。

マナーとは。マナーはなぜ必要か？ 福祉の職場で求められるマナー。

職場の基本マナーについてお話させていただきました。

【所感・今後の課題】

接遇マナー向上プロジェクトの活動について、

新型コロナウイルスの蔓延により新しい生活様式が求められ、大きな変化がありました。

マスクをしているので笑顔が見えない、声が聞き取りにくい、電話の問い合わせが多い、オンラインでの研修など状況に応じて変化を意識してかかわらないといけないことがあると感じました。

接遇マナー挨拶など常にできている人より、もう少し身に付けていただきたい方へのアプローチが難しくできなかったと感じています。

今年度は自分の体調不良と諸事情があり積極的な活動ができなかったと感じています。大変申し訳ありませんでした。一年間ありがとうございました。

⑥環境整備推進プロジェクト EMP (Environmental Management Project)

令和2年度活動報告

委員：理事長、各施設長・・・プロジェクト長 和久田芳次

主内容：毎月一回 稟議報告提出、4半期に一度・年4回報告書提出

1. すべての施設をホテル・デパート・高級レストラン並みの快適環境を実現するための職場環境整備をし、同時に衛生管理、安全管理、業務管理、在庫管理の構築をする
2. 毎月一回各施設事業所内外を入所者目線・ご家族目線・来園者目線での定期巡回し、身だしなみ・5Sの不適切箇所・改善箇所を指摘し合う組織を構築し、良い箇所や改善箇所を目にすることで相乗効果を醸成する
3. 職員が快適に仕事をするための決め事・ルール of 徹底、役割分担、個別整備リーダーを作って運用し、環境整備から純粋なこころの組織作りを目指す
4. 職員自らが個々に改善点を見つけ、改善する文化を構築する
5. 年次経過で老朽化・汚れた部分の修理・修繕・リフォームを計画的に行う
6. 全施設におけるLED化・省エネ化を計画的に実現し、酸性水／アルカリ水の有効活用を推進する

活動報告：

①EMP会議開催

プロジェクト委員全員が巡視前に三幸の園会議室に集合し、当日の巡視の方向性と前月持越し部分の確認をしました。

又、委員より「CLEAN AIR SPACE」のポスターを作って頂き、各施設に共通で掲示しました。

②清掃内容と担当者を決めと掲示

前年度に続き主担当者・清掃場所・清掃時間を決め、清掃しました。

③外部見学研修

コロナ感染症拡大の中、三和事務機より声をかけて頂き、事務所の見学をさせていただきました。テレビ会議等のICTが完備、整理整頓された事務所を見学させていただきました。今後も環境整備のされた施設を見学することの必要性があると感じました。

④施設巡視 プロジェクト委員

プロジェクト委員の6名により各施設を巡視し、各委員による指摘箇所を写真撮影後まとめ、閲覧回覧および施設内掲示をし、一ヶ月以内の改善に繋げました。

施設規模、施設運営年数により指摘箇所には差がありますが、月毎に利用者様目線、来訪者目線、職員目線で分け巡視を実施しました。

環境整備推進プロジェクトも2年目に入り前年度より指摘事項の件数が減っているのは、職員の意識が上がったことと思います。

- ・三幸の園 222件 ⇒ 166件
- ・山崎園 210件 ⇒ 163件
- ・神ヶ谷園 119件 ⇒ 54件
- ・松城 155件 ⇒ 87件

設備面の指摘は徐々に減少しましたが、片付け途中の指摘は減ったり、増えたりでした。これは、業務にあたっている職員の意識によるものと感じます。

全職員のレベルアップが必要です。

傾向として規模の大きなところは指摘が多くなり、新しい施設は指摘が比較的少ない傾向にあります。指摘回数は以下の表に纏めてあります。

施設名	三幸の園	山崎園	神ヶ谷園	松城	大平台の園
4月指摘個数	10	7	3	4	開所前
5月指摘個数	13	16	6	未実施	6
6月指摘個数	20	24	4	13	6
7月指摘個数	19	13	9	8	6
8月指摘個数	17	23	6	12	8
9月指摘個数	20	8	5	14	7
10月指摘個数	9	19	4	7	4
11月指摘個数	8	10	3	3	7
12月指摘個数	12	11	5	8	7
1月指摘個数	14	8	3	4	8
2月指摘個数	12	19	2	5	5
3月指摘個数	10	5	4	9	1
合計	164	163	54	87	65

⑤改善提案推進 全職員

改善提案数は以下の表に取り纏めてあります。

年度始めより推進し、トータルで67件が提出されました。

前年度が81件で、-17件でした。

施設により職員人数に差がありますが、神ヶ谷園・松城が共に2件と少なかったです。推進方法・職員の気付きにより一層の工夫が必要と感じました。

改善提案内容によっては法人全体で活用できる物も有りました。

今後も、自ら働きやすい職場を作っていく為にも継続の必要性を感じました。

施設名	三幸の園	山崎園	神ヶ谷園	松城	大平台の園
4月提案数	0	0	0	0	開所前
5月提案数	1	1	0	0	0
6月提案数	2	4	0	0	0
7月提案数	0	1	0	1	1
8月提案数	3	6	0	0	3
9月提案数	2	3	0	0	0
10月提案数	1	0	0	0	1
11月提案数	8	1	0	0	0
12月提案数	0	3	2	0	0
1月提案数	2	4	0	1	1 0
2月提案数	2	1	0	0	0
3月提案数	1	0	0	0	2
合計	2 2	2 4	2	2	1 7

所感・課題：

プロジェクト委員のご協力により一年間、環境整備推進ができました。

環境整備にはお金がかかりますし、事業を継続して実施しながらの改善整備となりますので、計画的に実施していく必要があります。

出来る場所から徐々に解決していく手法を取らざるを得ません。

巡視活動においてはご利用者様目線・来訪者目線・職員目線を重要視した5Sに加え、身だしなみ、職員のモチベーション維持、平常時・非常時の物品整理、ルールの不徹底箇所、情報伝達の掲示の仕方など要改善部分を指摘し合い、即改善ならびに改善検討へと結び付けています。

特に建設より経過年数の長い三幸の園・山崎園は非常用発電機及び空調設備の更新工事が必要です。

いつ起るか解らない災害時にも利用者様の生活の質を維持することが大切です。

又、三幸の園に於いては、ICT推進の為にもWi-Fi環境の整備が必要とされますので順次、計画的に行って行きます。

また、職員の改善意識の向上とともに、接客マナー向上を兼ねた総合的な環境整備推進へと組織的に高め、選ばれる施設を目指します。

巡視活動と改善提案を並行して推進しましたが、まだ一層、環境整備を強化していく必要があります。

美を追求することによりCSとESに繋げていただけると良いと思います。

本年度で各施設連携でのプロジェクト委員会は終了しますが、各施設でもより一層の活性化とご協力を今後もよろしくお願いいたします。

持続可能な地域社会の創造のために防災意識を高めるとともに、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・専門学校・大学、自治会、関連企業、他法人、ボランティア団体など地域社会と結びつく施策へと広げながら福祉施設の価値向上を構築する

○防災意識向上に向けた取り組み

5月度会議にて防災意識向上につながる記事を検討し、以下の日程で掲載しました。

- ・With You Vol. 63 (令和2年5月号)
法人施設の自家発電設備（地域におけるセーフティネットとしての位置づけ）について
- ・With You Vol. 64 (令和2年8月号)
災害時の食事・備蓄方法について
- ・With You Vol. 65 (令和2年11月号)
各施設の定期防災訓練の様子や訓練内容について
- ・With You Vol. 66 (令和3年2月号)
災害発生時の福祉避難所の役割と本法人の福祉避難所設置計画について

○地域・関連企業への発信・結びつく施策

以下の通り、With Youを郵送・配布等にて外部発信する事により、地域社会との結びつき強化を図りました。

- ・With You Vol. 63 (令和2年 5月号) を 51の個人・企業へ
- ・With You Vol. 64 (令和2年 8月号) を 103の個人・企業へ
- ・With You Vol. 65 (令和2年11月号) を 110の個人・企業へ
- ・With You Vol. 66 (令和3年 2月号) を 110の個人・企業へ

広報の目的を学び、広報の現状調査と改善事項を洗い出し、施設の価値向上を目指す

○広報の目的を学ぶ

4月度会議にて広報の目的・活動内容について検討し、以下の要点に沿って、活動計画を検討しました。

- ・法人外部 …法人価値の向上、活動の見える化、地域との結びつき強化を目的として、With Youの法人関係者、法人関連企業等、外部への発信、動画作成、ブログ更新及びホームページの整理・刷新の検討。
- ・法人内部 …法人内活動の見える化、職員間コミュニケーション、職員向け情

報の発信を目的として、W i t h Y o u 法人内版の発行開始。

- ・就職希望者…就職希望者増加を目的として、学校等へのW i t h Y o u 発信、動画作成、ブログ更新及び求人イベント企画・SNS活用の検討。

○広報の現状調査と改善事項の洗い出し

- ・9月のW i t h Y o u 法人内版に関するアンケートを実施しました。全体の74.4%から回答が得られ、他施設（事業所）、事業部等の法人活動の取り組み紹介やイベント情報など、要望の多くあった内容の記事掲載に繋がりました。
- ・ホームページ内の情報格納先が複雑化しており、スマートフォン版の導入も課題となっていたため、ホームページ刷新及びスマートフォンサイト導入に向け9月にホームページ作成担当者と修正点について意見交換を行いました。

○施設の価値向上を目指す取り組み

以下の通り、新施設紹介及び公益的取り組みの紹介記事を掲載しました。

- ・W i t h Y o u V o l . 6 3（令和2年5月号）
新たに開設された大平台の園の最新設備や居住環境、セキュリティ機能について
- ・W i t h Y o u V o l . 6 4（令和2年8月号）
法人職員主催の認知症サポーター養成講座について
- ・W i t h Y o u V o l . 6 5（令和2年11月号）
大平台の園地域交流室貸し出しにより開催されている講座について
- ・W i t h Y o u V o l . 6 6（令和3年2月号）
やまざきロコトレサロンについて

広報媒体、広報内容、広報頻度、画像、映像を検討し、更なる推進を目指す

○広報媒体、広報内容について

- ・6月度会議の中で、他社広報誌・機関誌の参考点を共有しました。写真、文字の大きさや1ページあたりの情報量など、見やすさ、読み手の視点をもった校正の方法を検討しました。
- ・W i t h Y o u V o l . 6 5（令和2年11月号）より、写真の鮮明化を主な目的として印刷業者へ印刷・製本を発注しマットコート紙を導入しました。

○画像・動画について

- ・昨年度プロジェクト長と共同で、令和2年7月3日Y o u t u b e 三幸会チャンネル掲載の「高齢者総合福祉施設 大平台の園」動画作成に参画しました。
- ・法人求人担当者と共同で、令和3年1月4日Y o u t u b e 三幸会チャンネル

掲載の「リクナビ2022三幸会フェイスムービー」を作成し、令和2年12月23日にリクナビへ提出完了しました。

- ・高齢者施設部門事業部と共同で、令和3年1月19日YouTube三幸会チャンネル掲載の「スポット求人動画」の作成に参画しました。

イベント情報・公益通報・個人情報保護・育児休業等、積極的な広報発信を行う

○令和2年度 With You 発行実績は以下の通りです。

- ・With You Vol. 63 (令和2年 5月号) …5月20日発行
- ・With You Vol. 64 (令和2年 8月号) …8月24日発行
- ・With You Vol. 65 (令和2年11月号) …11月23日発行
- ・With You Vol. 66 (令和3年 2月号) …2月22日発行

○With You 法人内版の発行実績は以下の通りです。

- ・With You 法人内版 (令和2年9月号) …9月17日発行
内容：事業部、産休及びわーくん浜松の活用について紹介
- ・With You 法人内版 (令和2年12月号) …12月8日発行
内容：プロジェクト、職員による企画、事業所（訪問看護）紹介及び退職金について紹介
- ・With You 法人内版 (令和2年クリスマス特別号) …12月21日発行
内容：ありがとう推進プロジェクト&満足感向上プロジェクトで実施した感謝の言葉を紹介
- ・With You 法人内版 (令和3年2月 or 3月号) …3月19日発行
内容：永年勤続表彰者紹介、働き方改革推進プロジェクト活動、休暇（有給・リフレッシュ・特別休暇）等について紹介

職員一人ひとりの防災意識向上と非常時の心の備えの向上を目指す

○防災特集を掲載した With You を各施設職員用及び玄関設置用として配布し、法人職員の防災意識向上を図りました。

○施設備蓄一覧やパーソナルカード、マイタイムラインなど災害時の各家庭での備えや家族間連絡方法、その他災害時に有効なツールの紹介を検討しておりましたが、全ての紹介・掲載には至りませんでした。今後の活用を検討できるよう各施設防災担当者へ引き継ぎます。

パンフレット、ホームページ、With You、ブログ、Facebook ページを有効活用し、求人イベントへの仕組化を図る

- 10月より、スマートフォンサイトの開設、ホームページ内の情報整理について複数の外部業者と検討を重ね、ホームページリニューアル（スマートフォン閲覧はレスポンス化）の方針にて令和3年2月23日に発注業者を決定しました。
来年度中の完成を予定しています。

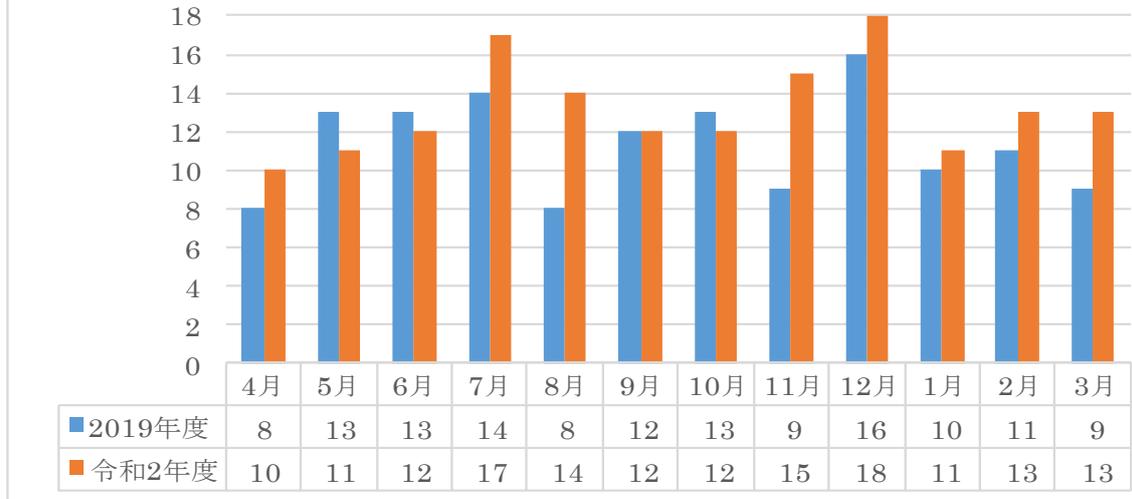
- 令和2年5月1日高齢者総合福祉施設 大平台の園開設に伴い、同施設パンフレット新規作成に参画し、印刷業者との調整を重ね、7月20日納品完了しました。

- 令和3年3月27日、28日に三幸会Webお仕事説明会を開催しました。
新型コロナウイルス感染症への配慮として、Zoomにて開催しました。
3月6日に新聞折込チラシを投函し、Web説明会参加、電話問い合わせに繋がりました。
チラシの費用対効果を考えると、今後も同様の開催案内を行う際には、より有効な情報発信方法を再検討する必要があると感じました。

- 三幸会Webお仕事説明会開催にあたり、若年層へ気軽に申し込んでもらう手段として、LINE法人公式アカウントの作成、Googleフォームでの申込・アンケートフォームを作成・活用しました。
今後も、LINEやFacebook、インスタグラム等、使用人口が高い媒体の活用を積極的に検討し、現在公開しているホームページやブログなど、閲覧者数増加を図る必要性が考えられるため、今回作成したアカウントを今後の広報活動に活用できるよう引き継ぎます。

- 今年度のブログ更新回数、昨年度との比較は以下のグラフの通りです。
昨年度より22回増加の158回の更新を行いました。
目標としていた毎月10回以上の更新も、年度間を通して継続ができました。

ブログ更新回数の比較



令和2年度With You郵送先一覧（敬称略）

番号	業者名	番号	業者名	番号	業者名
	取引業者	39	㈱トキワTC	76	静岡県立浜松大平台高等学校
1	あおい薬局 入野店	40	戸澤内科消化器科クリニック	77	聖隷クリストファー大学
2	アツミ設備設計	41	株式会社中村組	78	浜松市立雄踏幼稚園
3	天方産業㈱	42	㈱ハマネン設備センター	79	浜松市立雄踏保育園
4	株式会社アマノ（風呂）	43	ベルメディカルケア㈱	80	静岡福祉大学
5	株式会社アマノ（事務機器）	44	㈱長谷川メディカル	81	日本福祉大学
6	池谷祥六	45	田中範雄公認会計士事務所	82	田原福祉専門学校
7	イズモ葬祭	46	浜松雑貨㈱		自治会
8	伊藤雅章司法書士事務所	47	浜松葬儀株式会社	83	山崎地区自治会長 吉田 直弘
9	㈱魚国総本社	48	㈱日立ビルシステム	84	雄踏地区自治会長 石川 恵一
10	宇布見の里	49	尾藤鍼灸院	85	大平台地区自治会長 中瀬 毅
11	エムサービス㈱	50	(有)ビューティサポート静岡		社会福祉法人
12	エネジン㈱	51	有限会社藤田モータース スズキアリーナりの	86	社会福祉法人 遠江厚生園
13	㈱遠興	52	弁天島田中外科クリニック	87	社会福祉法人 天竜厚生会
14	株式会社遠鉄トラベル	53	ミキ薬局	88	社会福祉法人 さくま
15	おおひらだい接骨院	54	むうみん薬局磐田竜洋店	89	社会福祉法人 十字の園
16	(有)岡本一級建築士事務所	55	㈱八神製作所ヤガミホームヘルスセンター浜松	90	社会福祉法人 遠州仏教積善会
17	加藤内科クリニック	56	薬局アザレア大平台店	91	社会福祉法人 聖隷福祉事業団
18	㈱金指商会	57	山田 善彦	92	社会福祉法人 八生会
19	㈱金子設備設計	58	株式会社吉田屋	93	救護施設 慈照園
20	㈱カワイビジネスソフトウェア	59	㈱レンティック中部	94	聖隷厚生園 讃栄寮
21	環境保全㈱	60	東芝エレベータ㈱	95	神経科浜松病院
22	株式会社共同		行政機関	96	好生会三方原病院
23	株式会社杏林堂薬局	61	浜松市中区役所		評議員
24	協和医科器械株式会社	62	浜松市西区役所	97	評議員 今井 康博
25	キングラン東海㈱	63	浜松市南区役所	99	評議員 白土 欣司
26	㈱坂田電気工業所	64	浜松市東区役所	100	評議員 野田 英一
27	佐鳴湖病院	65	浜松市北区役所	101	評議員 川合 敦
28	三和事務機㈱	66	浜松市浜北区役所	102	評議員 竹村 直樹
29	静岡銀行入野支店	67	浜松市天竜区役所	103	評議員 浜端 紀男
30	四季平安堂薬局		学校・保育園・その他教育機関	104	評議員 松下 正行
31	正田医院	68	浜松市立大平台小学校		理事・監事（理事会にて配布）
32	鈴木内科消化器科医院	69	浜松市立入野小学校	105	理事 袴田 輝代
33	太平ビルサービス㈱浜松営業所	70	浜松市立西都台小学校	106	理事 高田 守
34	太陽観光株式会社	71	浜松市立神久呂小学校	107	理事 袴田 晃弘
35	タケムラデンキ	72	浜松市立雄踏小学校	108	理事 宮崎 厚
36	玉川産業株式会社	73	浜松市立入野中学校	109	監事 岡部 忠雄
37	㈱電興社	74	浜松市立神久呂中学校	110	監事 野島 康雄
38	東海機材㈱ 浜松営業所	75	浜松市立雄踏中学校		

⑧ありがとう推進プロジェクト 令和2年度活動報告

プロジェクト長
救護施設神ヶ谷園
生活相談員 山村享平

主内容：毎月一回 稟議報告提出、4半期に一度・年4回報告書提出

1. 価値あるすべての関係者の幸福実現のための法人内の結び付き強化、交流の場の提供を作り、ありがとう文化の構築をはかる
2. 職員・厨房職員へのありがとう文化の発信のためのイベントを企画実行する
3. 利用者様・ご家族へのありがとう文化の発信のためのイベントを企画実行する
4. 地域・ボランティアへのありがとう文化の発信のためのイベントの企画実行をする
5. パワハラ防止・セクハラ防止・メンタルヘルス予防のための研修を企画実行する
6. ボランティア活動・公益的取り組みの推進する
7. 職員定着率向上・採用率向上・求職者数向上を目指す

【活動報告】

毎月第4水曜日14時より神ヶ谷園会議室にてプロジェクト会議を開催しました。年間を通してプロジェクトとして行った活動は以下の通りです。

①感謝の言葉募集

全職員を対象に、仕事に関わる全ての人に対しての『感謝の言葉』を募集、実際に集まった『感謝の言葉』を可視化、見える化することでモチベーションや満足感の向上を図ることを目的に、広報推進プロジェクトと協力して広報誌 **with you** にて特集を組み、発信しました。

『感謝の言葉』は166通集まり、選考の結果以下の3つを優秀賞としました。

最優秀賞 運送業者様へ

大量のダンボールをトラックから台車へおろし、倉庫まで運び、台車からおろす。それらをすべて1人でやって下さっている運送業者様。コロナ禍で職員が倉庫まで運ぶようになり、その大変さが分かりました。いつもありがとうございます。

優秀賞 利用者さんへ

なかなか仕事に慣れず手際の悪い私に“ありがとっ！”“大丈夫。すぐ慣れるよ！”と優しい言葉をかけて下さってありがとうございます。落ち込む毎日の中、そんな言葉やみなさんの笑顔に力をもらってがんばれています。

優秀賞 用務員さんへ

暑い中、外の草取りありがとうございます。気持ちよく出勤でき、訪問時は「私もがんばろう！」という気持ちになります。熱中症に気をつけて、これからも環境整備よろしくをお願いします。

②親睦会開催

職員間の結び付き強化のための親睦会を行いました。ただし、コロナ禍であり、多人数・他施設での集まりはリスクがあるため、施設ごとでの開催としました。

山崎園・・・10/2、定年退職者の送別会も兼ね、雄踏町にある魚勝さんより寿司をテイクアウトし、軽食会をデイフロアにて実施。23名参加。

松城デイ・・・10/12、新入職者の歓迎会を兼ね、近隣の数店舗よりテイクアウトし、2階認知症フロアにて親睦会開催。15名参加。

神ヶ谷園・・・異動職員の歓迎会、忘年会を兼ね、店舗貸し切りにて12月に親睦会を行う予定でしたが、感染症蔓延のため中止となりました。

三幸の園・・・年末に向け親睦会開催の検討をしていましたが、感染症蔓延のため実現しませんでした。

③ありがとう月間

令和3年2月をありがとう月間と設定し、それに合わせて以下2つの事を、実際に『感謝』を可視化することで意識付けすることを目的に行いました。

(1) ポスターの掲示

ポスターには7つの目標をのせ、キャッチコピーが違う3パターン（三幸の園のみ中国人技能実習生がいるため、中国語バージョンを入れた4パターン）を作成し、各施設掲示しました。

【目標】

- ・日頃の感謝を積極的に声に出そう
- ・些細なことでも感謝の気持ちを持とう
- ・1日1回ありがとう
- ・体はソーシャル 心は密に
- ・感謝を伝えられる人になろう
- ・思いやりのあふれる職場を目指そう
- ・あたり前に感謝をしよう

【キャッチコピー】

- ・全集中 感謝の呼吸 壺の型 「ありがとう」
- ・その言葉 自粛をしない ありがとう
- ・マスク美人 感謝をすれば 心も美人
- ・ありがとう 明るく元気に さわやかに 明亮地健康 爽快地 说谢谢吧

(2) おすすめ動画の発信

ありがとう月間の期間中、毎週1回プロジェクトメンバーのおすすめ感謝動画として、Youtube動画をメール添付し法人内事業所へ一斉送信しました。

送信したおすすめ動画は以下の通りです。

第1週目

- ・ ゴルゴ松本、命の授業#1
- ・ ブルーインパルス 医療従事者に敬意と感謝の飛行

第2週目

- ・ ABCテレビ公式「手紙」熱闘甲子園 2009/8/20 放送
- ・ ママも1歳、おめでとう

第3週目

- ・ スマイルエピソード1 強面紳士と私
- ・ 涙が止まらない、彼女の履歴書

第4週目

- ・ 鉄拳「お父さんは愛の人」
- ・ 鉄拳「母のサポーター」

④三幸会求人イベント協力

広報推進プロジェクトを中心に全事業部・プロジェクトが協力して行った三幸会初となるZOOMを利用した求人イベントの中で、ありがとう推進プロジェクトは、参加者へ感謝の気持ちを送るということで、粗品の選定、準備、送付をしました。

⑤入職者事前研修

1年間ありがとう推進プロジェクトとして行ってきた活動の紹介や感謝の気持ちを持つ事、実際に感謝をすることの大切さやその意義を令和3年度新入職者及び技能実習生に向け、30分の研修として話しました。

【所感・課題】

世界中で新型コロナウイルスが蔓延し、世の中が自粛ムード、イベントは中止が相次ぐ中で、プロジェクトとして何ができるのか、どのようにしてありがとう文化を発信していくか、を模索しながらの活動となった1年間でした。

三幸会としての感謝を、関係者や地域住民の方々に発信し関わっていくことが難しく、終始法人内への関わりのみとなってしまうのは少し残念ではあります。

そんな中でも、感謝特集のwithyou発行という、形に残る事が出来たのは大きかったと思います。

プロジェクトとして発信してきたことがすべてではないですが、感謝に触れることで、皆さんが少しでも何かを感じ、気づき、再確認し、実行していただけたのであ

れば、プロジェクトの活動として良かったのではないのでしょうか。
実際、「感謝をする」ということは人に強制されてするものではなく、その人の心の持ちようによって変わってくるものなので、プロジェクトの活動が「感謝の心を持つ」ことへのきっかけとなり、「感謝をする」ことが今後も皆さんの中で定着してもらえればと思います。

1年間ありがとうございました。

⑨働き方改革推進プロジェクト WMP 令和2年度活動報告

プロジェクト長 吉田 雅之

主内容：毎月一回 稟議報告提出、4半期に一度・年4回報告書提出

- 1 サービスの多様化・特徴化・価値の向上、業務の生産性向上・効率化・合理化する仕組みの導入、ICT機器の導入、断捨離する部分をはかる
- 2 職員の計画的・平均的な有給取得を推進し、職員一人ひとりのワークライフバランスを整え、職員間における協力体制を作り、お互い様の文化、公平さを構築する
- 3 育児休業取得と職場復帰へのアプローチ、パート職員・シルバー人材職員・外国人技能実習生の積極的継続雇用を図りながら業務の分業化を推進する
- 4 労働生産性向上、効率化向上、時間外労働の削減、ペーパーレス化、情報共有化、ICT化、シフト作りソフト、自動販売機導入、駐車場配置等の働きやすさの施策を模索し、働き方改革につながる提案をしていく
- 5 腰痛予防のための体操や機器の導入を検討しながら、働き方を変えていく

【活動報告】

- ① 毎月1回第3木曜日午前10時から委員全員が集まり働き方改革推進プロジェクトをどの様に進めていくか会議を実施しました。
- ② 基本集まって会議を行っていましたが、少しでもZoomが普及すればとプロジェクト会議で使用して難しくない事を他職員にアピールしました。
- ③ 働き方改革推進プロジェクトでアンケートを実施しました。集計した資料を各施設役職者、他のプロジェクトに結果を提供しました。
- ④ 腰痛予防の為、スモールポンド接骨鍼灸院と交渉し自費診療全コース20パーセントOFFと三幸会職員独自の割引で少しでも気軽に通院できるようにしました。
- ⑤ 自販機設置について、食品のみの物を設置検討し業者を交え検討しました。1ヶ月の売上げ数のノルマが厳しく設置は難しいとし、少し考え方を変えドリンクと食べ物混合タイプの自販機の設置を検討しました。
- ⑥ 救護施設入所者の働く場所を確保として、保護施設部門長と当プロジェクトが検討し、法人内の他施設草取り・掃除作業について2名程度での実施を予定していましたが、現在の新型コロナ感染症の流行を考慮し先送りをし、落ち着いた時期に再度実施について話し合う事としました。
- ⑦ 新規利用者への自宅訪問時間削減のためにナビ導入を検討しました。ポータブルナビかナビ専用スマホの導入、もしくは軽自動車に設置を。必要とする事業所に聞き取りを行い、職員が使用しやすくコストの見合うものの導入を進めていきました。

- ⑧ 新型コロナウイルス感染症の流行で、慰問ボランティアなども控えている状態で施設の入所者様が生活の楽しみが減らない様に特別養護老人ホームでは、特別な施設内イベント、ハローウィンパーティー等当プロジェクト委員が中心となり実施しました。
- ⑨ 働き方改革七か条を作成しました。
- ⑩ 働き方改革七か条が浸透する為に各施設で掲示してもらい、ミーティング、勉強がある際にアピール活動を行いました。
- ⑪ 働き方改革コンテストを実施し、結果を広報プロジェクトに依頼し With You に掲載してもらい、賞に入った物だけではなく応募があった物を全て閲覧できるように冊子をプロジェクト独自に作製しました。
- ⑫ 令和3年度4月1日（木）に入職者事前研修にて当プロジェクト遂行状況活動についての講義を実施しました。

働き方改革七か条



一、笑顔で挨拶
良い人間関係の第一歩
感謝と恩返しのできる気持ちで満たされた施設にします

二、時間内で業務終了
業務の優先順位を適切に判断
役職者は職員が平等に帰れるよう環境を整えます

三、有休の取得
自分の為、家族の為、大切な人の為
一か月に一度は有休を取得します

四、職場環境の整備
決まった場所に整理整頓
環境整備を行い業務効率の向上を図ります

五、ICTの活用
現場の効率化、生産性の向上
多様なニーズに対応しサービスの質の向上を目指します

六、意識改革
職員満足感・利用者様満足感
選ばれる施設になる為
「私たちに今できる事」を常に追求します

七、体調管理の徹底
仕事も休日も充実させるため
感染対策の徹底と心身の健康管理を行います



社会福祉法人 三幸会
sankoukai

R2. 働き方改革推進プロジェクト

所感・課題

今年度は新型コロナウイルス感染症が流行した為、福祉の分野でも大部働き方が変わりました。清掃方法が次亜塩酸水を使用しその都度消毒清掃、今まで以上な徹底した清掃方法への変更、業務中のマスク・フェイスガードの着用、定期的な換気を実施したり、職員の毎日健康チェックを実施し、業務中以外でも施設に職員が持ち込まない為、不急な外出の自粛等に心掛けるなど。

その中でICT化も進み感染症対策で家族等と面会制限の為入所者様とその家族様が寂しい思いをしない為にZoomやSkypeなどを使用する、職員会議、研修等にも活発に使用されるようになりました。環境により大きく変化した年でもあったと思います。

働き方改革推進プロジェクトでもどのような方向性で改革を進めていくべきか悩む所でありました。

既に取り組まれている他の施設にプロジェクトメンバー全員で見学、話しを聞きに行きたいと考えていましたが新型コロナウイルス感染症の流行中でしたので残念ながら控えました。

その為アンケートを実施し、方向性を決める事にしました。導入出来る物は何か、アンケートの結果で望まれている事に対して対応していくつもりでいましたが、自分達が楽をする事も含まれており本来の働き方改革の趣旨とずれてしまう為、最終的には少し視点を変え、働きやすく、やりがいの実感できる職場にするための指針として『働き方改革7か条』というスローガンを委員全員で検討し作成する事としました。作成して掲示するだけではアピール不足と感じたので、事業所によっては「忙しくて無理」との意見も出るのではと思いましたが、自分達のできるものから取り組み魅力ある施設を作り地域の皆様に選ばれる努力が必要であると考え働き方改革コンテストを実施しました。各事業所で、「働き方改革7か条」の項目の中より、既に取り組んだ、またはこれから取り組む事例を報告してもらいました。各事業所よりいただいた事例を審査し魅力ある改革をした事業所を表彰し他事業所に知って頂く、参考にしてもらえるようにと。参加事業所が少ないのではと懸念していましたが、33もの応募があり関心を持って当法人の職員は業務に臨んでいる事を実感しました。応募作品は前向きな考え方の物が多く利用者様、入所者様に対する事柄、業務の効率化に対する事柄、職員が有給を取りやすく更に残業を無くす事柄に対してなど取り組みは様々な内容でした。

表彰のみならず社内報 With You に掲載してもらおうよう広報プロジェクトと協力し、また働き方改革推進プロジェクト独自に冊子を作製し、賞に入った物だけではなく応募があった物を全て閲覧できるよう冊子を各事業所に配布しました。

働き方改革コンテスト
の開催では・・・

最優秀賞
三幸の園短期入所

テーマは「意識改革」



今年度の課題として、導入するものに対し検討中で終わった物がいくつか出てしまった事が反省点です。その案件につきましては来年度の委員にしっかり引継ぎを行い、中途半端な状態にならないようにします。

アンケート及び働き方改革コンテストに応募して下さった皆様、忙しい業務の合間をぬってのご協力を頂き誠にありがとうございました。

事業所	定員	末日定員	空床日数×床数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度
特別養護老人ホーム三幸の園	110名	109.92	35.00	5.25	7.92	30.92	31.25	34.08	3.74

※110名を目指す

事業所	定員	要支援1実人数	要支援2実人数	要介護1実人数	要介護2実人数	要介護3実人数	要介護4実人数	要介護5実人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
短期入所施設三幸の園	20名	0.83	0.17	30.50	107.50	188.67	143.83	43.25	3.12	16.93	84.63%

※要支援含まず

事業所	要支援プラン数	要介護プラン数	職員常勤換算値	職員一人当たりプラン数	平均介護度	要支援新規受入数	要介護新規受入数
三幸の園指定居宅介護支援事業所	23.17	102.08	3.00	41.75	2.05	0.25	3.33

※要支援含まず

事業所	定員	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
三幸の園デイサービスセンター一般型	35名	18.58	53.83	224.33	174.92	46.17	64.83	3.75	1.93	27.40	80.27%

※要支援含まず

事業所	定員	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
三幸の園デイサービスセンター認知症対応型	10名	0.00	0.00	37.08	12.75	23.92	31.08	19.33	2.86	5.75	58.59%

※要支援含まず

事業所	利用人数	派遣回数	身体介護回数	生活援助回数	身体生活複合回数	予防支援回数	平均人数/日
三幸の園ホームヘルプステーション	34.42	249.33	63.92	51.17	67.67	66.58	11.71

事業所	利用人数	派遣回数	平均人数/日
訪問看護ステーション大平台	41.67	229.17	10.63

事業所	直営要支援プラン数	再委託要支援プラン数	直営予防Aプラン数	再委託予防Aプラン数	直営予防Bプラン数	再委託予防Bプラン数	総合相談件数	権利擁護相談件数
地域包括支援センター大平台	53.50	108.33	64.83	54.50	23.58	0.00	170.25	21.92

事業所	定員	要支援1実人数	要支援2実人数	要介護1実人数	要介護2実人数	要介護3実人数	要介護4実人数	要介護5実人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
ユニット型短期入所施設三幸の園	20名	0.92	3.25	54.58	70.00	198.08	84.58	35.67	2.71	14.73	80.35%

※要支援含まず

事業所	定員	自立実人数	要支援1実人数	要支援2実人数	要介護1実人数	要介護2実人数	要介護3実人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
ライフケアアダージョ大平台	25名	1.83	1.08	1.83	11.25	4.58	0.92	1.27	21.50	93.82%

※要支援含まず ※25名を目指す

事業所	定員	末日定員	空床日数×床数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度
特別養護老人ホーム山崎園(従来型)	50名	49.67	16.58	0.00	1.58	21.42	13.83	12.83	3.76
特別養護老人ホーム山崎園(ユニット型)	50名	49.33	15.00	0.00	1.50	21.17	13.75	13.25	3.78

※各50名を目指す

事業所	定員	要支援1実人数	要支援2実人数	要介護1実人数	要介護2実人数	要介護3実人数	要介護4実人数	要介護5実人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
短期入所施設山崎園	20名	0.00	0.00	72.25	70.08	204.33	108.25	16.00	2.85	15.47	77.35%
ユニット型短期入所施設山崎園	10名	0.00	0.42	43.33	29.25	101.08	49.42	5.42	2.75	7.52	75.23%

※要支援含まず

事業所	定員	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
やまざきデイサービスセンター一般型	35名	2.33	26.42	267.00	126.25	141.67	41.17	0.00	1.92	28.06	80.16%

※要支援含まず

事業所	利用人数	派遣回数	身体介護回数	生活援助回数	身体生活複合回数	予防支援回数	平均人数/日
やまざきホームヘルプステーション	30.83	253.42	76.25	75.92	55.25	46.00	11.97

事業所	定員	空床日数×床数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度
グループホームやまざき	9名	0.00	0.00	5.67	3.33	0.00	0.00	0.00	1.37

※要支援含まず

事業所	定員	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
グループホームやまざきデイサービス	3名	0.00	0.08	0.67	3.33	0.00	0.00	0.00	1.83	1.99	66.36%

※要支援含まず

事業所	要支援プラン数	要介護プラン数	職員常勤換算値	職員一人当たりプラン数	平均介護度	要支援新規受入数	要介護新規受入数
山崎園居宅介護支援事業所	24.00	104.58	3.00	42.86	1.84	0.50	1.92

※要支援含まず

事業所	定員	末日定員	空床日数×床数	平均人数/日	利用率
生活支援ハウス山崎	6部屋9名	4.33	54.50	4.22	70.26%

※6名以上を目指す

事業所	定員	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
松城デイサービスセンター一般型	30名	22.50	16.67	162.75	74.00	46.75	43.17	2.75	1.93	17.06	56.87%

※要支援含まず

事業所	定員	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
松城デイサービスセンター認知症対応型	12名	0.00	2.42	40.33	13.00	24.00	17.17	45.17	3.11	6.58	54.81%

※要支援含まず

事業所	要支援プラン数	要介護プラン数	職員常勤換算値	職員一人当たりプラン数	平均介護度	要支援新規受入数	要介護新規受入数
松城指定居宅介護支援事業所	29.08	62.08	1.90	47.96	1.64	1.08	2.75

※要支援含まず

事業所	定員	末日定員	空床日数×床数	介護保険利用者数	療育手帳者	精神障害手帳者	身体障害手帳者
救護施設神ヶ谷園	110名	106.58	98.17	0.00	20.50	58.33	12.25

※114名を目指す

空床床数とは入院や退所などにより一時的に空いていて職員が処遇しない床の数です。空いている数の総日数を記載します。入院日や退院日は除いて考えます。また、末日定員は毎月最終日の入居している人数です。

事業所	年度	末日定員	空床日数×床数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度
特別養護老人ホーム三幸の園	平成23年度	109.58	53.42	3.67	10.58	27.25	33.67	34.42	3.77
	平成24年度	109.67	33.83	2.33	6.42	27.25	35.75	37.92	3.92
	平成25年度	109.50	28.67	3.83	4.00	25.00	39.25	36.92	3.93
	平成26年度	110.00	21.58	3.33	6.58	30.17	34.33	35.58	3.84
	平成27年度	109.67	22.83	3.25	6.42	30.50	36.50	32.83	3.82
	平成28年度	109.42	38.50	2.08	5.92	38.67	36.17	26.58	3.72
	平成29年度	109.33	51.50	4.92	7.67	36.92	30.08	29.75	3.66
	平成30年度	109.67	38.25	5.67	8.00	36.25	26.42	33.25	3.67
	平成31年度	109.50	34.67	4.83	8.17	32.50	27.67	36.33	3.75
令和2年度	109.92	35.00	5.25	7.92	30.92	31.25	34.08	3.74	

事業所	年度	要支援1実人数	要支援2実人数	要介護1実人数	要介護2実人数	要介護3実人数	要介護4実人数	要介護5実人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
短期入所施設三幸の園	平成23年度	0.25	1.33	104.58	137.75	127.25	75.50	126.17	2.97	18.77	93.9%
	平成24年度	2.25	8.00	91.83	109.67	134.92	116.58	106.67	3.07	18.97	94.8%
	平成25年度	2.25	6.92	65.00	106.50	197.83	102.17	57.58	2.96	17.70	88.5%
	平成26年度	0.75	0.42	53.08	137.08	171.58	111.17	49.92	2.94	17.23	86.2%
	平成27年度	0.00	0.00	50.58	112.42	165.83	107.08	83.92	3.12	17.05	85.2%
	平成28年度	2.50	0.42	76.08	98.58	157.58	85.83	64.67	2.93	15.92	79.6%
	平成29年度	0.00	1.42	97.75	86.00	171.00	112.25	56.00	2.89	17.24	86.2%
	平成30年度	2.17	0.42	103.83	101.67	137.00	119.00	61.42	2.87	17.31	86.5%
	平成31年度	0.00	0.00	68.42	128.42	178.75	97.83	45.42	2.85	17.11	85.6%
令和2年度	0.83	0.17	30.50	107.50	188.67	143.83	43.25	3.12	16.93	84.6%	

事業所	年度	要支援プラン数	要介護プラン数	職員常勤換算値	職員一人当たりプラン数	平均介護度	要支援新規受入数	要介護新規受入数
三幸の園指定居宅介護支援事業所	平成23年度	13.83	96.25	2.88	38.29	2.01	1.33	2.75
	平成24年度	19.83	90.08	2.71	40.58	2.08	0.83	2.33
	平成25年度	20.83	95.42	2.90	40.14	2.25	1.00	3.42
	平成26年度	20.50	105.17	3.00	41.89	2.23	0.50	2.83
	平成27年度	19.83	103.25	3.00	41.03	2.16	0.92	2.67
	平成28年度	19.08	101.67	3.00	40.25	2.02	0.25	2.83
	平成29年度	17.58	102.33	3.00	39.97	1.91	0.42	2.67
	平成30年度	24.92	99.67	3.00	41.53	1.87	0.58	2.50
	平成31年度	28.92	95.42	3.00	41.44	1.90	0.67	4.17
令和2年度	23.17	102.08	3.00	41.75	2.05	0.25	3.33	

事業所	年度	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
三幸の園デイサービスセンター一般型	平成23年度	37.00	33.00	277.42	115.33	45.25	39.42	1.92	1.69	25.66	85.5%
	平成24年度	26.25	92.50	216.33	136.08	29.50	45.08	0.00	1.77	25.62	85.4%
	平成25年度	32.83	101.00	192.08	138.00	58.17	57.17	0.58	1.96	26.95	89.8%
	平成26年度	18.75	37.92	231.33	177.50	66.58	52.92	4.08	1.91	27.19	90.6%
	平成27年度	11.92	38.08	229.75	194.83	46.67	51.67	9.50	1.90	26.88	89.6%
	平成28年度	20.83	38.92	210.50	151.33	52.75	44.67	8.58	1.91	24.34	81.1%
	平成29年度	11.17	30.00	178.58	122.92	26.25	41.92	2.17	1.83	19.28	64.3%
	平成30年度	22.33	30.75	172.58	79.08	42.25	43.92	1.25	1.88	18.60	62.0%
	平成31年度	26.92	52.33	184.00	110.25	67.25	38.33	3.42	1.93	22.52	75.1%
令和2年度	18.58	53.83	224.33	174.92	46.17	64.83	3.75	1.93	27.40	80.3%	

事業所	年度	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
三幸の園デイサービスセンター認知症対応型	平成23年度	0.00	0.00	14.08	29.42	10.67	8.17	10.00	2.59	3.32	36.9%
	平成24年度	0.00	0.00	14.50	9.75	44.58	5.75	12.25	2.90	4.02	44.7%
	平成25年度	0.00	0.00	6.50	8.67	28.83	6.92	6.42	2.97	2.65	29.5%
	平成26年度	0.00	0.00	0.50	12.58	10.67	6.67	7.75	3.19	1.59	17.6%
	平成27年度	0.00	0.00	0.08	0.67	5.75	9.75	2.92	3.81	0.88	9.8%
	平成28年度	0.00	0.00	19.75	9.25	23.25	10.75	8.00	2.77	3.27	36.4%
	平成29年度	0.00	0.00	18.50	0.00	30.75	1.33	16.75	2.98	3.13	34.8%
	平成30年度	0.00	0.00	15.00	5.67	39.67	1.00	19.42	3.06	3.81	42.3%
	平成31年度	0.00	0.00	16.92	12.75	31.33	20.25	24.83	3.22	4.93	54.7%
令和2年度	0.00	0.00	37.08	12.75	23.92	31.08	19.33	2.86	5.75	58.6%	

事業所	年度	利用人数	派遣回数	身体介護回数	生活援助回数	身体生活複合回数	予防支援回数	平均人数/日
三幸の園ホームヘルパーステーション	平成23年度	24.67	132.58	40.42	31.67	15.50	45.00	5.98
	平成24年度	23.67	142.08	30.75	45.58	17.92	47.83	6.59
	平成25年度	23.00	153.92	34.42	47.67	22.50	49.33	7.21
	平成26年度	22.17	146.92	39.92	49.75	22.17	37.00	6.92
	平成27年度	21.42	163.08	63.33	32.92	29.00	37.83	7.68
	平成28年度	23.58	181.08	50.33	33.58	37.17	60.00	8.51
	平成29年度	31.50	211.17	43.92	57.25	54.17	55.83	9.93
	平成30年度	34.25	210.50	78.83	46.42	28.58	56.67	9.98
	平成31年度	31.08	211.92	78.25	46.67	26.08	60.92	9.97
令和2年度	34.42	249.33	63.92	51.17	67.67	66.58	11.71	

事業所	年度	利用人数	派遣回数	平均人数/日
訪問看護ステーション大平台	平成23年度	25.33	115.33	5.29
	平成24年度	26.08	141.33	6.59
	平成25年度	25.67	137.17	6.39
	平成26年度	28.50	145.67	6.79
	平成27年度	36.17	185.75	8.55
	平成28年度	34.75	206.75	9.68
	平成29年度	34.00	195.08	9.07
	平成30年度	32.17	169.83	7.90
	平成31年度	35.83	199.17	9.26
令和2年度	41.67	229.17	10.63	

事業所	年度	直営要支援プラン数	再委託プラン数	総合相談件数	権利擁護相談件数	二次予防プラン
地域包括支援センター大平台	平成23年度	83.42	86.92	118.17	9.75	10.92
	平成24年度	79.25	122.00	125.08	5.75	11.17
	平成25年度	67.92	106.42	101.08	8.83	6.75
	平成26年度	58.83	117.58	118.42	10.33	6.58
	平成27年度	62.75	119.67	118.50	8.75	4.42
平成28年度	87.33	121.50	110.75	7.25	39.17	

事業所	年度	直営要支援プラン数	再委託要支援プラン数	直営予防Aプラン数	再委託予防Aプラン数	直営予防Bプラン数	再委託予防Bプラン数	総合相談件数	権利擁護相談件数
地域包括支援センター大平台	平成29年度	40.92	82.67	36.17	51.50	33.92	0.00	125.58	16.67
	平成30年度	34.08	93.25	46.25	55.67	34.08	5.17	145.42	14.25
	平成31年度	39.33	111.08	51.42	58.50	24.75	0.00	143.67	24.00
	令和2年度	53.50	108.33	64.83	54.50	23.58	0.00	170.25	21.92

事業所	年度	要支援1実人数	要支援2実人数	要介護1実人数	要介護2実人数	要介護3実人数	要介護4実人数	要介護5実人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
ユニット型短期入所施設三幸の園	令和2年度	0.92	3.25	54.58	70.00	198.08	84.58	35.67	2.71	14.73	80.35%

事業所	年度	自立実人数	要支援1実人数	要支援2実人数	要介護1実人数	要介護2実人数	要介護3実人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
ライフケアアダージョ大平台	令和2年度	1.83	1.08	1.83	11.25	4.58	0.92	1.27	21.50	93.82%

事業所	年度	末日定員	空床日数×床数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度
特別養護老人ホーム山崎園	平成23年度	99.17	102.00	7.92	13.17	28.83	29.83	19.33	3.40
特別養護老人ホーム山崎園	平成24年度	98.50	56.50	8.00	8.83	26.58	32.67	22.17	3.53
特別養護老人ホーム山崎園	平成25年度	99.33	75.42	8.92	11.00	34.75	25.92	18.67	3.35
特別養護老人ホーム山崎園 (従来型)	平成26年度	49.67	15.67	1.83	7.33	19.50	14.08	6.75	3.33
ユニット型特別養護老人ホーム山崎園		49.92	18.58	3.75	8.17	16.42	12.00	9.50	3.31
特別養護老人ホーム山崎園 (従来型)	平成27年度	49.58	24.83	1.50	3.33	20.83	16.83	7.08	3.50
ユニット型特別養護老人ホーム山崎園		49.58	44.92	2.75	6.25	15.58	13.75	11.25	3.49
特別養護老人ホーム山崎園 (従来型)	平成28年度	49.67	10.17	0.58	2.50	14.33	21.17	11.08	3.80
ユニット型特別養護老人ホーム山崎園		49.42	27.08	1.58	2.67	14.42	19.58	11.00	3.73
特別養護老人ホーム山崎園 (従来型)	平成29年度	49.92	15.25	1.00	1.67	10.67	23.25	13.42	3.93
ユニット型特別養護老人ホーム山崎園		49.83	27.17	1.92	2.92	14.33	21.33	9.33	3.67
特別養護老人ホーム山崎園 (従来型)	平成30年度	49.50	13.75	1.00	2.00	15.33	18.17	13.08	3.81
ユニット型特別養護老人ホーム山崎園		49.33	22.42	1.00	2.00	16.92	18.25	11.25	3.74
特別養護老人ホーム山崎園 (従来型)	平成31年度	48.50	39.33	0.17	1.67	19.50	14.33	13.33	3.80
ユニット型特別養護老人ホーム山崎園		49.33	18.17	0.75	1.67	17.83	15.75	13.67	3.80
特別養護老人ホーム山崎園 (従来型)	令和2年度	49.67	16.58	0.00	1.58	21.42	13.83	12.83	3.76
ユニット型特別養護老人ホーム山崎園		49.33	15.00	0.00	1.50	21.17	13.75	13.25	3.78

事業所	年度	要支援1実人数	要支援2実人数	要介護1実人数	要介護2実人数	要介護3実人数	要介護4実人数	要介護5実人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
短期入所施設山崎園	平成23年度	1.00	7.83	166.17	164.08	181.92	182.08	36.75	2.67	24.25	80.8%
短期入所施設山崎園 (従来型)	平成24年度	3.17	1.25	71.25	103.58	188.42	112.00	11.17	2.77	16.14	80.7%
ユニット型短期入所施設山崎園		1.83	7.25	28.33	66.92	63.75	42.33	3.83	2.64	7.06	70.6%
短期入所施設山崎園 (従来型)	平成25年度	0.00	0.25	83.17	80.08	134.25	129.58	31.92	2.88	15.10	75.5%
ユニット型短期入所施設山崎園		0.58	6.33	52.33	67.42	46.75	28.00	18.17	2.49	7.22	72.2%
短期入所施設山崎園 (従来型)	平成26年度	0.17	1.42	90.67	78.00	153.42	84.00	27.83	2.71	14.30	71.5%
ユニット型短期入所施設山崎園		0.00	3.50	53.50	50.42	33.75	89.58	0.67	2.71	7.62	76.2%
短期入所施設山崎園 (従来型)	平成27年度	0.08	8.67	50.67	128.92	98.17	87.83	33.75	2.78	13.50	67.5%
ユニット型短期入所施設山崎園		0.75	6.17	50.25	50.00	36.92	59.33	23.42	2.80	7.43	74.3%
短期入所施設山崎園 (従来型)	平成28年度	0.00	1.17	66.00	144.42	63.58	100.58	35.50	2.74	13.52	67.6%
ユニット型短期入所施設山崎園		7.42	6.17	18.92	66.08	28.00	63.42	17.00	2.96	6.81	68.1%
短期入所施設山崎園 (従来型)	平成29年度	0.00	0.08	80.42	142.83	113.83	79.83	33.50	2.65	14.87	74.3%
ユニット型短期入所施設山崎園		1.00	3.08	56.33	55.67	48.58	59.83	13.08	2.65	7.75	77.5%
短期入所施設山崎園 (従来型)	平成30年度	0.00	0.58	44.75	157.08	177.58	65.83	7.25	2.63	14.89	74.4%
ユニット型短期入所施設山崎園		0.33	3.92	52.17	42.50	75.25	50.75	17.17	2.75	7.92	79.2%
短期入所施設山崎園 (従来型)	平成31年度	0.00	1.92	81.50	92.25	177.92	54.00	23.08	2.63	14.12	70.6%
ユニット型短期入所施設山崎園		0.00	3.83	48.00	32.75	79.25	52.67	15.50	2.80	7.61	76.1%
短期入所施設山崎園 (従来型)	令和2年度	0.00	0.00	72.25	70.08	204.33	108.25	16.00	2.85	15.47	77.4%
ユニット型短期入所施設山崎園		0.00	0.42	43.33	29.25	101.08	49.42	5.42	2.75	7.52	75.2%

事業所	年度	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
やまぎきデイサービスセンター一般型	平成23年度	23.58	26.83	144.00	112.75	70.42	64.50	19.00	2.27	21.38	71.3%
	平成24年度	28.75	50.00	158.17	92.08	66.58	63.58	2.42	2.11	21.49	71.6%
	平成25年度	15.42	33.50	166.25	133.42	32.50	76.08	4.25	2.08	21.44	71.5%
	平成26年度	18.50	40.25	158.00	164.92	30.17	65.50	1.75	2.02	22.30	74.3%
	平成27年度	15.00	48.17	204.67	159.75	67.92	54.67	0.00	1.94	25.38	84.6%
	平成28年度	30.33	34.83	199.50	127.33	76.75	18.42	14.50	1.90	23.17	77.2%
	平成29年度	15.33	32.75	222.58	107.83	108.58	33.75	21.92	2.04	25.26	84.2%
	平成30年度	1.17	29.42	216.42	85.08	147.67	43.25	14.08	2.12	25.28	84.3%
	平成31年度	0.08	37.42	260.17	94.50	132.42	29.17	2.17	1.88	26.56	87.4%
	令和2年度	2.33	26.42	267.00	126.25	141.67	41.17	0.00	1.92	28.06	80.2%

事業所	年度	利用人数	派遣回数	身体介護回数	生活援助回数	身体生活複合回数	予防支援回数	平均人数/日
やまぎきホームヘルパーステーション	平成23年度	20.50	186.58	88.92	7.17	24.00	62.33	8.58
	平成24年度	19.33	184.42	67.67	8.58	57.58	50.75	8.60
	平成25年度	15.67	183.92	87.17	8.50	64.92	23.33	8.59
	平成26年度	15.83	193.00	82.92	17.25	78.75	14.08	8.97
	平成27年度	15.50	219.42	84.83	15.92	98.00	20.67	10.12
	平成28年度	18.25	221.83	80.92	10.75	91.00	39.17	10.29
	平成29年度	21.08	217.08	75.75	27.42	66.42	47.50	10.15
	平成30年度	21.25	202.42	68.25	33.17	68.42	32.58	9.49
	平成31年度	26.42	202.75	52.08	50.08	50.08	50.50	9.56
	令和2年度	30.83	253.42	76.25	75.92	55.25	46.00	11.97

事業所	年度	空床日数×床数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度
グループホームやまぎき	平成23年度	1.92	0.00	2.00	5.17	0.42	0.42	0.00	1.91
	平成24年度	0.33	0.00	2.83	3.25	1.92	0.00	0.00	1.89
	平成25年度	1.75	0.00	4.17	2.83	1.00	0.00	0.00	1.60
	平成26年度	0.25	0.00	5.00	1.58	1.00	0.42	0.00	1.60
	平成27年度	0.00	0.00	5.42	1.25	2.33	0.00	0.00	1.66
	平成28年度	9.33	0.00	5.17	2.17	1.25	0.17	0.00	1.59
	平成29年度	0.50	0.00	5.25	2.25	1.00	0.50	0.00	1.64
	平成30年度	0.00	0.00	4.92	2.42	1.08	0.50	0.00	1.68
	平成31年度	0.33	0.00	4.83	2.83	1.33	0.00	0.00	1.61
	令和2年度	0.00	0.00	5.67	3.33	0.00	0.00	0.00	1.37

事業所	年度	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
グループホームやまぎきデイサービス	平成23年度	0.00	0.00	1.92	1.08	0.75	1.25	0.00	2.27	2.73	90.8%
	平成24年度	0.00	0.00	12.58	6.83	2.25	14.42	0.00	2.51	2.58	86.0%
	平成25年度	0.00	0.00	1.50	0.67	1.50	0.75	0.17	2.44	2.26	75.4%
	平成26年度	0.08	0.00	2.00	1.00	1.00	0.08	0.00	1.87	2.32	77.3%
	平成27年度	0.50	0.00	0.17	2.25	0.92	0.83	0.00	2.65	2.32	77.5%
	平成28年度	0.00	0.00	0.75	1.08	1.33	0.00	0.00	1.64	1.59	53.1%
	平成29年度	0.00	0.00	0.00	0.25	0.17	0.00	0.00	0.79	0.19	6.2%
	平成30年度	0.00	0.00	0.67	1.08	0.58	0.00	0.00	1.94	1.39	46.2%
	平成31年度	0.00	0.00	1.58	1.50	0.33	0.00	0.00	1.72	1.53	51.0%
令和2年度	0.00	0.08	0.67	3.33	0.00	0.00	0.00	1.83	1.99	66.4%	

事業所	年度	要支援プラン数	要介護プラン数	職員常勤換算値	職員一人当たりプラン数	平均介護度	要支援新規受入数	要介護新規受入数
山崎園居宅介護支援事業所	平成23年度	12.75	70.75	2.88	29.04	2.21	1.33	3.83
	平成24年度	15.33	92.08	2.88	37.36	2.19	0.92	4.92
	平成25年度	13.67	93.83	2.94	36.60	2.11	1.33	3.17
	平成26年度	19.08	93.75	2.96	38.09	2.10	1.58	2.92
	平成27年度	26.33	91.33	3.00	39.22	2.13	1.08	2.67
	平成28年度	27.33	100.25	3.08	41.69	2.10	0.33	4.00
	平成29年度	22.92	109.83	3.22	41.37	1.99	1.42	5.50
	平成30年度	26.50	119.75	3.88	37.80	1.95	0.75	3.50
	平成31年度	43.83	130.92	4.00	43.69	1.82	1.58	4.33
	令和2年度	24.00	104.58	3.00	42.86	1.84	0.50	1.92

事業所	年度	末日定員	空床日数×床数	平均人数/日	利用率
生活支援ハウス山崎	平成23年度	2.50	112.50	2.13	35.5%
	平成24年度	3.50	84.25	3.22	53.7%
	平成25年度	2.75	94.83	2.89	48.2%
	平成26年度	3.92	65.33	3.85	64.1%
	平成27年度	0.50	160.92	0.70	11.7%
	平成28年度	1.50	140.58	1.38	22.9%
	平成29年度	2.25	117.92	2.12	35.3%
	平成30年度	5.75	21.58	5.44	90.6%
	平成31年度	4.33	53.17	4.26	71.0%
	令和2年度	4.33	54.50	4.22	70.3%

事業所	年度	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
松城デイサービスセンター一般型	平成23年度	27.50	21.92	85.08	85.33	86.08	14.33	14.50	2.26	15.50	51.7%
	平成24年度	34.42	48.67	142.25	86.42	77.42	40.08	9.08	2.12	20.68	68.9%
	平成25年度	13.92	38.08	168.83	94.92	77.42	28.25	2.08	1.92	19.71	65.7%
	平成26年度	18.08	50.25	186.58	91.00	56.58	55.92	18.67	2.10	22.19	74.0%
	平成27年度	9.17	72.00	169.17	106.58	48.17	85.50	36.83	2.36	24.35	81.2%
	平成28年度	14.17	37.00	156.92	122.75	52.75	58.00	6.17	2.07	20.64	68.8%
	平成29年度	7.42	23.25	181.33	126.17	53.25	35.58	6.17	1.91	20.14	67.1%
	平成30年度	15.75	16.42	161.25	75.75	32.08	52.92	7.08	1.99	16.86	56.2%
	平成31年度	14.92	30.58	164.00	41.58	54.67	49.67	15.58	2.11	17.20	57.3%
	令和2年度	22.50	16.67	162.75	74.00	46.75	43.17	2.75	1.93	17.06	56.9%

事業所	年度	要支援1人数	要支援2人数	要介護1人数	要介護2人数	要介護3人数	要介護4人数	要介護5人数	平均介護度	平均人数/日	利用率
松城デイサービスセンター認知症対応型	平成23年度	0.00	0.00	0.25	1.42	28.67	44.42	42.42	4.09	5.36	44.7%
	平成24年度	0.00	0.00	7.75	8.00	30.58	47.00	47.17	3.84	6.64	55.3%
	平成25年度	0.00	0.00	9.67	6.42	22.83	20.83	52.08	3.89	5.18	43.1%
	平成26年度	0.00	0.00	14.33	12.33	11.33	20.00	28.50	3.43	4.02	33.5%
	平成27年度	0.00	0.00	0.00	9.58	12.17	10.75	47.33	4.20	3.68	30.7%
	平成28年度	0.00	0.00	0.00	1.83	11.00	22.33	44.83	4.39	3.69	30.8%
	平成29年度	0.00	0.00	1.75	6.17	8.50	16.00	37.50	4.21	3.24	27.0%
	平成30年度	0.00	5.58	9.58	10.75	26.08	3.33	45.83	3.67	4.72	39.3%
	平成31年度	0.00	8.75	11.50	15.92	25.83	10.08	57.75	3.74	6.01	50.1%
	令和2年度	0.00	2.42	40.33	13.00	24.00	17.17	45.17	3.11	6.58	54.8%

事業所	年度	要支援プラン数	要介護プラン数	職員常勤換算値	職員一人当たりプラン数	平均介護度	要支援新規受入数	要介護新規受入数
松城指定居宅介護支援事業所	平成24年度	18.92	13.67	1.00	32.58	1.83	2.67	2.42
	平成25年度	25.25	22.58	1.00	47.83	1.64	0.67	1.75
	平成26年度	20.08	31.42	1.00	51.50	1.92	0.33	1.83
	平成27年度	16.67	29.83	1.00	46.50	1.81	0.75	0.83
	平成28年度	17.67	30.92	1.00	48.58	1.57	0.75	1.25
	平成29年度	14.67	28.08	1.00	42.75	1.62	0.42	0.58
	平成30年度	18.00	27.00	1.00	45.00	1.75	0.67	1.00
	平成31年度	20.08	36.92	1.33	43.35	1.58	1.50	2.33
令和2年度	29.08	62.08	1.90	47.96	1.64	1.08	2.75	

事業所	年度	末日定員	空床日数×床数	介護保険利用者数	療育手帳者	精神障害手帳者	身体障害手帳者
救護施設神ヶ谷園	平成29年度	108.33	59.33	0.00	18.00	56.33	14.00
	平成30年度	109.75	21.33	0.00	19.67	55.92	13.42
	平成31年度	106.58	110.75	0.00	21.58	55.08	13.25
	令和2年度	106.58	98.17	0.00	20.50	58.33	12.25

旧事業所参考

事業所	年度	末日定員	空床日数×床数	介護保険利用者数	療育手帳者	精神障害手帳者	身体障害手帳者
救護施設浜松市立入野園	平成23年度	52.08	25.58	0.08	12.08	17.83	6.00
	平成24年度	52.33	21.50	0.00	11.33	19.67	6.00
	平成25年度	53.25	10.92	0.00	10.58	21.50	7.17
	平成26年度	55.00	0.00	0.00	9.00	23.00	7.75
	平成27年度	54.33	20.08	0.00	9.17	23.50	8.08
	平成28年度	53.83	36.25	0.00	9.50	22.75	7.42
	平成29年度	53.56	44.00	0.00	9.00	21.78	8.00

事業所	年度	末日定員	空床日数×床数	介護保険利用者数	療育手帳者	精神障害手帳者	身体障害手帳者
救護施設浜松市立西山園	平成23年度	58.17	54.50	0.00	7.58	35.67	7.67
	平成24年度	57.50	77.00	0.00	7.25	35.92	9.08
	平成25年度	59.00	33.92	0.00	9.50	36.83	9.17
	平成26年度	57.83	56.75	0.00	10.00	36.67	7.67
	平成27年度	58.67	47.75	0.00	10.00	35.00	8.75
	平成28年度	58.08	53.58	0.00	10.00	28.75	7.58
	平成29年度	56.00	121.89	0.00	9.78	31.67	6.00

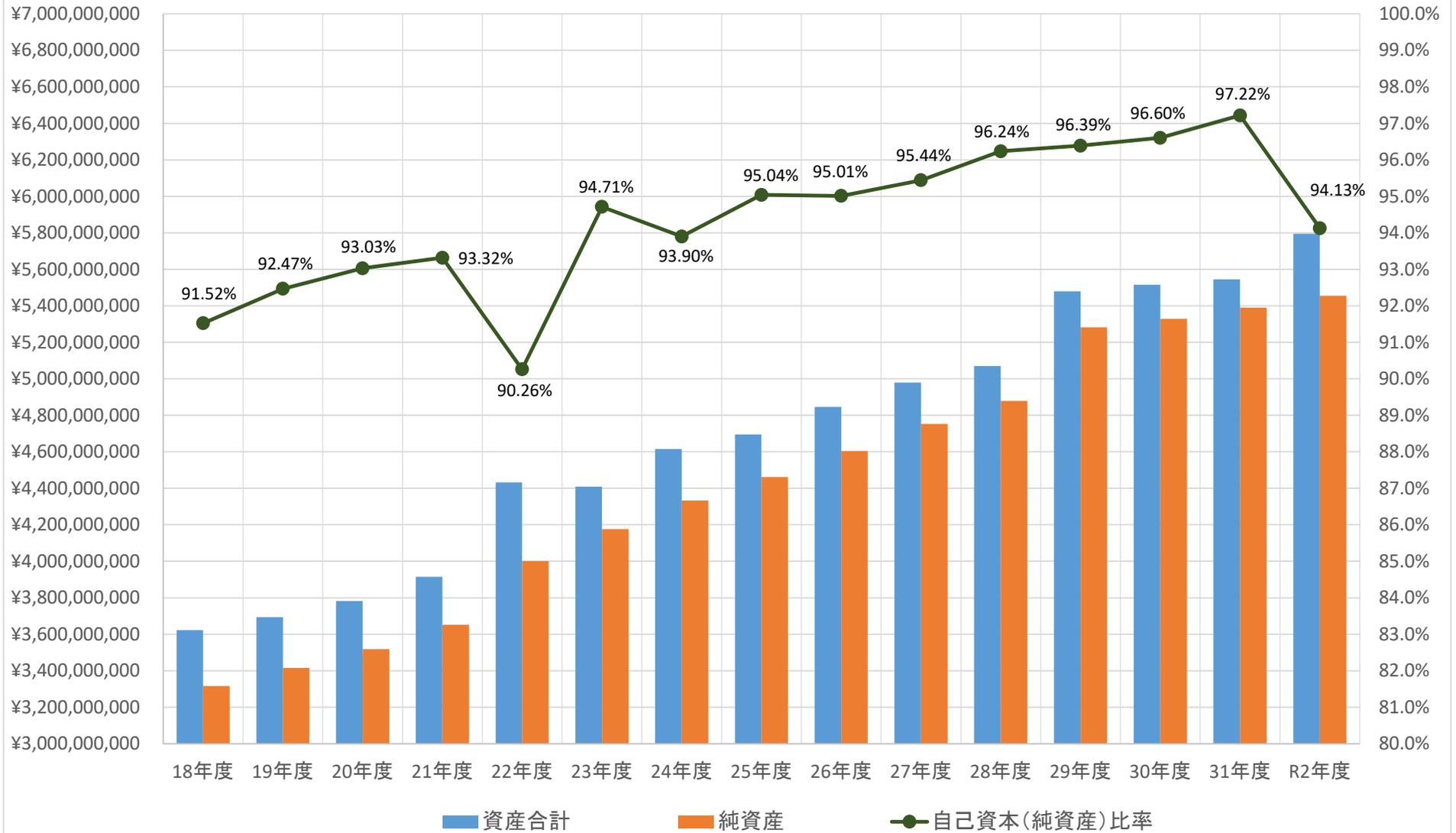
事業所	年度	末日定員	空床日数×床数	月内退所者	月内入所者
浜松市立軽費老人ホーム佐鳴荘	平成23年度	48.83	120.83	0.92	0.92
	平成24年度	49.42	67.50	1.17	1.00
	平成25年度	49.83	19.08	0.33	0.42
	平成26年度	49.58	22.00	0.42	0.25
	平成27年度	49.08	54.83	0.50	0.42
	平成28年度	46.92	126.50	0.75	0.75

令和2年度 公益的取り組みの実績一例

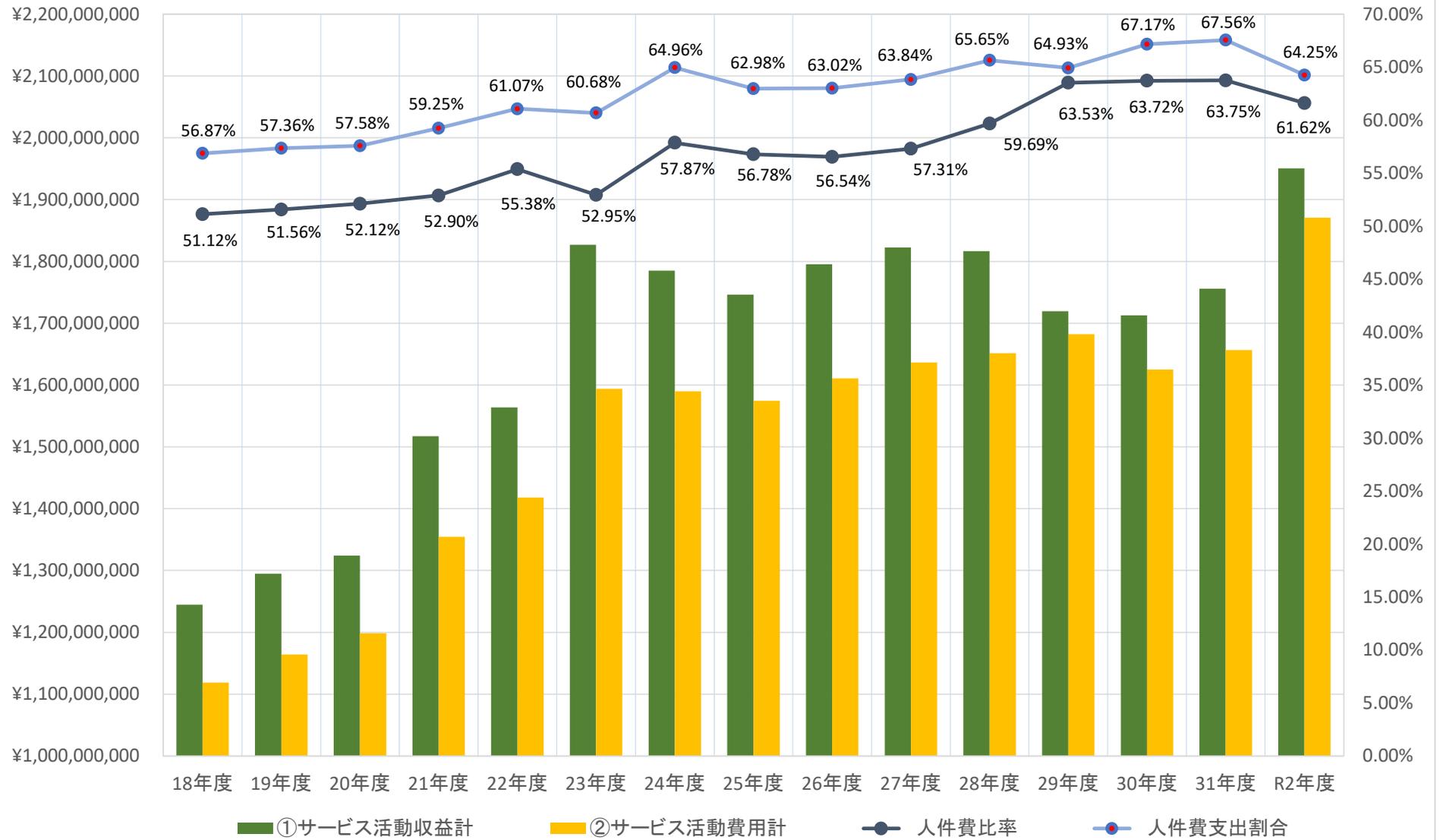
日程	参加及び受入	具体的内容	社会福祉公益性			
			◎地域福祉充実	◎福祉学校教育講義	△慰問等受入	△地域活動他
毎週金曜日	竹村理事長	浜松西ロータリークラブ活動				△
毎週土曜日	特別養護老人ホーム山崎園	杏林堂コラボ企画 移動販売「とくし丸」場所提供	◎			
毎週火曜日	高齢者総合福祉施設大平台の園	杏林堂コラボ企画 移動販売「とくし丸」場所提供	◎			
毎週月曜日	松城デイサービスセンター	杏林堂コラボ企画 移動販売「とくし丸」場所提供	◎			
毎月一回	松城デイサービスセンター	障害者支援施設光明学園に職員家庭で出たアルミ缶を提供	◎			
都度	特別養護老人ホーム三幸の園	浜松市内高等学校吹奏楽部定期演奏会協賛支援				△
2020/4/28	救護施設神ヶ谷園	浜松市保健所保健総務部寄付(N95バイリンマスク50枚・メディカルマスク450枚・使い捨てガウン約150枚・シューズカバー約100枚・使い捨てキャップ約150枚)				△
2020/6/10	三幸の園居宅、山崎園居宅、松城居宅、地域包括大平台	認知症サポーター講座 神久呂小学校		◎		
2020/6/16	高齢者総合福祉施設大平台の園	民生委員児童委員協議会ミニ定例会 地域交流室会場提供				△
2020/7/3	高齢者総合福祉施設大平台の園	浜松市老人福祉施設経営者協議会役員会 会議室会場提供と大平台の園見学会	◎			
2020/7/4	特別養護老人ホーム山崎園	やまざきロコトレサロン開催 参加者 8名	◎			
2020/7/10	三幸の園デイサービスセンター	傾聴・活動補助ボランティア:個人(野島ひろみ様) 14:30~15:30	◎			
2020/7/13	高齢者総合福祉施設大平台の園	社会福祉法人八生会 大平台の園見学会	◎			
2020/7/19	救護施設神ヶ谷園	大平台自治会資源回収 新聞・段ボール提供				△
2020/7/19	特別養護老人ホーム三幸の園	大平台自治会資源回収 新聞・段ボール提供				△
2020/7/21	地域包括支援センター大平台	地域交流室にて大平台高齢者サロン「元気の会」定例会(食事会、麻雀、輪投げ)20名参加				△
2020/7/26	特別養護老人ホーム三幸の園	きちっと居宅支援事業所 ワイヤレスマイク機器貸し出し				△
2020/8/7	地域包括支援センター大平台	地域交流室にて手話講座の会	◎			
2020/8/11	高齢者施設部門事業部	熊本南豪雨災害義援金提供	◎			
2020/8/18	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 親子グループ	◎			
2020/8/20	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいきトレーナー	◎			
2020/8/21	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会	◎			
2020/8/21	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 親子グループ	◎			
2020/8/25	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 親子グループ	◎			
2020/8/28	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会	◎			
2020/8/28	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 高齢者サロン 元気の会	◎			
2020/8/20~8/28	ユニット型特別養護老人ホーム山崎園	特別養護老人ホーム実習生受け入れ 修学舎高校2年生 1名		◎		
2020/8/20~8/28	特別養護老人ホーム山崎園	特別養護老人ホーム実習生受け入れ 修学舎高校2年生 1名		◎		
2020/8/25~9/22	特別養護老人ホーム山崎園	特別養護老人ホーム実習生受け入れ 聖隷クリストファー大学介護福祉科2年生 1名		◎		
2020/8/25~9/22	ユニット型特別養護老人ホーム山崎園	特別養護老人ホーム実習生受け入れ 聖隷クリストファー大学介護福祉科2年生 1名		◎		
2020/8/25~9/23	特別養護老人ホーム三幸の園	特別養護老人ホーム実習生受け入れ 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 2名		◎		
2020/9/2	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいきトレーナー	◎			
2020/9/4	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会	◎			
2020/9/6	救護施設神ヶ谷園	大平台自治会資源回収 新聞・段ボール提供				△
2020/9/9	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 親子グループ	◎			
2020/9/11	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会	◎			
2020/9/11	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 高齢者サロン元気の会	◎			
2020/9/16	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいきトレーナー	◎			
2020/9/18	三幸の園デイサービスセンター	傾聴・活動補助ボランティア:個人(野島ひろみ様) 14:30~15:30	◎			
2020/9/20	特別養護老人ホーム三幸の園	特別養護老人ホーム ボランティア受け入れ 敬老式典での踊り 土屋様 5名				△
2020/9/21	三幸の園・大平台の園	高齢者疑似体験 西都台小学校4年生67名		◎		
2020/9/21	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 親子グループ	◎			
2020/9/23	三幸の園デイサービスセンター	傾聴・活動補助ボランティア:個人(野島ひろみ様) 14:30~15:30	◎			
2020/9/24	在宅部門(6名)	認知症サポーター養成講座 大平台小学校		◎		
2020/9/25	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会	◎			
2020/9/25	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 高齢者サロン元気の会	◎			
2020/9/25	救護施設神ヶ谷園	好生会三方原病院職員施設見学会 10名	◎			
2020/10/1	大平台の園 袴田相談員	認知症独り歩き模擬訓練打ち合わせ参加	◎			
2020/10/2	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 9名	◎			
2020/10/3・17・24・31	高齢者総合福祉施設大平台の園	映画「二宮金次郎」多目的室場所提供 10月10日を除く毎週土曜日				△
2020/10/5	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 高齢者サロン元気の会 15名	◎			
2020/10/7	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいきトレーナー 2名	◎			
2020/10/8	救護施設神ヶ谷園	民生委員の西区会長会へ挨拶				△
2020/10/9	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 9名	◎			
2020/10/9	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 高齢者サロン元気の会 16名	◎			
2020/10/14	在宅部門事業部(6名)	認知症サポーター養成講座 西都台小学校		◎		
2020/10/15	在宅部門事業部(5名)	認知症サポーター養成講座 鴨江小学校		◎		
2020/10/15	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 7名	◎			
2020/10/16	在宅部門事業部(6名)	認知症サポーター養成講座 入野小学校		◎		
2020/10/16	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 8名	◎			
2020/10/22	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 11名	◎			
2020/10/23	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 7名	◎			
2020/10/23	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 高齢者サロン元気の会 19名	◎			
2020/10/24	特別養護老人ホーム山崎園	やまざきロコトレサロン開催 参加者 12名	◎			
2020/10/28	救護施設神ヶ谷園	慈照園主催の地域サロン事業講座参加 職員1名、利用者3名	◎			
2020/10/29	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 10名	◎			
2020/11/2	竹村理事長・神ヶ谷園 麻原介護士	聖隷クリストファー大学専門学校授業 福祉のブランド価値・アンガーマネジメント・介護の仕事で大切なこと		◎		
2020/11/2	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 高齢者サロン元気の会 16名	◎			
2020/11/3	三幸の園デイサービスセンター	慰問受入 和田様(個人)1名 バイオリン演奏				△
2020/11/5	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 12名	◎			
2020/11/5	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいきトレーナー(田村) 2名	◎			

2020/11/6	三幸の園 藤田副園長・山崎園 佐藤ケアマネ	湖東中学校 職業講和・高齢者疑似体験 満足感向上P・広報推進P活動		◎		
2020/11/6	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 9名	◎			
2020/11/7・14・28	高齢者総合福祉施設大平台の園	映画「二宮金次郎」多目的室場所提供 11月21日を除く毎週土曜日			△	
2020/11/8	三幸の園・神ヶ谷園	大平台自治会一斉清掃参加 職員9名 利用者30名				△
2020/11/11	三幸の園・大平台の園・神ヶ谷園7事業所	認知症独り歩き模擬訓練	◎			
2020/11/12	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 12名	◎			
2020/11/15	三幸の園・神ヶ谷園	大平台自治会資源回収 新聞・段ボール提供				△
2020/11/16	三幸会全施設	浜松市役所健康増進課口腔ケア歯の健康アンケート協力				△
2020/11/19	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 9名	◎			
2020/11/20	特別養護老人ホーム三幸の園	静岡県立浜松大平台高校 キャリア授業(講師として) 職員3名		◎		
2020/11/22	特別養護老人ホーム三幸の園	特別養護老人ホーム ボランティア受け入れ ヘルスケアアート 谷口様 1名			△	
2020/11/26	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 13名	◎			
2020/11/27	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 9名	◎			
2020/12/3	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 12名	◎			
2020/12/4~18	ユニット型特別養護老人ホーム山崎園	特別養護老人ホーム実習生受け入れ 修学舎高校2年生 2名		◎		
2020/12/4~18	特別養護老人ホーム山崎園	特別養護老人ホーム実習生受け入れ 修学舎高校2年生 1名		◎		
2020/12/5・12・19	高齢者総合福祉施設大平台の園	映画「二宮金次郎」多目的室場所提供 12月26日を除く毎週土曜日			△	
2020/12/10	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 14名	◎			
2020/12/11	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 7名	◎			
2020/12/14	特別養護老人ホーム三幸の園	静岡県立浜松大平台高校 地域交流事業 職員2名		◎		
2020/12/14	救護施設神ヶ谷園	静岡県立浜松大平台高校 地域交流事業 職員1名		◎		
2020/12/17	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 15名	◎			
2020/12/18	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 9名	◎			
2021/1/24	三幸の園・神ヶ谷園	大平台自治会資源回収 新聞・段ボール提供				△
2021/1/8	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 7名	◎			
2021/1/14	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 生き生き体操教室 16名	◎			
2021/1/15	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 8名	◎			
2021/1/19	三幸の園・大平台の園・神ヶ谷園	大平台明るいまちづくり実行委員会 大平台Niziフェスタの3万円協賛				△
2021/1/21	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 生き生き体操教室 14名	◎			
2021/1/28	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 生き生き体操教室 14名	◎			
2021/1/29	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 8名	◎			
2021/2/4	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 生き生き体操教室 14名	◎			
2021/2/5	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 8名	◎			
2021/2/7	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 佐鳴台保育園保護者の会 4名	◎			
2021/2/11	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 生き生き体操教室 13名	◎			
2021/2/12	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 9名	◎			
2021/2/15	全施設	聖隷クリストファー大学 外国人雇用アンケート協力	◎			
2021/2/18	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 生き生き体操教室 14名	◎			
2021/2/19	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 7名	◎			
2021/2/25	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 生き生き体操教室 14名	◎			
2021/2/26	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 8名	◎			
2021/2/27	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 佐鳴台保育園保護者の会 4名	◎			
2021/2/3	山崎園居宅介護支援事業所	雄踏幼稚園節分行事ボランティア参加2名				△
2021/2/15~3/12	ユニット型特別養護老人ホーム山崎園	特別養護老人ホーム実習生受け入れ 聖隷クリストファー大学2年生 1名		◎		
2021/3/4	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 15名	◎			
2021/3/5	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 7名	◎			
2021/3/11	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 14名	◎			
2021/3/12	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 9名	◎			
2021/3/13・14	救護施設神ヶ谷園	大平台Nijiフェスタ開催時駐車場提供				△
2021/3/14	竹村理事長	大平台Nijiフェスタ参加				△
2021/3/14	特別養護老人ホーム三幸の園	大平台自治会資源回収 新聞・段ボール提供				△
2021/3/14	救護施設神ヶ谷園	大平台自治会資源回収 新聞・段ボール提供				△
2021/3/16	救護施設神ヶ谷園	中川寺住職による講話			△	
2021/3/18	特別養護老人ホーム三幸の園	特別養護老人ホームボランティア受け入れ ヘルスケアアート 谷口様 1名			△	
2021/3/18	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 11名	◎			
2021/3/25	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 いきいき体操教室 13名	◎			
2021/3/26	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 手話講座の会 8名	◎			
2021/3/28	地域包括支援センター大平台	地域交流室場所提供 佐鳴台保育園保護者の会 3名	◎			
合計個数			78	19	8	18
123						

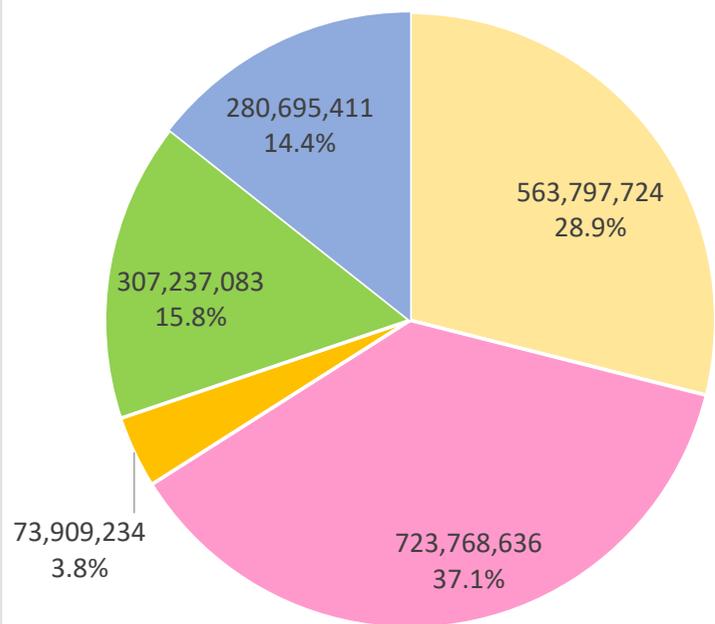
貸借対照表BSから見えるところ 安定感・総資産・純資産の推移



事業活動計算書PLから見えるところ 収益・費用・人件費の推移

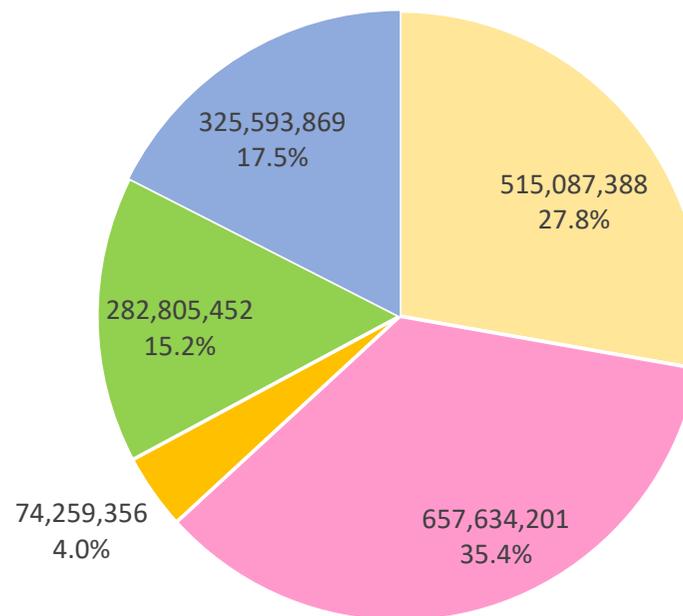


令和2年度 拠点区分ごとの収益分布:円



- 収益 三幸の園拠点区分
- 収益 山崎園拠点区分
- 収益 松城拠点区分
- 収益 神ヶ谷園拠点区分
- 収益 大平台の園拠点区分

令和2年度 拠点区分ごとの費用分布:円



- 費用 三幸の園拠点区分
- 費用 山崎園拠点区分
- 費用 松城拠点区分
- 費用 神ヶ谷園拠点区分
- 費用 大平台の園拠点区分

令和2年度	三幸会統括	前年度比	法人本部	特別養護老人ホーム三幸の園110床	短期入所施設三幸の園20床	三幸の園指定居宅介護支援事業所	三幸の園デｲｰﾋﾞﾝｸﾞｽﾃﾝﾀｰ定員人	三幸の園ｶｰﾎｰﾙﾊﾞｰｽﾃｰｼﾞｮﾝ	訪問看護ｽﾃｰｼﾞｮﾝ大平台	地域包括支援センター大平台	ユニット型短期入所施設三幸の園	ライフケアゲージョ大平台	特別養護老人ホーム山崎園50床	ユニット型特別養護老人ホーム山崎園50床	短期入所施設山崎園20床	ユニット型短期入所施設山崎園10床	やまざきデｲｰﾋﾞﾝｸﾞｽﾃﾝﾀｰ定員35人	やまざきｶｰﾎｰﾙﾊﾞｰｽﾃｰｼﾞｮﾝ	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑやまざき9室ﾌﾞﾗﾝｸﾞ3人	山崎園居宅介護支援事業所	生活支援ハウス山崎6室	松崎ｸﾞﾗｰﾝﾍﾞｰｽﾞ定員42人	松崎指定居宅介護支援事業所	看護施設ｸﾞﾙｰﾌﾟ園110床	建設特別会計	
I：貸借対照表BS																										
①資産合計	5,795,208,593	104.5%	243,258,189	994,105,499	236,094,946	67,327,982	369,817,660	5,419,339	31,425,419	98,005,890	452,066,744	500,855,634	504,004,581	518,516,112	127,065,497	111,851,396	73,399,349	13,513,097	60,777,499	20,125,484	35,474,689	194,271,575	5,631,398	1,132,200,614		
拠点区分毎			243,258,189		1,297,528,427						1,457,590,686												199,902,973		1,132,200,614	
内 退職給付引当資産	20,872,263	108.6%	172,600	4,625,000	497,000	365,800	987,200	55,200	117,400	386,600	918,200	621,200	1,939,600	2,995,782	510,800	317,600	690,200	145,000	566,000	338,200	186,400	1,220,216	96,600	3,119,665		
内 移行時特別・施設設備整備・修繕積立・人件費積立	621,505,420	51.2%	220,000,000	67,505,420	97,350,000	32,000,000	13,150,000	0	3,000,000	0	0	0	3,000,000	53,000,000	24,000,000	13,500,000	3,000,000	0	0	5,000,000	0	6,000,000	1,000,000	80,000,000		
拠点区分毎			220,000,000		196,855,420					16,150,000													7,000,000		80,000,000	
②流動資産	996,994,921	103.9%	21,480,867	206,772,181	79,680,822	22,588,593	46,643,114	5,364,138	27,515,119	19,650,957	21,032,157	6,545,972	111,121,349	101,851,417	57,859,211	23,676,429	31,680,593	8,738,859	21,624,029	12,862,876	7,624,487	38,563,901	4,275,609	119,842,241		
内 現金・預金	756,463,576	103.0%	21,478,237	138,489,992	69,534,732	19,329,621	34,636,220	3,798,546	23,580,549	14,182,297	7,194,670	2,846,653	77,886,600	65,302,922	49,222,822	17,951,779	22,398,918	7,261,568	15,711,514	10,109,158	5,821,137	29,234,820	2,520,640	117,970,181		
③負債合計	340,445,794	220.6%	176,340	37,553,240	2,708,544	1,617,686	51,276,786	804,427	1,599,816	18,536,387	61,759,606	72,702,607	29,038,112	18,487,101	3,505,119	2,432,611	5,346,632	977,538	3,573,334	1,563,255	904,773	5,719,573	570,331	19,591,976		
拠点区分毎			176,340		41,879,470					206,679,629													6,289,904		19,591,976	
④流動負債	154,664,531	125.7%	3,740	32,928,240	2,211,544	1,251,886	10,036,495	749,227	1,482,416	5,055,408	11,050,434	10,310,849	27,098,512	15,491,319	2,994,319	2,115,011	4,656,432	832,538	3,007,334	1,225,055	718,373	4,499,357	473,731	16,472,311		
内 1年以内返済予定設備資金借入金	32,054,000						4,980,996			1,620,324	6,161,232	7,241,448	12,050,000													
内 貸与引当金	65,055,000			17,043,000	938,000	1,050,000	2,863,000	456,000	943,000	1,731,000	2,668,000	1,556,000	8,136,000	8,717,000	1,449,000	1,102,000	3,004,000	522,000	1,623,000	1,044,000	382,000	2,748,000	351,000	6,729,000		
⑤固定負債	185,781,263	594.1%	172,600	4,625,000	497,000	365,800	41,240,291	55,200	117,400	13,480,979	50,709,172	62,391,758	1,939,600	2,995,782	510,800	317,600	690,200	145,000	566,000	338,200	186,400	1,220,216	96,600	3,119,665		
⑥次期繰越活動収支差額	3,640,200,941	122.1%	23,081,849	539,344,421	103,661,494	24,651,090	305,390,874	4,614,912	26,825,603	79,469,503	390,307,138	379,344,693	287,794,983	346,824,598	78,608,674	74,542,895	41,523,703	9,126,734	42,331,692	13,562,229	20,252,533	182,552,002	4,061,067	662,328,254		
⑦純資産	5,454,762,799	101.2%	243,081,849	956,552,259	233,386,402	65,710,296	318,540,874	4,614,912	29,825,603	79,469,503	390,307,138	428,153,027	474,966,469	500,029,011	123,560,378	109,418,785	68,052,717	12,535,559	57,204,165	18,562,229	34,569,916	188,552,002	5,061,067	1,112,608,638		
拠点区分毎			243,081,849		1,255,648,957					1,250,911,057													193,613,069		1,112,608,638	
⑧自己資本（純資産）比率	94.13%	96.8%	99.9%	96.2%	98.9%	97.6%	86.1%	85.2%	94.9%	81.1%	86.3%	85.5%	94.2%	96.4%	97.2%	97.8%	92.7%	92.8%	94.1%	92.2%	97.4%	97.1%	89.9%	98.3%		
II：事業活動計算書PL																										
①サービス活動収支計（23年度以前は事業活動収入）	1,950,639,588	111.1%	1,231,500	472,703,892	71,634,944	19,458,888	81,098,322	11,454,742	24,979,183	46,978,354	77,599,987	38,584,823	220,451,389	257,174,813	65,096,738	38,413,191	62,738,630	10,886,858	42,902,847	15,915,970	10,188,200	63,552,301	10,356,933	307,237,083		
利用者一人当たりの事業収入				4,297,308	3,581,747		1,802,185				3,879,999	1,543,393	4,409,028	5,143,496	3,254,837	3,841,319	1,792,532		4,766,983		1,698,033	1,513,150		2,793,064		
拠点区分毎			1,231,500		563,797,724					280,695,411													73,909,234		307,237,083	
内 国庫補助金等取崩額（24年度よりマイナス費用計上）	51,476,191	101.4%	0	17,476,014	1,702,292	383,676	0	0	0	0	0	1,191,666	8,598,272	6,678,455	970,122	1,325,136	1,155,570	154,266	676,890	0	647,950	0	0	10,515,882		
②サービス活動費用計（23年度以前は事業活動支出）	1,870,585,120	112.9%	15,197,924	461,504,988	36,145,982	17,436,418	85,454,023	10,850,498	20,047,858	47,967,536	95,911,987	65,361,967	209,326,451	234,027,609	41,394,026	31,096,299	60,228,673	11,812,072	42,641,808	16,537,964	10,569,299	66,866,953	7,392,403	282,805,452	6,930	
拠点区分毎			15,197,924		515,087,388					325,593,869													74,259,356		282,805,452	
内 人件費	1,201,886,851	107.4%	11,941,204	307,313,669	21,215,860	15,802,659	53,770,311	9,910,861	17,243,949	30,227,864	59,496,259	24,369,091	146,463,913	155,432,584	26,823,411	21,085,086	47,245,668	11,004,052	31,200,928	15,633,953	6,181,375	50,533,095	6,363,147	132,627,912		
拠点区分毎			11,941,204		344,332,188					195,018,335													56,896,242		132,627,912	
内 経費（24年度より事業費＋事務費）	516,816,853	117.8%	3,045,671	131,776,976	12,523,345	1,267,501	17,697,902	939,637	2,655,793	13,467,534	17,951,916	25,510,980	54,756,690	60,694,037	13,016,893	7,115,833	11,654,225	724,211	10,323,167	512,331	3,725,908	10,424,348	969,445	116,062,510		
拠点区分毎			3,045,671		145,567,822					78,223,762													11,393,793		116,062,510	
内 減価償却費	197,622,184	135.4%	211,049	38,267,877	3,989,613	749,934	13,985,810	0	148,116	4,340,580	16,401,250	16,673,562	15,636,811	23,782,807	2,446,446	4,173,746	2,480,026	238,075	1,794,603	391,680	1,309,966	5,909,510	59,811	44,630,912		
拠点区分毎			211,049		43,007,424					51,549,318													5,969,321		44,630,912	
③サービス活動増減差額（23年度以前は事業活動収支差額）	80,054,468	80.8%	-13,966,424	11,198,904	35,488,962	2,022,470	-4,355,701	604,244	4,931,325	-989,182	-18,312,000	-26,777,144	11,124,938	23,147,204	23,702,712	7,316,892	2,509,957	-925,214	261,039	-621,994	-381,099	-3,314,652	2,964,530	24,431,631	-6,930	
拠点区分毎			-13,966,424		48,710,336					-44,898,458													-350,122		24,431,631	
④サービス活動外増減差額（23年度以前は事業活動外収支差額）	2,692,636	101.1%	2,432,769	458,637	1,653	3,193	-133,207	34	2,189	-26,127	-179,751	-66,627	75,705	733	572	210	38,409	62	-2,842	-27,513	58	41,705	20	72,448	306	
⑤特別増減差額（23年度以前は特別収支差額）	-16,436,058	9389.6%	-147,677,393	-69,430,260	-208,244,601	-2,830,682	230,511,673	16,500	-8,096,829	48,641,506	408,798,889	406,188,464	-113,005,507	-25,011,328	-134,000,000	-18,500,000	-1,500,001	-1,000,000	-9,997,001	-7,472,400	-500,000	-23,972,401	0	-39,982,401	-299,372,286	
⑥当期活動増減差額（23年度以前は当期活動収支差額）	66,311,046	65.3%	-159,211,048	-57,772,719	-172,753,986	-805,019	226,022,765	620,778	-3,163,315	47,626,197	390,307,138	379,344,693	-101,804,864	-1,863,391	-110,296,716	-11,182,898	1,048,365	-1,925,152	-9,738,804	-8,121,907	-881,041	-27,245,348	2,964,550	-15,478,322	-299,378,910	
⑦次期繰越活動増減差額（23年度以前は次期繰越活動収支差額）	3,640,200,941	122.1%	23,081,849	539,344,421	103,661,494	24,651,090	305,390,874	4,614,912	26,825,603	79,469,503	390,307,138	379,344,693	287,794,983	346,824,598	78,608,674	74,542,895	41,523,703	9,126,734	42,331,692	13,562,229	20,252,533	182,552,002	4,061,067	662,328,254		
事業利益率	4.10%		-1134.10%	2.37%	49.54%	10.39%	-5.37%	5.28%	19.74%	-2.11%	-23.60%	-69.40%	5.05%	9.00%	36.41%	19.05%	-8.50%	0.61%								